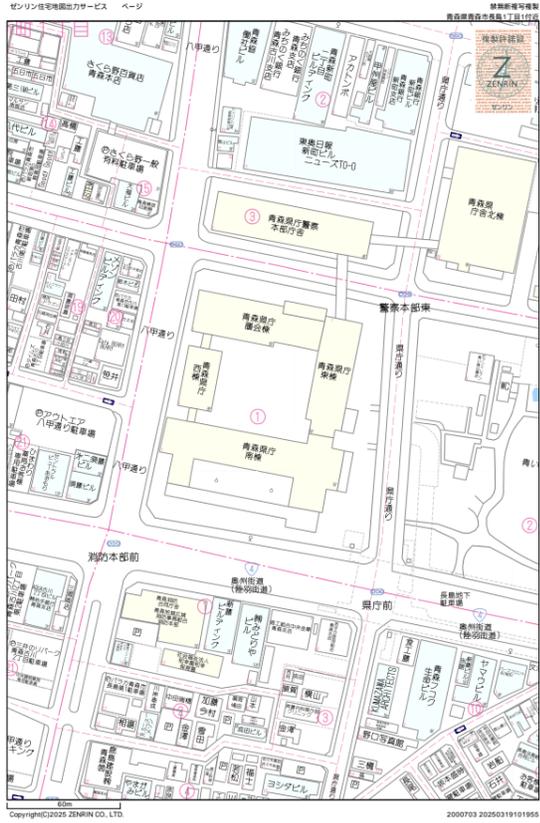


<p>県庁舎中庭発電機室解体工事特記仕様書</p> <p>I 工事概要</p> <p>1. 工事場所 青森市長島一丁目地内</p> <p>2. 敷地面積</p> <p>3. 工事種目 1)電気室 鉄筋コンクリート造 平屋建 取りこわし 1棟 延べ面積 383.60㎡ (電気、機械設備共)</p> <p>3)外構 ①舗装 1)アスファルト舗装(路面表示含む) 取りこわし一式 ②整地 一式 ③雑工作物 1)独立基礎関係 取りこわし一式 ④電気設備(屋外) 一式 (別仕様書による)</p> <p>4. 指定部分 ・有(無) 対象部分() 指定部分工期 年 月 日</p> <p>5. 工事範囲 すべての躯体(捨てコンクリートまでとし、砂利地業は除く)及び仕上げ材すべてとする。</p> <p>II 解体工事仕様</p> <p>(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「建築物解体工事共通仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。図面、本特記仕様書及び解体共通仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下「標準仕様書」という。)及び「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)による。</p> <p>(2) 本特記仕様書の表記 1) 項目は、・印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、・印の付いたものを適用する。 ・印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ・印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の《 . . . 》内表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 4) 特記事項に記載の(. . .)内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 5) 特記事項に記載の[. . .]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p>	<p>章 項目 特記事項</p> <p>1 適用基準 1)本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準図(令和4年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課</p> <p>2 騒音・粉じん等の対策 《2.2.1》 騒音・粉じん等の対策 ・防音パネル・防音シート・養生シート 設置範囲及び高さ ・図示(/ 図による) ・</p> <p>足場等 《2.2.4》 「手すり先行工法に関するガイドライン」について(厚生労働省 平成21年4月24日)の「(別紙)手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。</p> <p>山留めの撤去 《2.4.3》 鋼矢板等の抜き後の処理 ※直ちに砂等で充填する</p> <p>3 杭の解体 《3.9.2》 杭 ・行う 行わない 杭の解体工法 ・引抜き工法 粉砕による解体</p> <p>樹木等 《3.11.1》 樹木の伐採抜根及び移植 ・行う(/ 図による)</p> <p>地下埋設物・埋設配管 《3.12.1》 地下埋設物及び埋設配管の解体 ・行う(/ 図による)</p> <p>解体後の整地 《3.13.1》 解体後の埋戻し及び盛土 ・行う 整地高さ ・現状GL 図示(/ 図による) 埋戻し及び盛土の材料 ・山砂の類 ・他現場の建設発生土の中の良質土 ・再生コンクリート砂 埋戻し及び盛土に当たっては、各層30cm程度毎に締め固めること。 解体後の地均し ・基礎部分等の撤去範囲の地均しを行う ・敷地全体の地均しを行う ・敷地の地均しを行わない ・行わない</p> <p>5 施工計画調査 《5.1.2》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>調査を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※図示 工事対象範囲</td> </tr> </tbody> </table>	材料名	厚さ(mm)	調査を行う範囲			※図示 工事対象範囲	<p>6 石綿含有建材の除去工事</p> <p>《6.1.3》</p> <p>※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によって石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。 調査範囲(※施工範囲全て 図示) 貸与資料(・アスベスト関係材料調査票 既存図面)</p> <p>・分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト</p> <p>分析方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>定性分析方法</th> <th>定量分析方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>JIS A 1481-1またはJIS A 1481-2</td> <td>JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所 図示</p> <p>石綿粉じん濃度測定 《6.1.4》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定箇所数(各施工箇所ごと)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定2</td> <td>処理作業前</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>セキュリティゾーン入口</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定5</td> <td>処理作業中</td> <td>集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)</td> <td>出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定6</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室外・施工区画周辺・敷地境界</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定7</td> <td>処理作業後(シート養生中)</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定8</td> <td>処理作業後シート撤去後</td> <td>処理作業室内</td> <td>・計 点</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定9</td> <td>1週間以降</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>・計 点</td> </tr> </tbody> </table> <p>測定方法 ・自動測定器による測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・測定4 ・測定5</td> <td>粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td> </tr> </tbody> </table> <p>・JIS K 3850-1に基づいた測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>メンブレンフィルタ直径(mm)</th> <th>試料の吸引流量(L/min)</th> <th>試料の吸引時間(min)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・測定4 ・測定5</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・測定 ・</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>・測定 ・</td> <td>47</td> <td>10</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>・測定 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材料名	定性分析方法	定量分析方法		JIS A 1481-1またはJIS A 1481-2	JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4		・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数(各施工箇所ごと)	・	測定1	処理作業前	処理作業室内	・計 点	・	測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	・計 点	・	測定3	処理作業中	処理作業室内	・計 点	・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	・計 点	・	測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計 点	・	測定6	処理作業中	処理作業室外・施工区画周辺・敷地境界	・計 点	・	測定7	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	・計 点	・	測定8	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	・計 点	・	測定9	1週間以降	調査対象室外部の付近	・計 点	測定名称	測定方法	・測定4 ・測定5	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	測定名称	メンブレンフィルタ直径(mm)	試料の吸引流量(L/min)	試料の吸引時間(min)	・測定4 ・測定5	25	5	30	・測定 ・	25	10	120	・測定 ・	47	10	240	・測定 ・				<p>石綿含有吹き付け材の除去 《6.3.2.3》 除去対象範囲 図示 工法 破砕して除去 原型のまま手ばらし ※湿潤化 固化 除去した石綿含有吹き付け材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) ・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>石綿含有保温材等の除去 《6.4.1》 除去対象範囲 図示 工法 破砕して除去 原型のまま手ばらし 除去した石綿含有保温材等の飛散防止 ※湿潤化 固化 除去した石綿含有保温材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) ・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>石綿含有成形板の除去 《6.5.1》 除去対象範囲 図示 除去した石綿含有成形板の処分 ・石綿含有せつこうボード ※埋立処分(管理型最終処分場) ・石綿含有せつこうボードを除く石綿含有成形板 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>石綿含有仕上塗材の除去 《6.6.1》 除去対象範囲 図示 工法 集じん装置付き超高压水洗工法(100Mpa以上) ・湿式集じん装置付きディスクグラインダー工法 ・乾式集じん装置付きディスクグラインダー工法 ・剥離剤(薬品)工法 ・超音波クレン工法 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・埋立部分(安定型最終処分場) ・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>石綿含有の設備資機材の除去 アスベスト含有の設備資機材の処理については、取りこわし特記仕様書(電気設備の部)及び(機械設備の部)による。</p>									
	材料名	厚さ(mm)	調査を行う範囲																																																																																																								
			※図示 工事対象範囲																																																																																																								
			※図示 工事対象範囲																																																																																																								
			※図示 工事対象範囲																																																																																																								
		※図示 工事対象範囲																																																																																																									
材料名	定性分析方法	定量分析方法																																																																																																									
	JIS A 1481-1またはJIS A 1481-2	JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4																																																																																																									
	・ 箇所	・ 箇所																																																																																																									
	・ 箇所	・ 箇所																																																																																																									
	・ 箇所	・ 箇所																																																																																																									
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数(各施工箇所ごと)																																																																																																							
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	・計 点																																																																																																							
・	測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	・計 点																																																																																																							
・	測定3	処理作業中	処理作業室内	・計 点																																																																																																							
・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	・計 点																																																																																																							
・	測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計 点																																																																																																							
・	測定6	処理作業中	処理作業室外・施工区画周辺・敷地境界	・計 点																																																																																																							
・	測定7	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	・計 点																																																																																																							
・	測定8	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	・計 点																																																																																																							
・	測定9	1週間以降	調査対象室外部の付近	・計 点																																																																																																							
測定名称	測定方法																																																																																																										
・測定4 ・測定5	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																																																										
測定名称	メンブレンフィルタ直径(mm)	試料の吸引流量(L/min)	試料の吸引時間(min)																																																																																																								
・測定4 ・測定5	25	5	30																																																																																																								
・測定 ・	25	10	120																																																																																																								
・測定 ・	47	10	240																																																																																																								
・測定 ・																																																																																																											

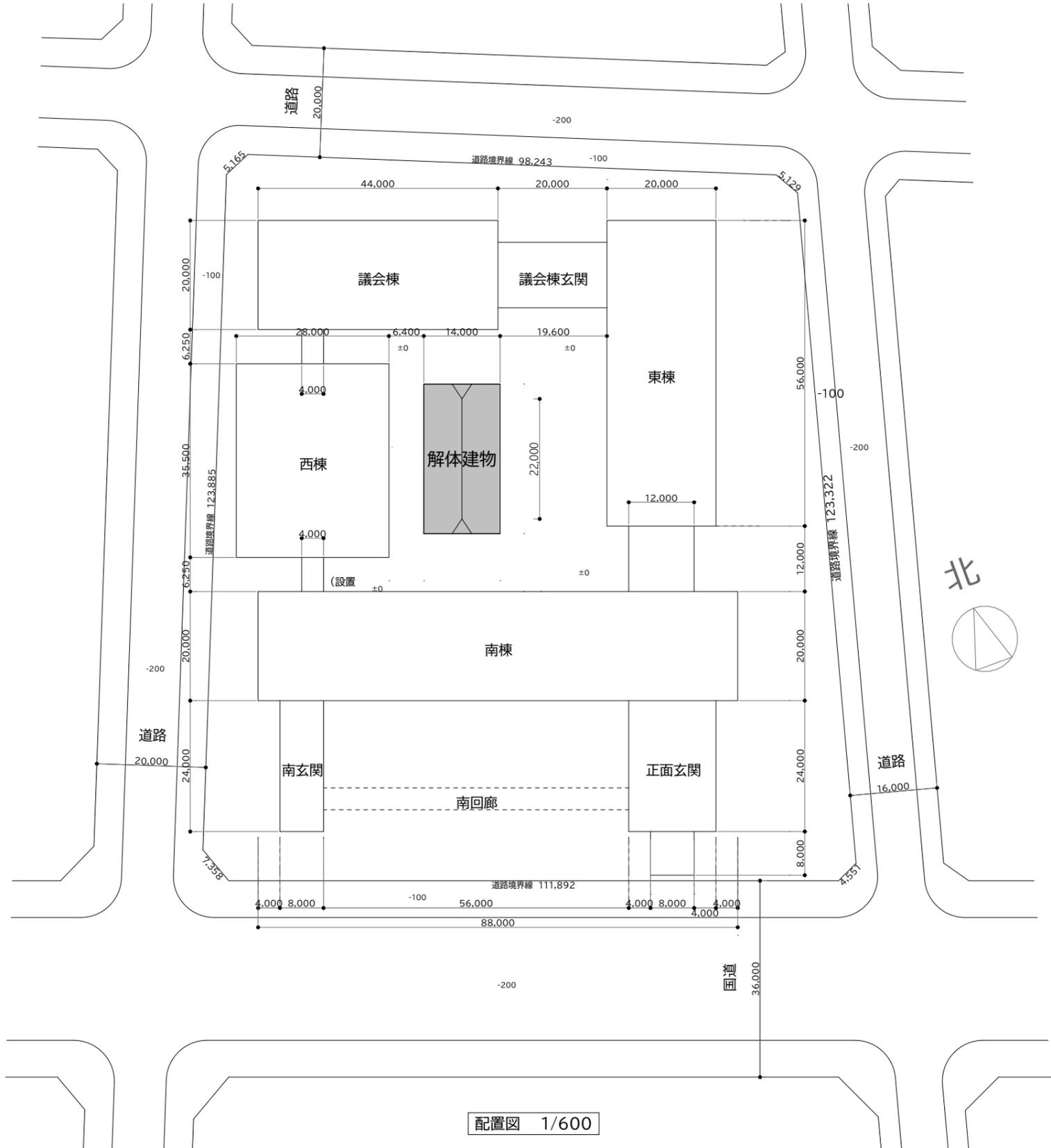
章	項目	特記事項																																																																																																											
一般共通事項	・産業廃棄物広域認定制度 ※解体工事施工技師	産業廃棄物広域認定制度により廃棄物を処理する場合は、事前に監督員と協議すること。 解体工事を適切に管理するため、解体工事施工技師を1名以上現場に配置すること。																																																																																																											
解体施工	○PCB含有シーリング材の撤去方法	※「標準施工要領書(日本シーリング工業協同組合連合会/日本シーリング材工業会)」による。 (撤去範囲 ※ 図示 ・)																																																																																																											
その他	○建設副産物の処理	取りこわしにより発生する建設副産物は、以下の施設での受入れとして積算している。 ・特定建設資材廃棄物 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>施設名称</th> <th>施設所在地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>株式会社 西田組</td> <td>青森市大字駒込字柳ノ沢155</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト、コンクリート塊</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建設発生木材</td> <td>株式会社 中野建設(福野)</td> <td>青森市大字小柳字龜山121-24、126、1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・最終処分する建設廃棄物 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>施設名称</th> <th>施設所在地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ロックワール</td> <td>株式会社 西田組</td> <td>青森市大字駒込字柳ノ沢155</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グラスワール</td> <td>株式会社 西田組</td> <td>青森市大字駒込字柳ノ沢155</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄屑</td> <td>株式会社 リー資源</td> <td>青森市駒込深沢5-303</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・処理に注意を要する建設廃棄物 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>施設名称</th> <th>施設所在地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CCA 処理木材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ひ素・カドミウム含有石膏ボード</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石膏ボードの処理</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・特別管理産業廃棄物 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>施設名称</th> <th>施設所在地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃油</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃酸</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃アルカリ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン含有廃棄物</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・アスベスト含有建材 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>施設名称</th> <th>施設所在地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・特殊な建築副産物 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>施設名称</th> <th>施設所在地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考	コンクリート塊	株式会社 西田組	青森市大字駒込字柳ノ沢155		アスファルト、コンクリート塊				建設発生木材	株式会社 中野建設(福野)	青森市大字小柳字龜山121-24、126、1		名 称	施設名称	施設所在地	備 考	ロックワール	株式会社 西田組	青森市大字駒込字柳ノ沢155		グラスワール	株式会社 西田組	青森市大字駒込字柳ノ沢155		鉄屑	株式会社 リー資源	青森市駒込深沢5-303		名 称	施設名称	施設所在地	備 考	CCA 処理木材				ひ素・カドミウム含有石膏ボード				石膏ボードの処理				名 称	施設名称	施設所在地	備 考	廃油				廃酸				廃アルカリ				ダイオキシン含有廃棄物				名 称	施設名称	施設所在地	備 考													名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																																																																																																										
コンクリート塊	株式会社 西田組	青森市大字駒込字柳ノ沢155																																																																																																											
アスファルト、コンクリート塊																																																																																																													
建設発生木材	株式会社 中野建設(福野)	青森市大字小柳字龜山121-24、126、1																																																																																																											
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																																																																																																										
ロックワール	株式会社 西田組	青森市大字駒込字柳ノ沢155																																																																																																											
グラスワール	株式会社 西田組	青森市大字駒込字柳ノ沢155																																																																																																											
鉄屑	株式会社 リー資源	青森市駒込深沢5-303																																																																																																											
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																																																																																																										
CCA 処理木材																																																																																																													
ひ素・カドミウム含有石膏ボード																																																																																																													
石膏ボードの処理																																																																																																													
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																																																																																																										
廃油																																																																																																													
廃酸																																																																																																													
廃アルカリ																																																																																																													
ダイオキシン含有廃棄物																																																																																																													
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																																																																																																										
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																																																																																																										



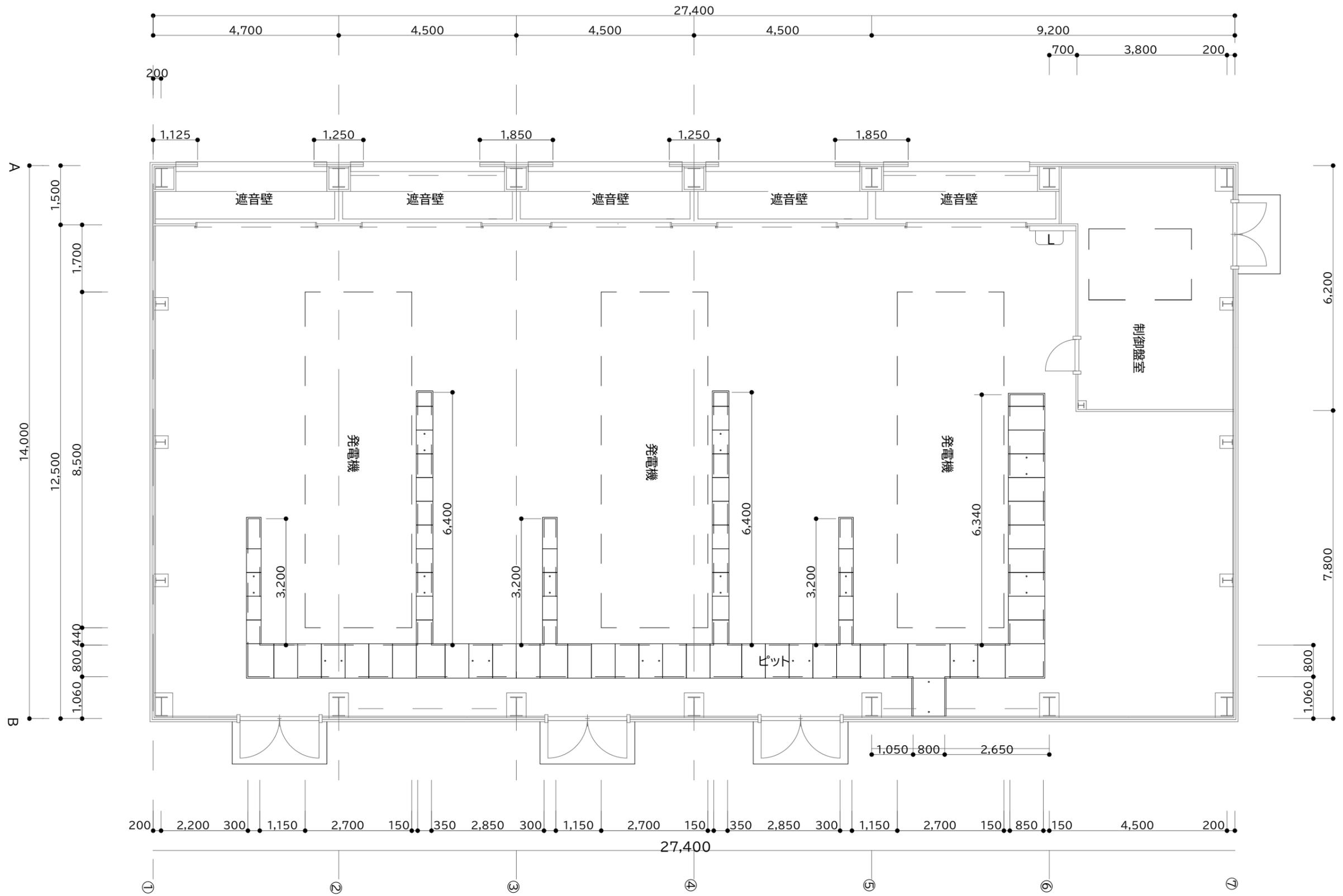
案内図

建物概要

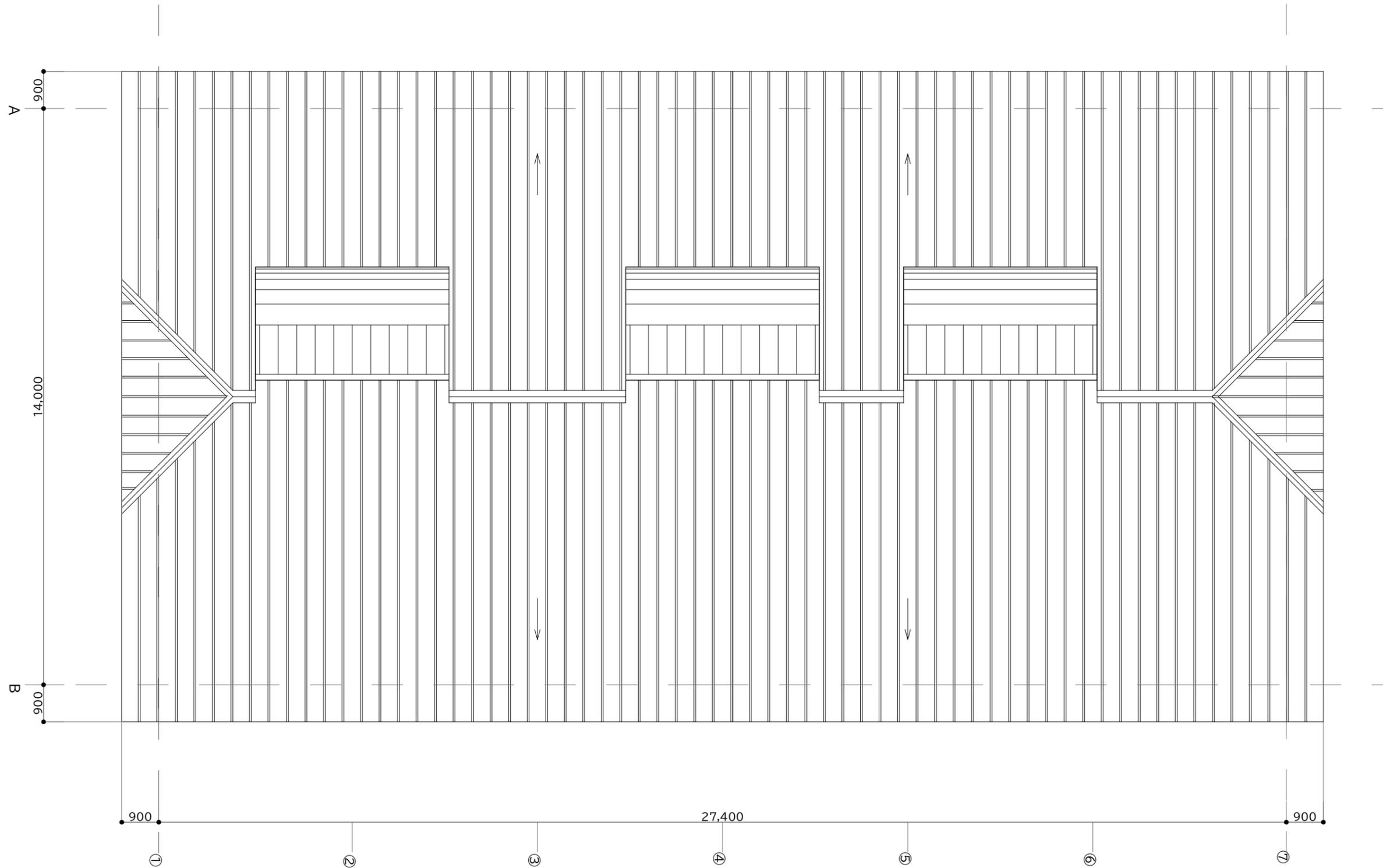
工事場所	青森市長島1丁目1-1	
用途地域	商業地域(容積率600% 建蔽率80%)	
防火地域	防火地域	
主要用途	発電気室(倉庫)	
構造	鉄骨造平家建 耐火構造	
敷地面積	14,772.04 m ²	
建築面積	新築 383.6 m ² 既存建物 7,130.83 m ² 計 7,514.43 m ²	
建ぺい率	14,772.04 x 0.8 = 11,817.63 > 7514.43 OK	
延床面積	解体部分 383.6 m ² 既存建物 36,401.3 m ² 計 36,784.9 m ²	
B1F	3,988.83 m ²	
1F	383.6 m ²	6,074.1 m ²
2F		5,174.47 m ²
3F		5,075.9 m ²
4F		4,430.51 m ²
5F		4,363.61 m ²
6F		4,802.79 m ²
7F		1,070.7 m ²
8F		1,069.57 m ²
9F		293.62 m ²
PH1F		57.2 m ²
容積率	14,772.04 x 6 = 88,632.24 > 36,784.90 OK	



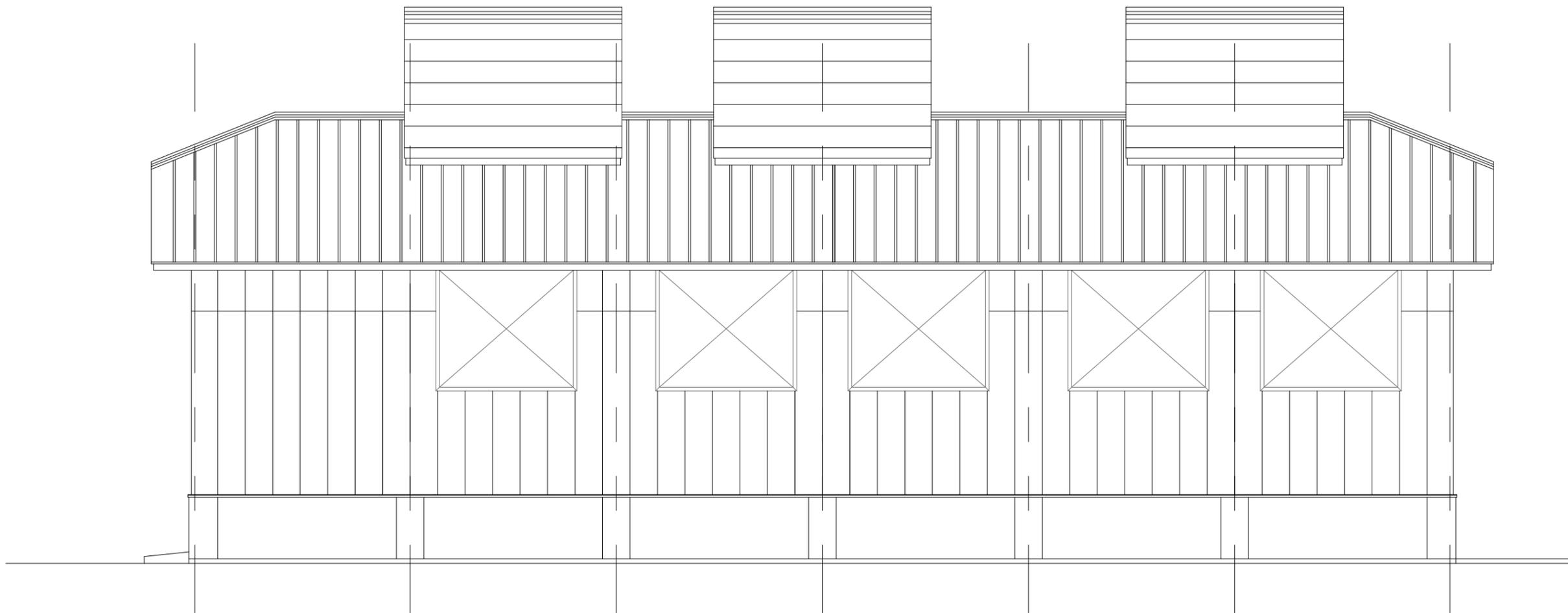
配置図 1/600



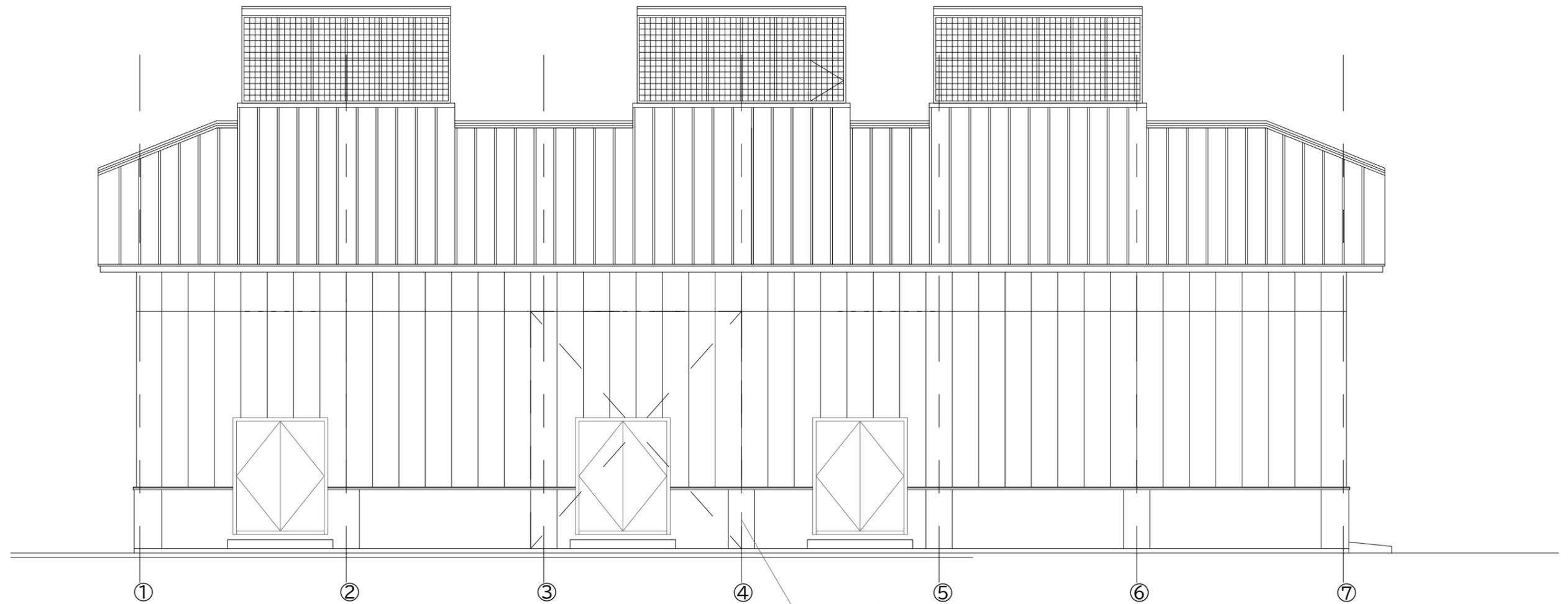
平面図 1/100



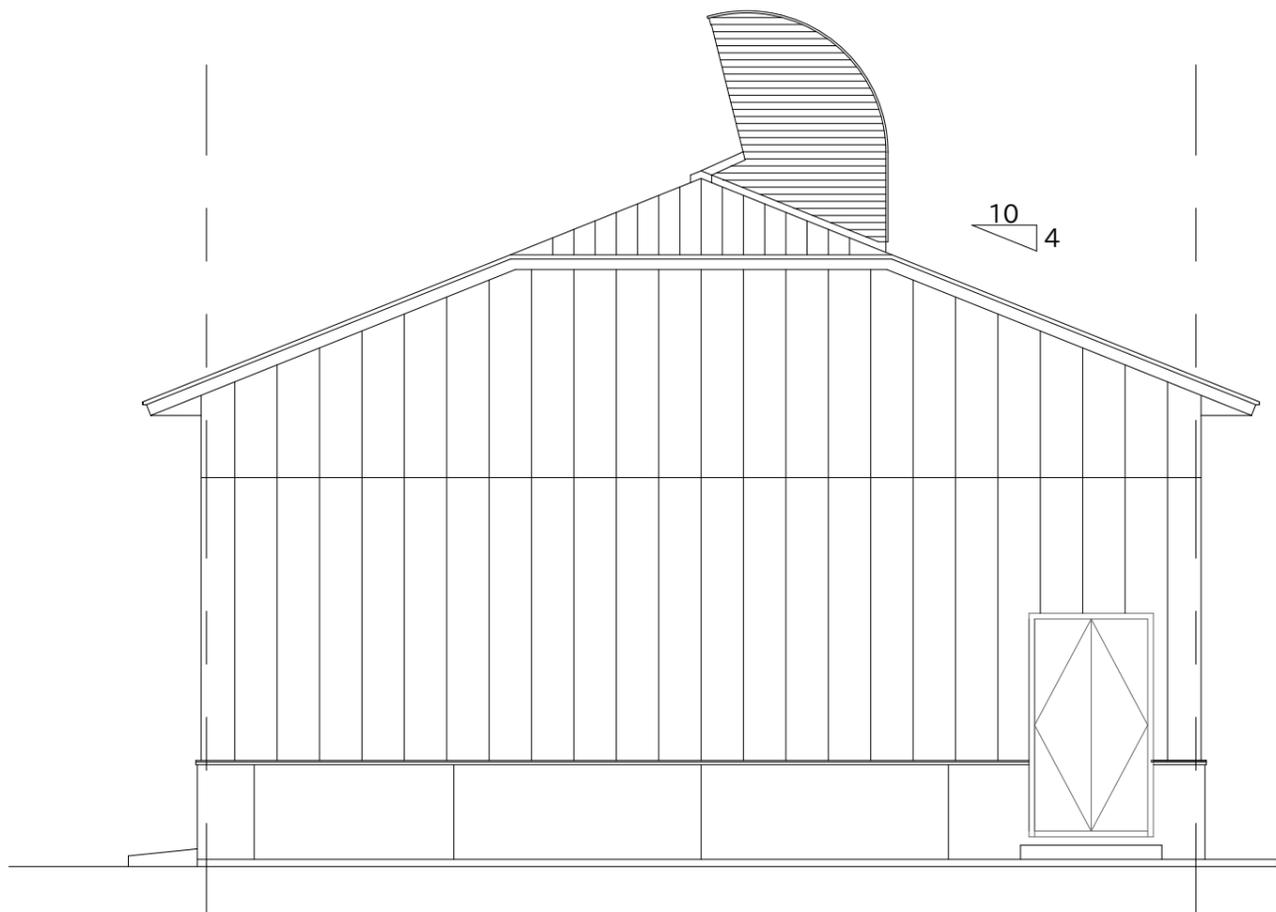
屋根伏図 1/100



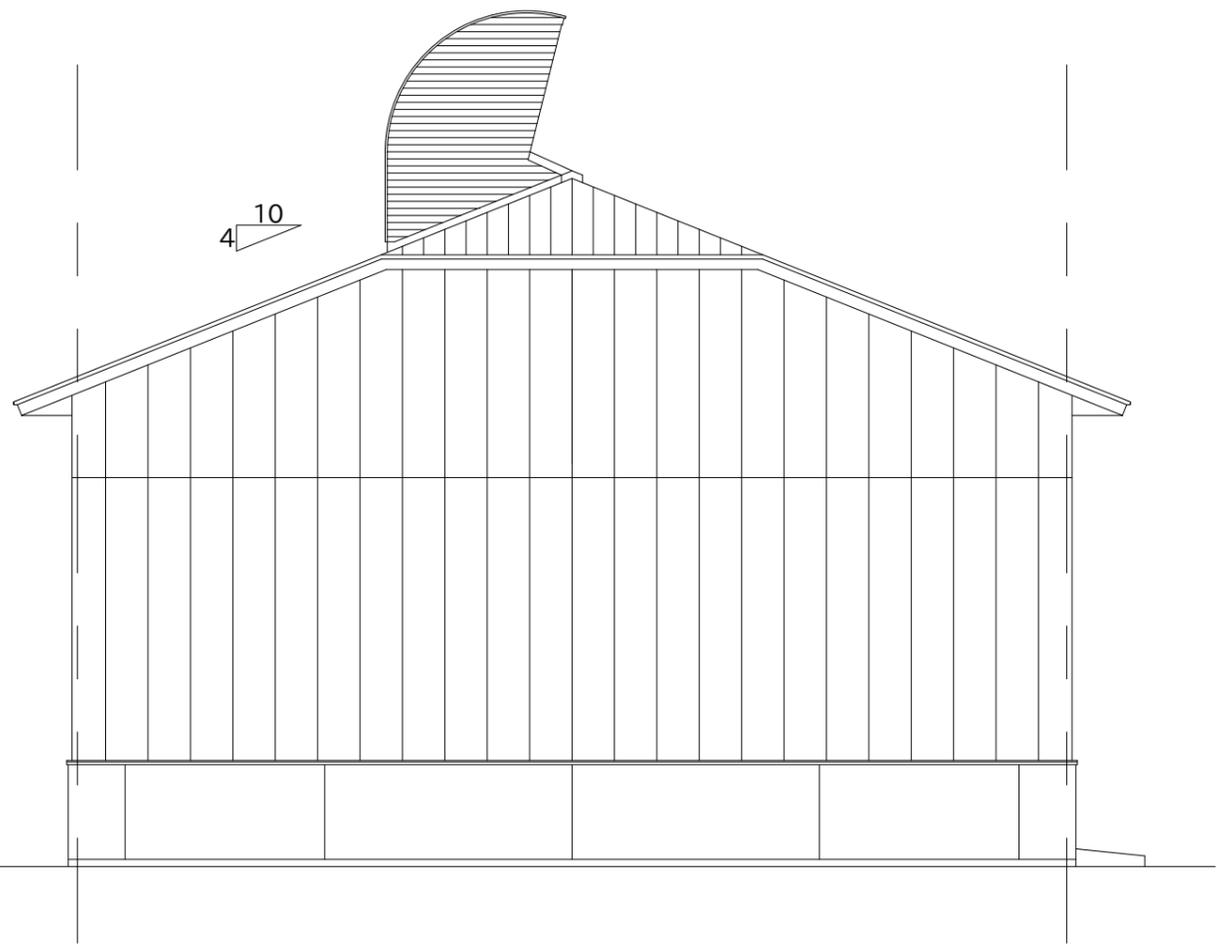
西立面図 1/100



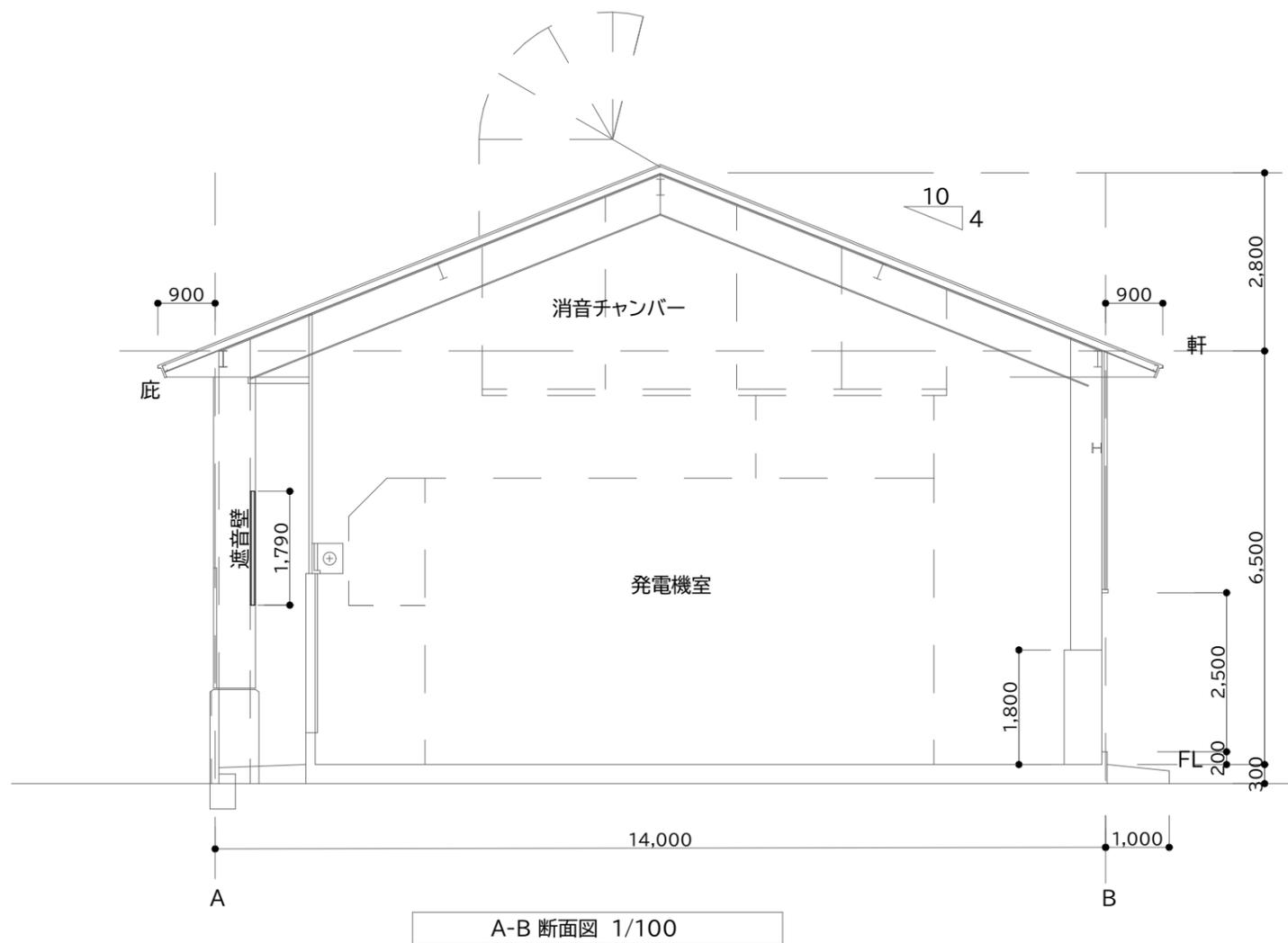
東立面図 1/100

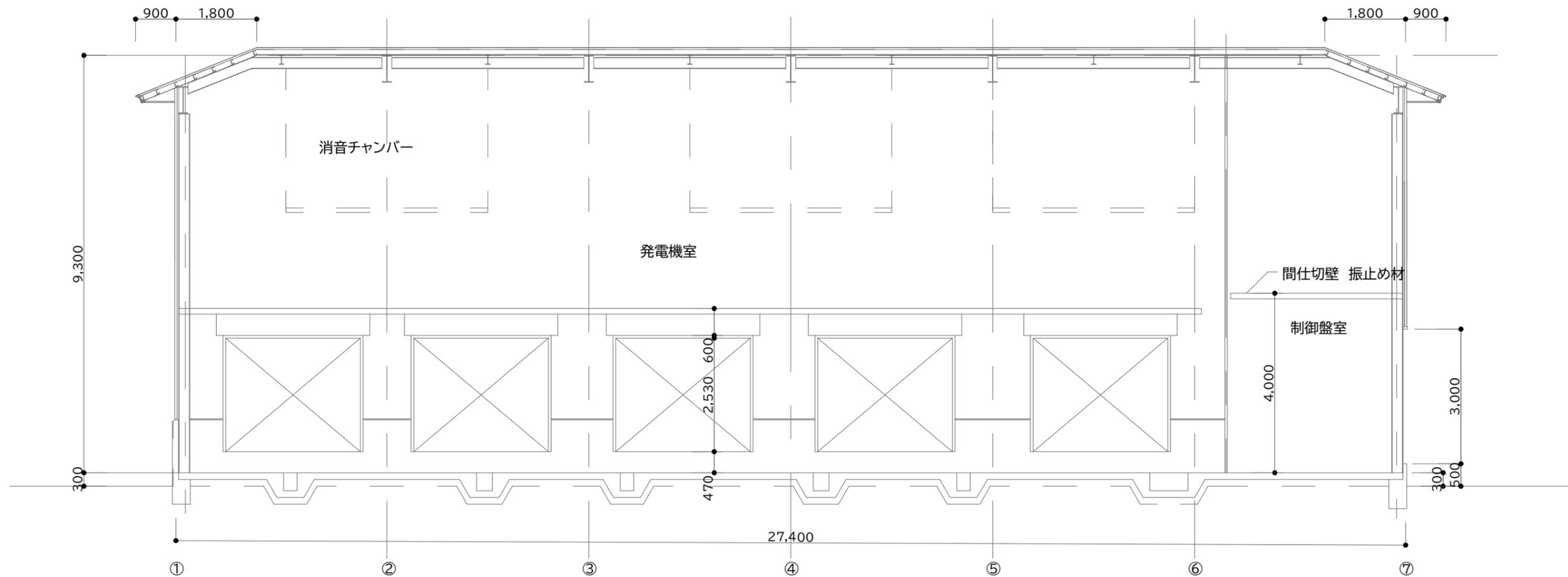


北立面図 1/100



南立面図 1/100

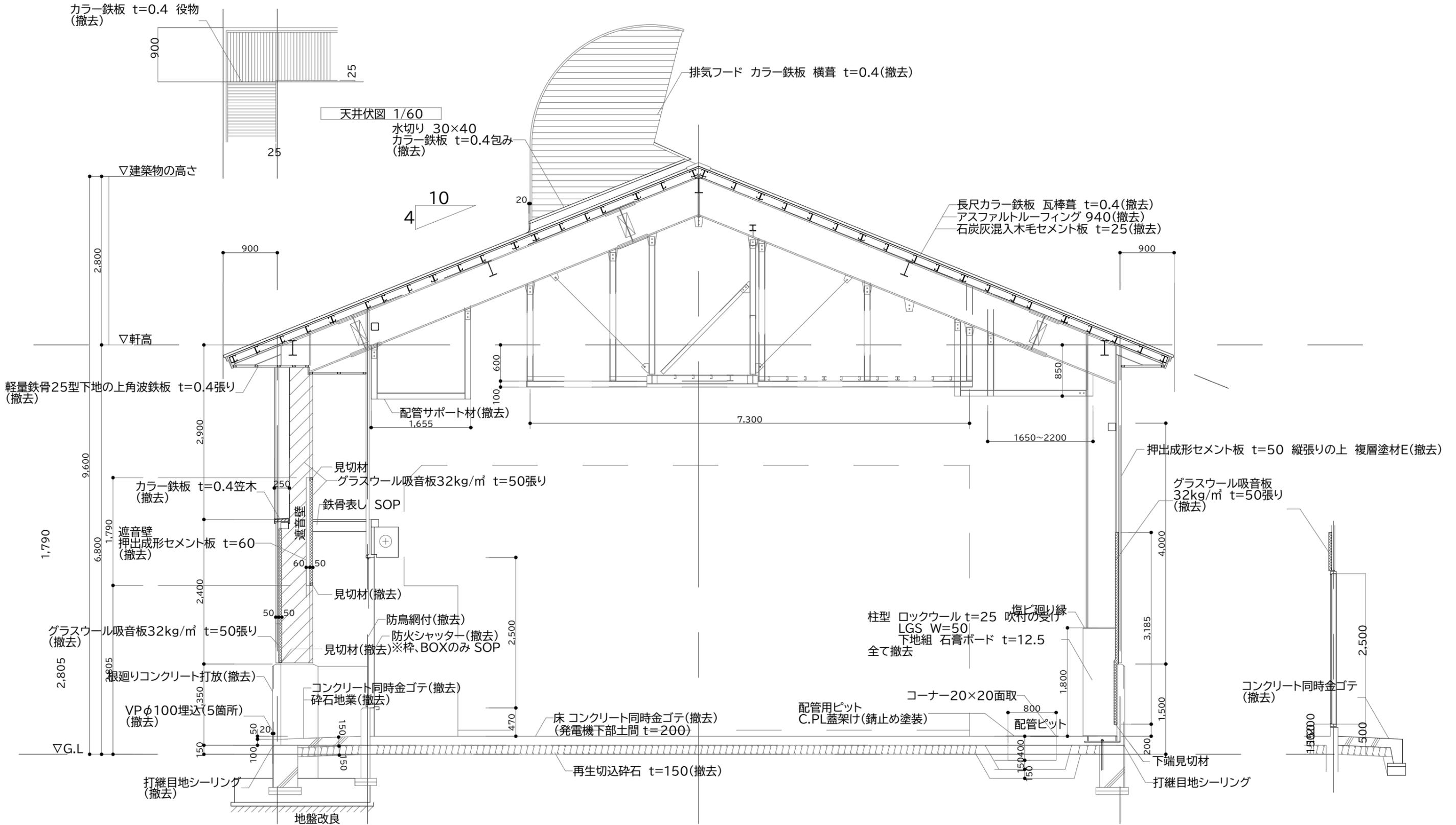




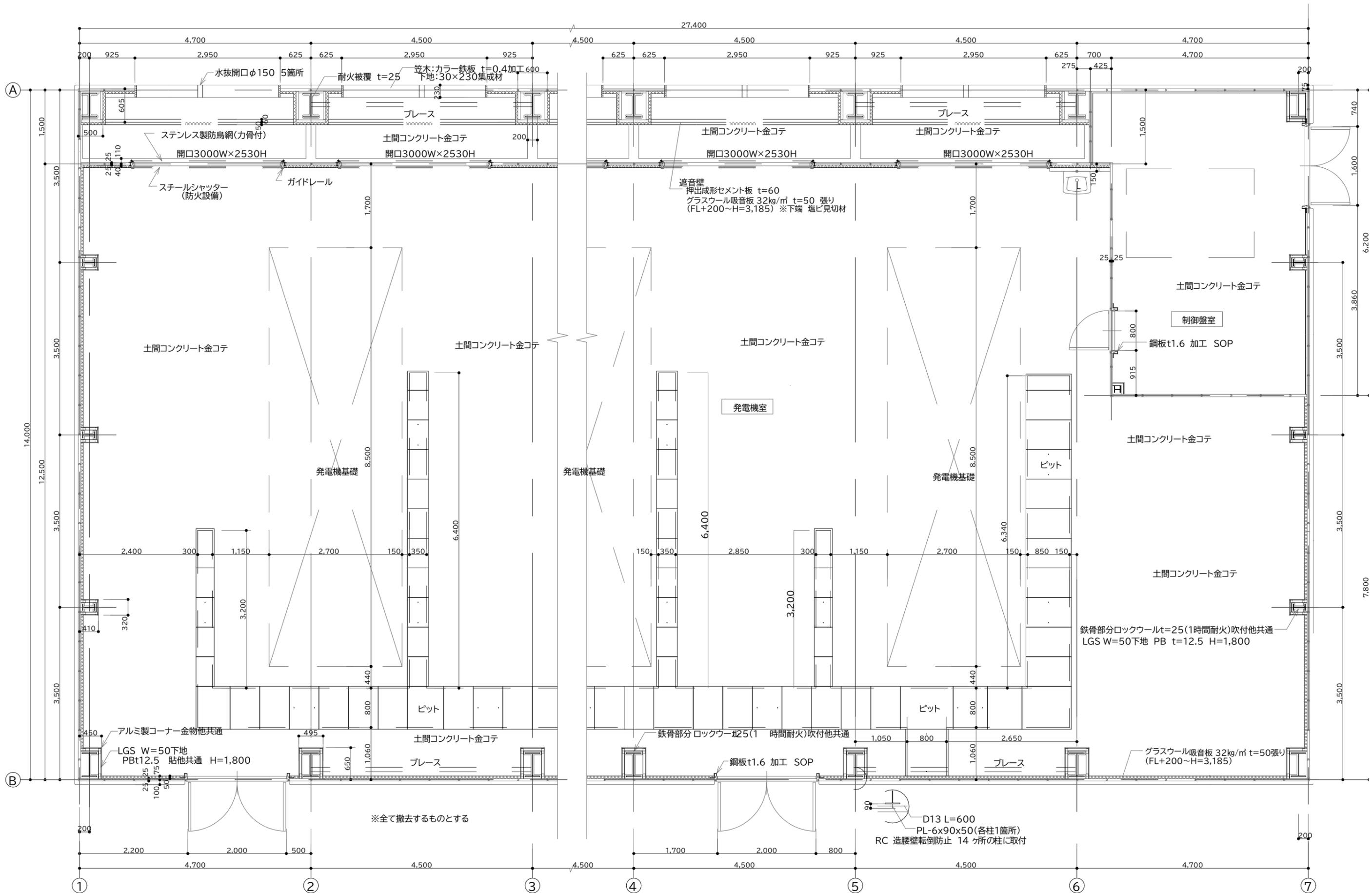
1-7 断面図 1/100

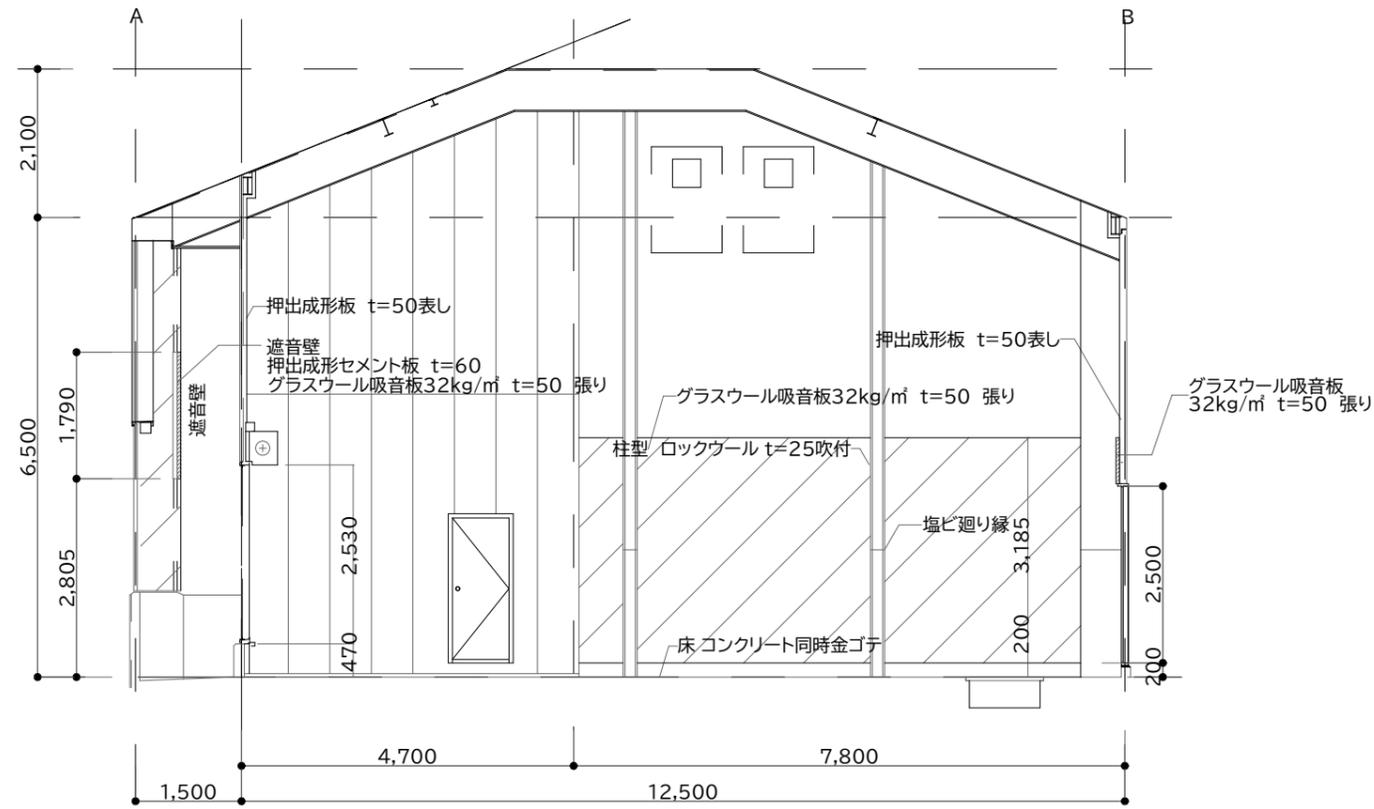
内部仕上表	
発電機室	
床	コンクリート同時金ゴテ
巾木	立上りコンクリート打放し H=200
壁	押出し成形セメント板 t=50 表し グラスウール吸音板 t=50、32kg/m ³ 張り(FL+200~H=3,185まで) ※下端 塩ビ見切材
柱型	ロックウール t=25 吹付の上 LGS W=50 下地組石膏ボード t=12.5貼り H=1,800
天井	小屋組表し 母屋・梁型 錆止め×2回仕上
備考	配管用ピット C.PL蓋架け(錆止め塗装)
制御盤室	
床	コンクリート同時金ゴテ
巾木	立上りコンクリート打放し H=1200
壁	押出し成形セメント板 t=50 表し
柱型	ロックウール t=25 吹付の上 LGS W=50 下地組石膏ボード t= 12.5貼り H=1,800
天井	小屋組表し
備考	
消音チャンバー室	
床	鉄板 t=1.2 貼りの上 グラスウール32kg/m ³ t=50 クロス貼化粧ピン止
壁	LGS W=65 の上 グラスウール32kg/m ³ t=50 クロス貼化粧ピン止 ※シーリング石膏ボード(準不燃)捨張り
天井	鉄骨母屋 の上 グラスウール32kg/m ³ t=50 排気フード内貼共 ※シーリング石膏ボード(準不燃)捨張り
その他	1ヶ所 スチール製 タラップ OP (H=4.5 W=400) 雨受け鉄板 t=0.4 (2,400 × 4,100) × 3ヶ所

外部仕上表			
屋根	長尺カラー鉄板 t=0.4 瓦葺き 下地板:石炭灰混入木毛セメント板 t=25 の上アスファルトルーフィング 940		
軒天	軽量鉄骨25型下地組の上角波鉄板 t=0.4 張り		
外壁	押出し成形セメント板 t=50 縦張りの上 複層塗材E 遮音壁部分:押出し成形セメント板 t=60 横張りの上 複層塗材E		
建具	スチール製建具 SOP 給気チャンバー 防火シャッター(ヒューズ付)		
給気チャンバー	床:コンクリート同時金ゴテ仕上げ 開口部:防火シャッター、BOX枠のみSOP 防鳥網付 ※ 東面グラスウール吸音板t=50、32kg/m ² 張り		
根廻り	コンクリート打放しの上 浸透性保護材塗		
犬走り	出入口 コンクリート同時金ゴテ		
その他	排気フード(カラー鉄板 t=0.4 横葺き、一部平葺き鉄骨下地共) 防鳥網付 3台		
耐火認定番号			
石炭灰混入木毛セメント板 t=25	30分耐火	FP030RF-9131同等品	
柱:ロックウール吹付 t=25(ノンアスベスト)	1時間耐火	FP060CN-9460同等品	Ⅰとする
内、外壁:押出成形セメント板 t=50	30分耐火	FP030NE-9168同等品	
防火材料認定番号			
角波鉄板 t=0.4	不燃材料		
塗装凡例			
SOP	合成樹脂調合ペイント2回塗 素地C種		
VE	塩化ビニル樹脂エレメント2回塗 素地B種		



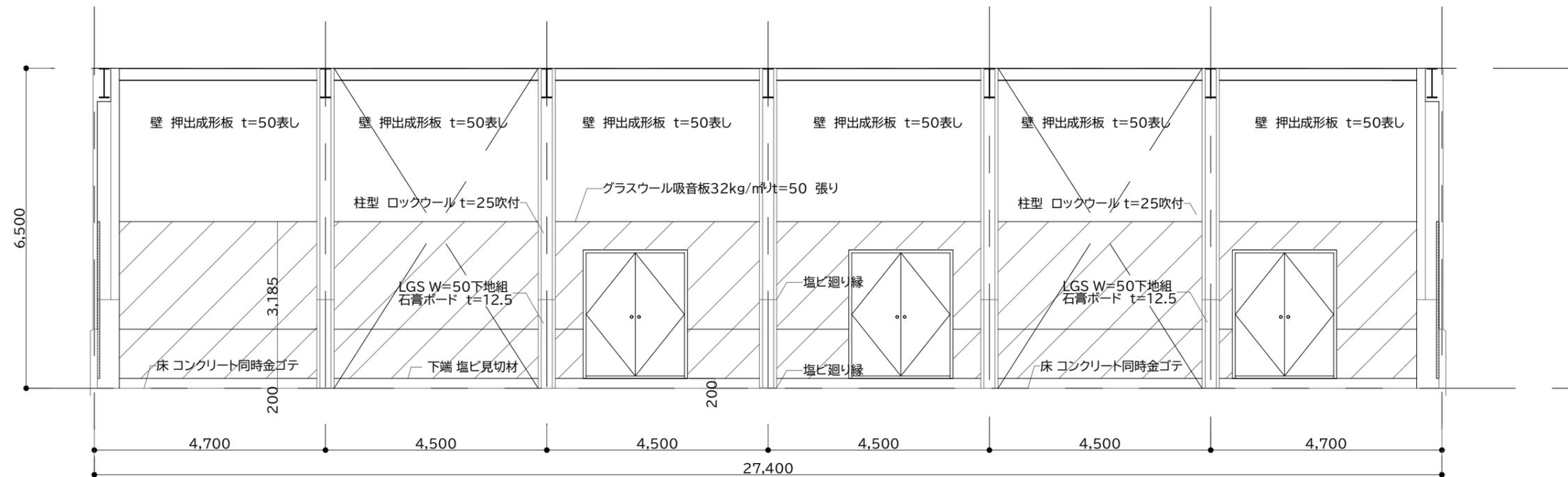
矩計詳細図 1/60



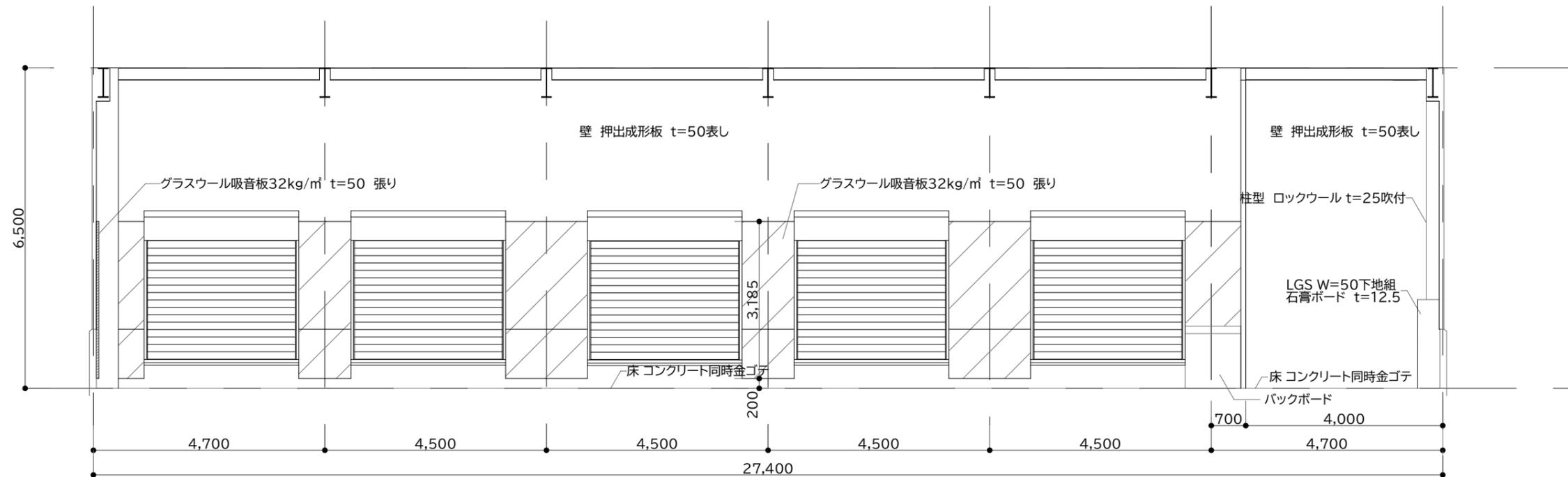


発電機室A面

※全て撤去するものとする

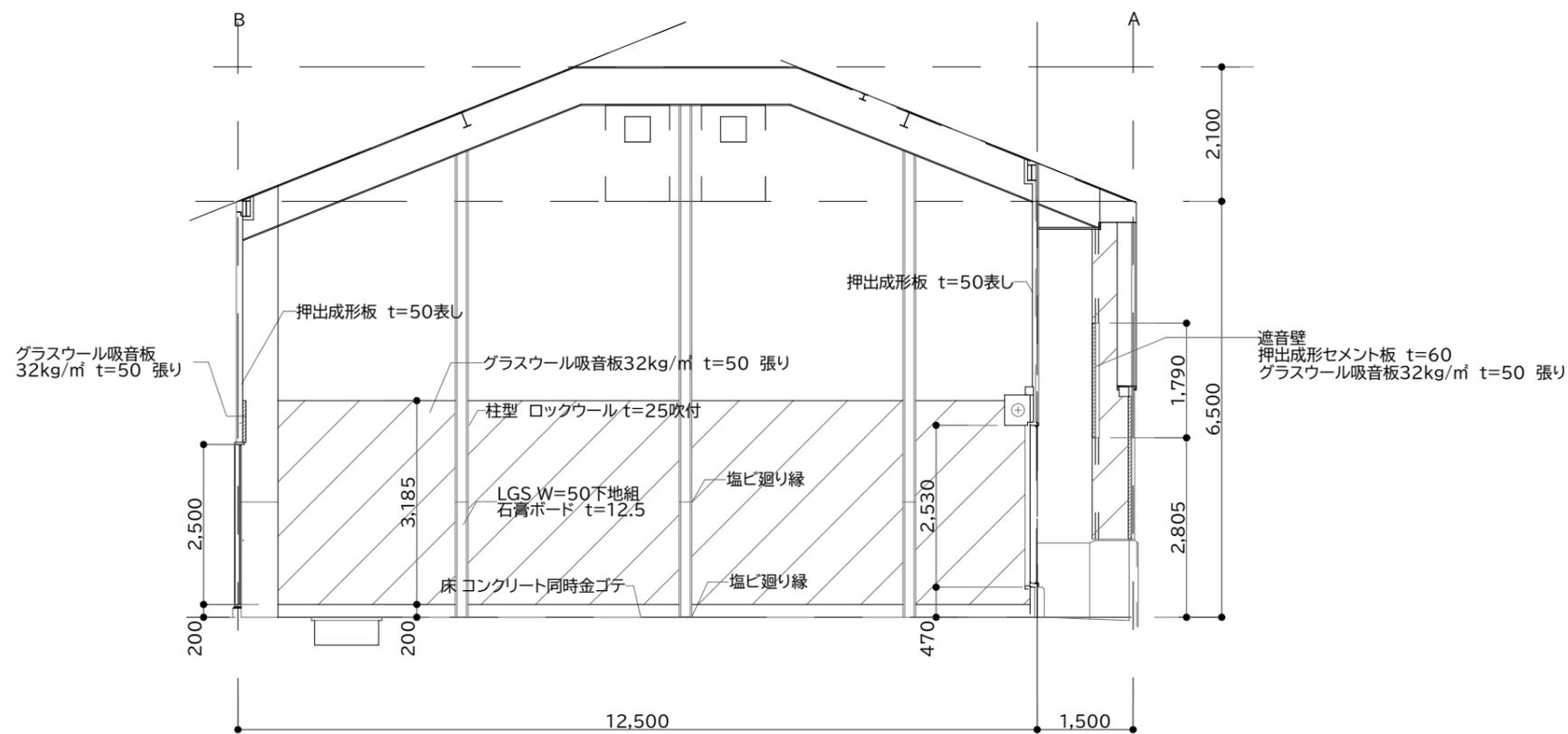


発電機室B面



発電機室C面

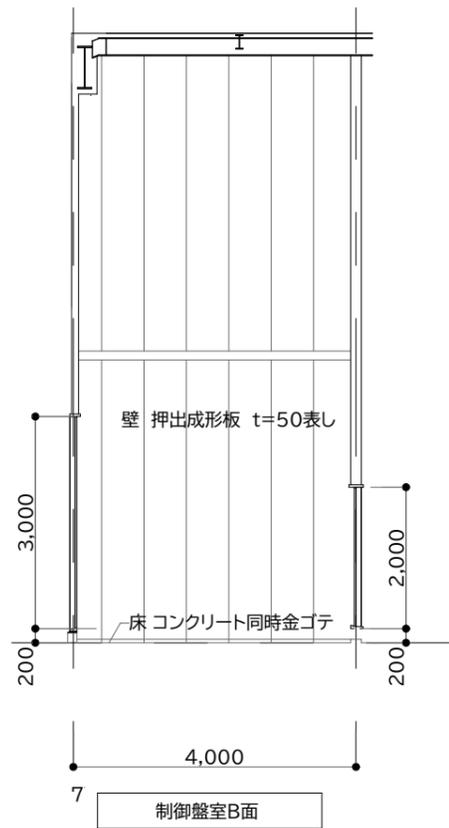
※全て撤去するものとする



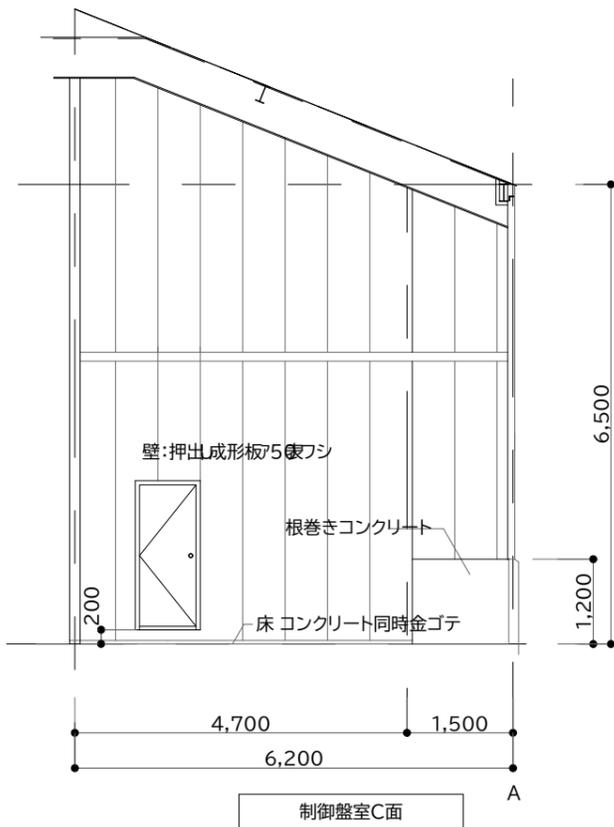
発電機室D面



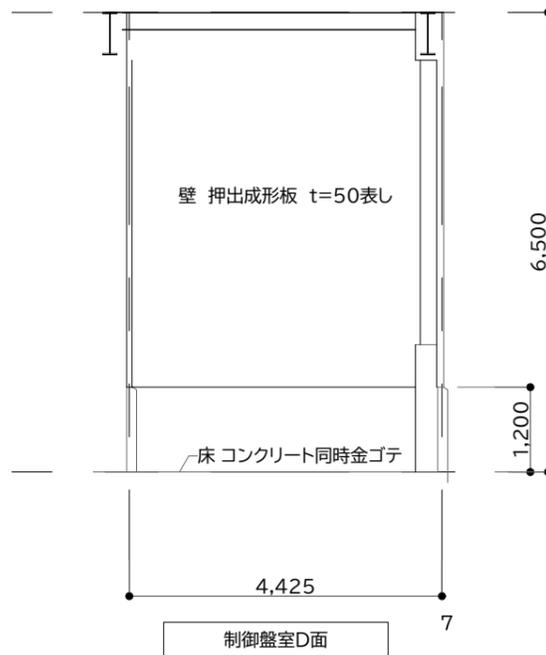
制御盤室A面



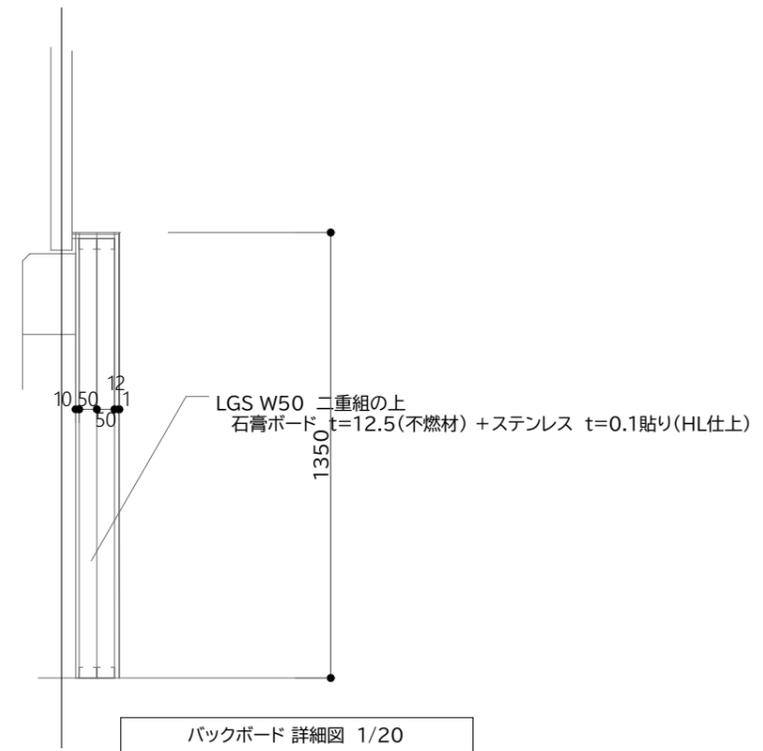
制御盤室B面



制御盤室C面



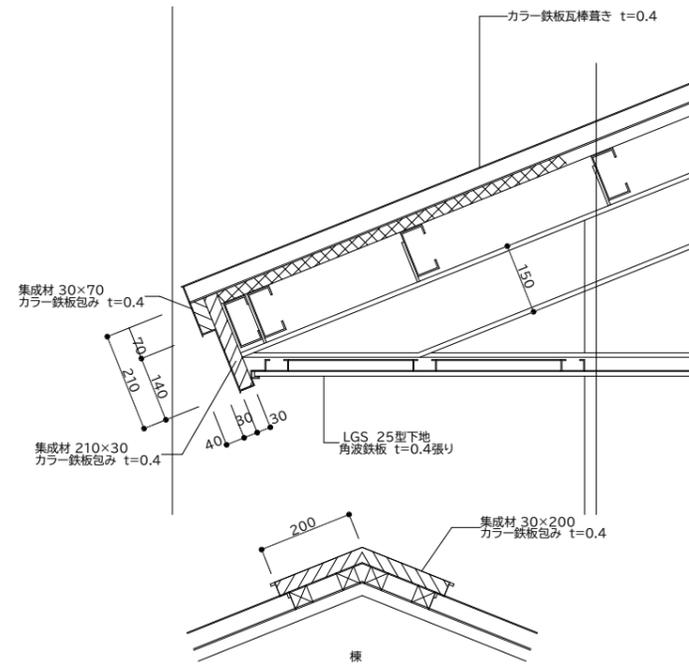
制御盤室D面



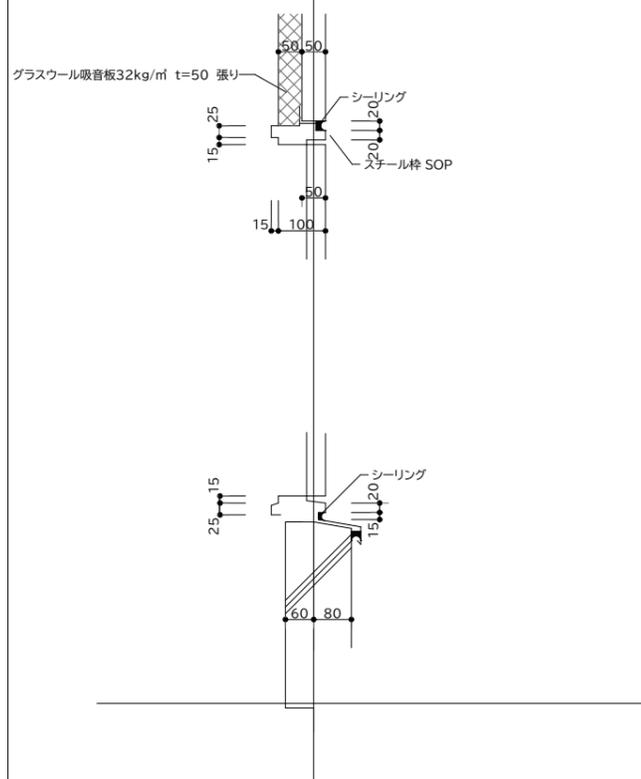
バックボード 詳細図 1/20

※全て撤去するものとする

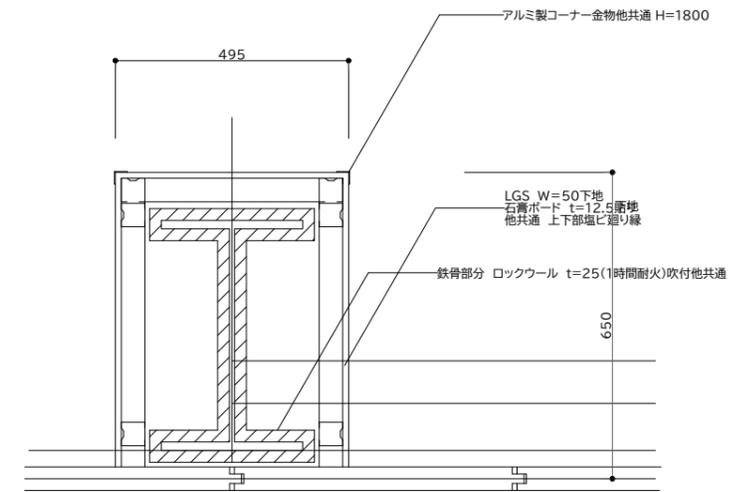
屋根・軒先 詳細図 1/10



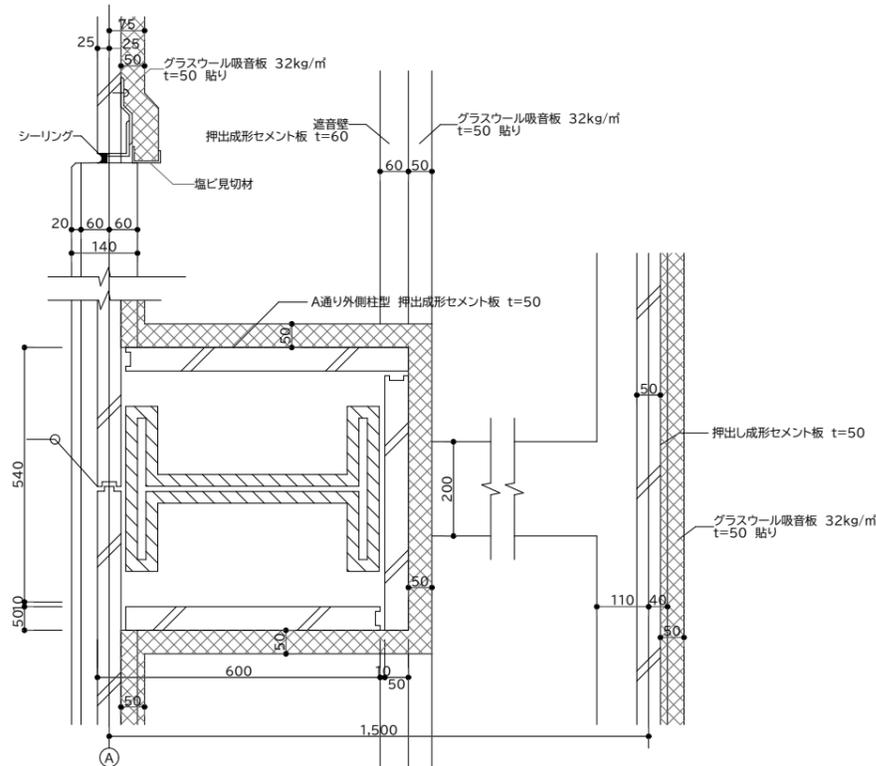
出入口 詳細図 1/10



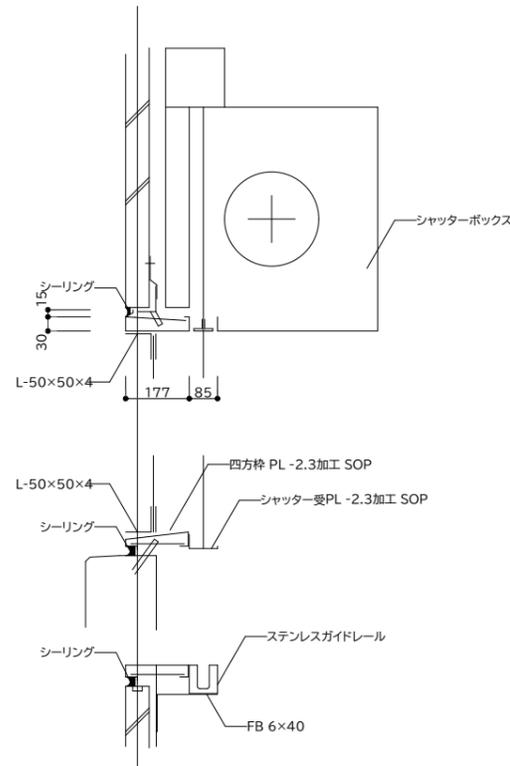
内部柱仕上げ 詳細図 1/10



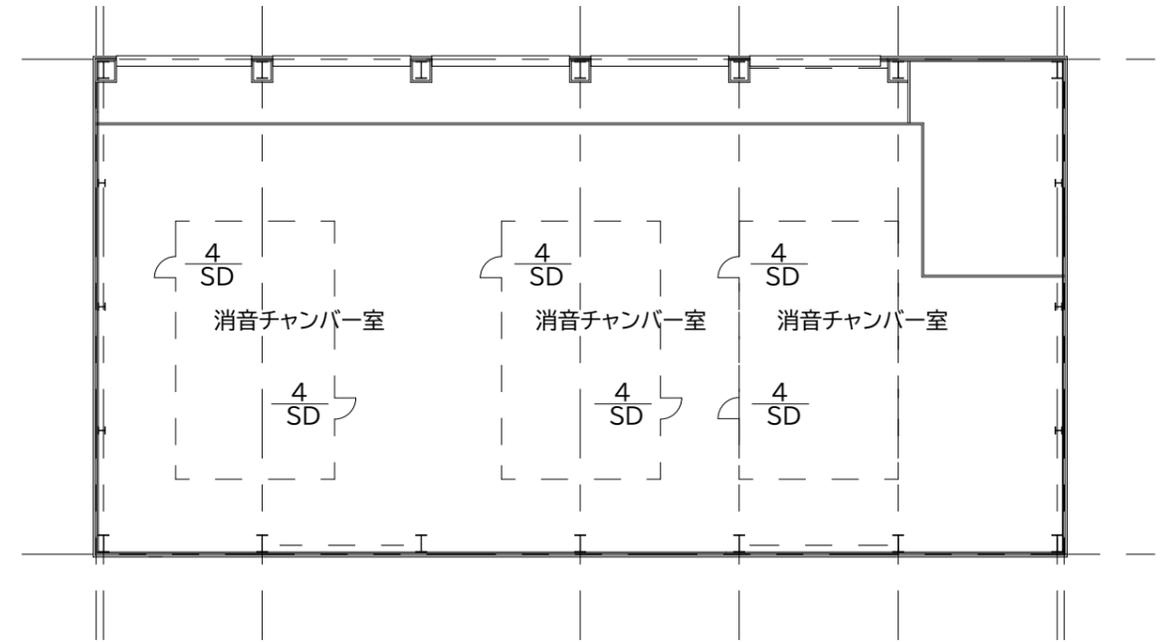
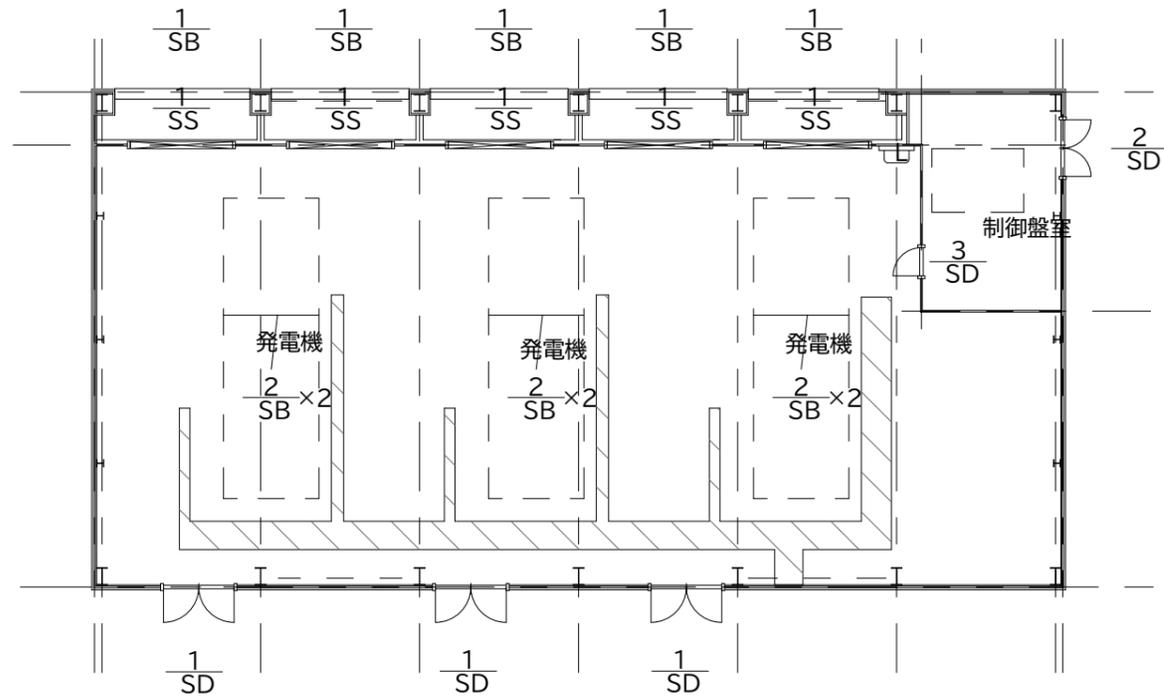
押出し成形セメント板 外壁・柱型 詳細図 1/10



給気ダンパー 詳細図 1/10



※全て撤去するものとする



※全て撤去するものとする

建具表 1/100				
符号 数量	1/SD 3ヶ所	2/SD 1ヶ所	3/SD 1ヶ所	4/SD 消音チャンバー室 6ヶ所
形状 寸法				
種別方式	スチール製建具 両開扉※内額付	スチール製建具 両開扉	スチール製建具 片開扉	スチール製建具 片開扉
硝子・仕上	鉄板 t=1.6フラッシュ SOP	鉄板 t=1.6フラッシュ SOP	鉄板 t=1.6フラッシュ SOP	鉄板 t=1.6フラッシュ SOP グラスウール32kg/m充填
金物	付属金物一式・ステンレス滑車 t=2.0加工・シリンダー錠	付属金物一式・ステンレス滑車	付属金物一式・ステンレス滑車W40 t=2.0・シリンダー錠	付属金物一式
概要	見込み 110	見込み 110	見込み 100	見込み 133
符号 数量	1/SS 5ヶ所	1/SB 5ヶ所	2/SB 6ヶ所	
形状 寸法				
種別方式	スチール製建具 手動式防火シャッター	ステンレス製 防鳥網	ステンレス製 防鳥網	
硝子・仕上	スラット t=1.6			
金物	付属金物一式・シャッターボックス・ガイドレール SOP	アングル L-50×50×4 SOP	アングル L-50×50×4 SOP	
概要	熱感知ヒューズ付・スチール製網一式		開き扉付(1ヶ所)	

発電機据付工事特記仕様書-1/2

- 1、 工事名称 青森県庁舎及び警察本部庁舎ESCO事業 コージェネレーションシステム設備工事
 2、 工事場所 青森県青森市長島1丁目1番1外
 3、 工事期間 平成17年12月～平成18年4月
 4、 法規制 消防法： 危険物一般取扱所 火災予防条例（発電設備）
 建築基準法 （別途建屋）
 騒音・振動規制法 地域 屋間： dB 夜間 dB
 労働安全衛生法 ボイラー安全規則

5、 総則

- (1) 請負者は、基本計画書をもとに現場を十分調査し「実施設計図」及び「施工図」を作成し係員の承認をうけた後、施工を行うものとする。
- (2) 本工事は、設計図書、特記仕様書の他、下記の図書に基づいて施工する。
 国土交通省大臣官房庁営繕部監修、「建築工事共通仕様書」
 同上 「電気設備共通仕様書」、「電気設備標準図」
 同上 「機械設備共通仕様書」、「機械設備標準図」
 尚、現場説明書質疑回答書、追加変更指示書がある場合にはそれらを優先するものとする。
- (3) 設計図書に記載の無い事項で技術上、外観上当然施工しなければならないものは、請負者の負担において施工すること。尚軽微な変更による請負金の増減はおこなわない。
- (4) 工事に必要な官公庁などへの手続きは請負者が代行し、請負者の負担において速やかにおこなうこと。
- (5) 工事着手前に施工図、製作図、性能表、計算書、メーカーリスト、施工計画書、施工要領書、工程表を提出し、承認を得ること。
- (6) 完成図書
 竣工後、次記書類を 20日以内 に作成し係員の承認を得て提出すること。

完成図書 (I) 発電装置編	機器完成図 取り扱い説明書 (発電装置) 試験成績表	(A4バインダーファイル) 4部
完成図書 (II) 据付工事編	設計図修正版及び施工図 (CADデータ) 竣工図 建築工事 電気工事 排熱利用配管工事 燃料配管工事 納品機器完成図 取り扱い説明書 (システム全体) 取り扱い説明書 (納品機器) 使用機材メーカーリスト 諸官庁申請書類リスト (電子データ) 試験成績表 緊急時連絡先一覧表 工事中写真 (電子データ-JPEG)	(A4バインダーファイル) 4部

6、 特記事項-1

- (1) 現場事務所 ●要 ○不要 (規模：2K×3K、WC、FAX、コピー機設置)
 (2) 仮囲 ●要 ○不要 (フェンスバリカー H=1.5m)
 (3) 工所用電力・用水 構内既存設備を ●利用できる ○利用できない (●有償 ○無償)
 (4) ボーリング調査 ○要 ●不要 (基礎設置場所 1箇所)
 (5) 障害物の処理 工事前撤去、移設を要するものは本工事の範囲とする。

7、 特記事項-2

(1) 電気工事

1、 配管の種類別

場所	材料
屋内露出	(CP) 薄鋼・厚鋼電線管
屋外露出	(PE) ポリエチレン被覆電線管
地中埋設	(FEP) 波付き硬質合成樹脂管
コンクリート埋設	(CD) 合成樹脂可とう電線管

2、 屋外配管

- ・屋外で使用する配管支持金物及びビス類は全てステンレス製とする。
- ・屋外で使用するボックス類はステンレスもしくは塩ビ製とする。

3、 接地極 EDは単独に設ける。

(2) 配管工事 (共通)

A、 配管材料

呼称	管種	規格	冷水管	温水管	冷却水管	蒸気管	ドレン管	給水管	給湯管	排水管	油管	排気管
SGP	配管用炭素鋼鋼管 (黒)	JISG3452		●		●						●
SGP	配管用炭素鋼鋼管 (白)	JISG3452	●		●							
STPG	圧力配管用炭素鋼鋼管 (黒)	JISG3454					●				○	
SUS-TPD	配管用ステンレス鋼管	JISG3459		○			○		○			
SUS-TP	一般配管用ステンレス鋼管	JISG3459										○
SGP-VA	塩化ビニルライニング鋼管 (白)	JWWAK116						●				
CUP	配管用銅管 L	JISH3300							○			
HTLP	耐熱塩化ビニルライニング鋼管								●			
PLP	ポリエチレン被覆鋼管	JISG3469										○
VP	硬質塩化ビニル管	JISK6471								●		
PB	ポリブデン管	JISK6778		○								
PE	架橋ポリエチレン管	JISK6769						○				

●：適用品を示す

B、 管継ぎ手

- 1、 ステンレス鋼鋼管：(口径20, 25) 拡張管式ステンレス管継ぎ手 (参考ナイスジョイント) (口径30以上) ハウジング継手又はフランジ溶接継手 (工場加工品)
- 2、 その他の継ぎ手は管種に適合した継ぎ手で係員の承認を受けた製品とする。
- 3、 燃料配管はすべて溶接接続とする。

C、 弁類

止水弁等 (JIS5K、但し水道直結部及び指定の箇所は10K)

配管材料	弁の種類	
配管用炭素鋼鋼管	50以下：青銅ゲート弁	65以上：鑄鉄製仕切弁又はバタフライ弁
ステンレス鋼管	50以下：青銅ゲート弁	65以上：ステンレスギヤ式バタフライ弁
銅管	50以下：ソルダー型青銅ゲート弁	65以上：ステンレス・テフロンシートバタフライ弁
塩化ビニル管	50以下：青銅ゲート弁	
架橋ポリエチレン管	65以上：アルミギヤ式バタフライ弁	
ポリブデン管	但し、給湯管、温水管はステンレス・テフロンシートバタフライ弁とする。	

※1、流量調整が必要な箇所はグローブ弁を使用する。

※2、排ガス管の電動弁は 弁を使用する。

発電機据付工事特記仕様書-2/2

D、逆止弁（全てJIS10K）

配管材料	弁の種類	
配管用炭素鋼鋼管	50以下：青銅スイング型逆止弁	65以上：鑄鉄製衝撃吸収型逆止弁
ステンレス鋼管	50以下：青銅スイング型逆止弁	65以上：ステンレス製衝撃吸収型逆止弁
銅管	50以下：青銅製ソルダー型逆止弁	65以上：ステンレスフランジスイング逆止弁
塩化ビニル管		
架橋ポリエチレン管 ホリブデン管	50以下：青銅スイング型逆止弁	65以上：鑄鉄製衝撃吸収型逆止弁

E、その他

- ・ステンレス管に使用するY型ストレーナーはステンレス製とする。
- ・補給水用逆止弁は逆流防止機構付き（ベンFRP2・6CM同等品）を使用すること。

F、保温工事

使用区分	保温材	仕上げ		
		屋内隠蔽	屋内露出	屋外露出
温水管 冷水管 蒸気管 ドレイン管 給湯管	グラスウール保温筒	亀甲金網	○アクリル樹脂	●カラー鉄板
給水管	●グラスウール保温筒 ○ホリスチレンフォーム保温筒		●カラー亀甲	○SUS鋼板
排気管	ロックウール保温筒 (80K)	亀甲金網	○SUS鋼板 ●カラー鉄板	○SUS鋼板 ●カラー鉄板

保温材の厚さ

管径	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	
冷水管	30			40				50						
温水管	20			25				30	40	50				
蒸気管	20	25			30			40	50					
給水管	20			25				30	40	50				
排気管 (発電機～排ガスボイラー間)												100		
排気管 (上記以外)												50		

注) 土中埋設部の温水管は耐熱ポリエチレンフォーム断熱材を使用する。

ピット内はアスファルトジュートテープ巻きもしくは防食テープ巻き仕上げとする。

G屋外防食・塗装

場所	塗装仕上げ
鉄部	溶融亜鉛メッキ
亜鉛メッキ部	合成樹脂調合
浸水部	タールエポキシ樹脂(2層)
塩害部	変性エポキシ樹脂塗料

※配管は上記以外にPLP(外面ポリエチレンライニング被服鋼管)使用可。

※屋内・屋外で使用する鉄骨・型鋼材の架台はすべて溶融亜鉛メッキを施す事。

また組み立てボルト、アンカーボルトは全てステンレス製とする。

地中埋設管の防食：

- 1、ペトロラタム系テープ1回、防食ビニールテープハーフラップ1回巻き。
- 2、PLP(外面ポリエチレンライニング被服鋼管)使用。

H、温度計・圧力計

項目	温度計	圧力計	項目	温度計	圧力計
冷凍機出・入口	●	●	温度制御弁装置	●	
温水循環ポンプ出・入口		●	温水コイル出・入口	●	●
熱交換器出・入口	●	●	圧力制御弁装置出・入口		●
配管ヘッダー	●	●			

I、配管の支持

横走り配管の支持間隔

管種	15	20	25	30	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	350
SGP VLP SUS	1.8		2.0			3.0			4.0		5.0				
VP	0.75	1.0			1.5		2.0			2.0					
CUP	1.0		1.5			2.0		2.5			3.0				

- 1、配管を支持するインサート、支持金物などは十分な強度を有するものを使用する。
- 2、蒸気、高温水配管やエキスパンション継ぎ手付近などの、伸縮量の大きい配管の支持は、鎖、ローラー、スライド支持などを使用する。
- 3、冷水の支持は結露防止処置をする。
- 4、配管の横振れ防止のため適宜振れ止めをとる。

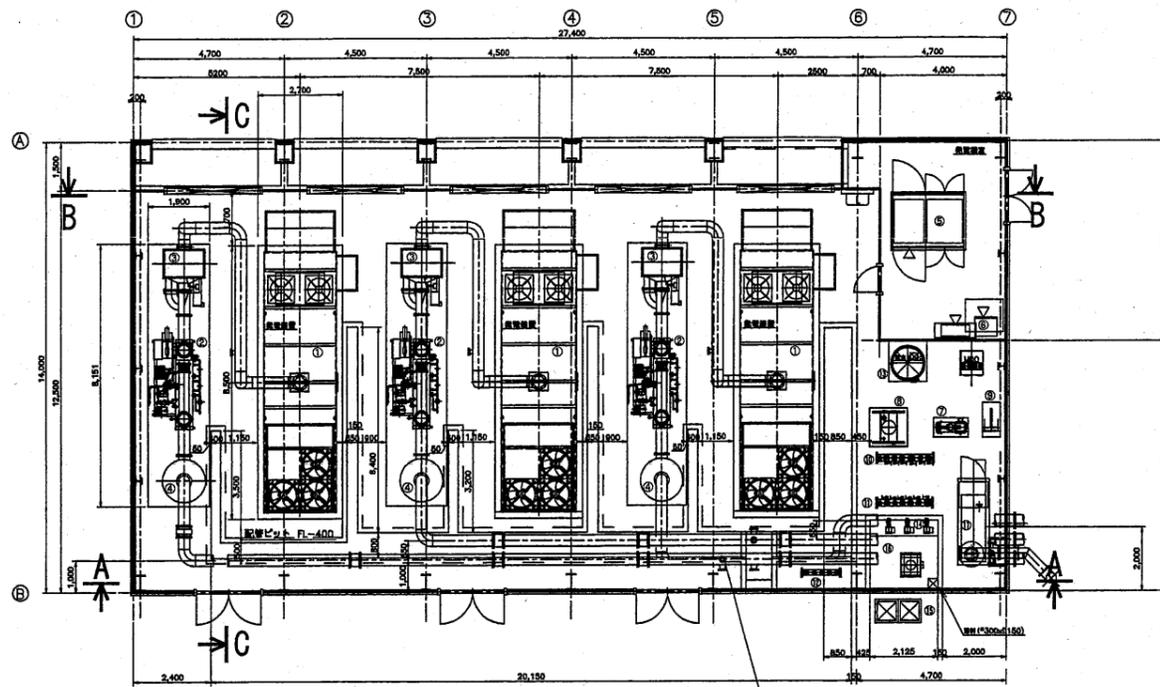
J凍結防止対策

- 1、凍結のおそれのある機器、給水管、燃料配管には電熱ヒーターを巻くこと。
- 2、凍結の恐れのある温水配管は外気温度とタイマーによる循環ポンプの自動間欠運転をおこなう。
- 3、冬季休み等、施設が休止する場合、配管の水抜きが確実にできるよう、要所に水抜きバルブを設けること。
- 4、蒸気配管の往、還り配管はドレン溜まりが生じないよう適切な勾配をとること。

K、その他

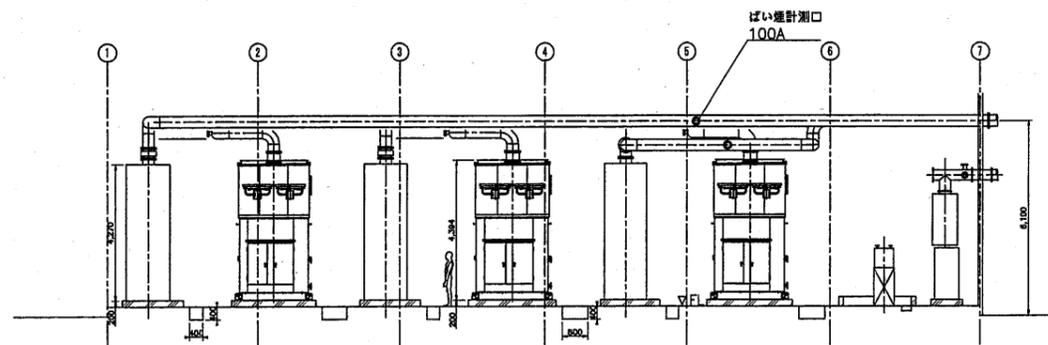
- 1、ポンプの揚程、送風機の静圧は施工図により計算し、係員の承認を受けた上で決定する。
- 2、動力電源については電気工事業者と事前に容量・連動・警報・運転方法の確認を行い、係員の承認を受けること。
- 3、不要になる機器・配管等は全て切り離しの上、搬出、処分のこと。
- 4、温水配管の横走り管には先上がり勾配を取り立ち上がり、立下り管の頂部に自動・手動空気抜き弁を設ける。又最低箇所には水抜き弁を設ける。
- 5、温水配管は施工前に十分納まりを検討の上、鳥居配管とならないように施工の事。止むを得ず鳥居配管となる箇所には自動・手動空気抜き弁を設ける。
- 6、温水配管においては管内の急激な圧力変動を吸収するための対策(圧力チャンバーの設置等)を講じること。
- 7、温水配管及び蒸気配管に設ける自動弁装置にはバイパス管を設けること
- 8、プレート熱交換器の一次、二次側配管に温度計、圧力計、水抜き弁を取り付けのこと。
- 9、蒸気配管においてドレイン溜りの恐れのある箇所にはトラップ装置を取り付けのこと。
- 10、同上ドレイン配管において火傷の恐れがある箇所は保温材で断熱を行うのこと。
- 11、直管部の長い箇所については膨張量を計算し、配管の伸びを十分吸収できるよう伸縮継ぎ手又は配管ループ(4曲がり)を設けること。
- 12、建築エキスパンション部を貫通及び横断する配管にはフレキシブルジョイントを設けること。
- 13、配管にはメンテナンス、更新を考慮し適宜フランジを設けること。
- 14、発電所内の配管上にはメンテ作業に支障がないよう、適宜渡り歩廊及び保護カバー等を設けること。
- 15、配管には系統の名称と流れ方向、バルブには開閉表示を取り付けのこと。
- 16、竣工後確認、検査の出来ない箇所は写真撮影を行い必要毎に係員に提出のこと。

番号	機種名
①	発電機
②	排ガス蒸気ボイラー
③	DPF
④	排気消音器
⑤	共通制御・補機変圧器盤
⑥	直流電源盤
⑦	温水循環ポンプ(2次)
⑧	密閉式膨張タンク
⑨	融雪用熱交換器
⑩	温水(往)ヘッダー
⑪	温水(還)ヘッダー
⑫	蒸気ヘッダー
⑬	脱気装置、軟水タンク
⑭	燃料移送ポンプ
⑮	排水槽
⑯	燃料サービスタンク
⑰	温水ボイラー

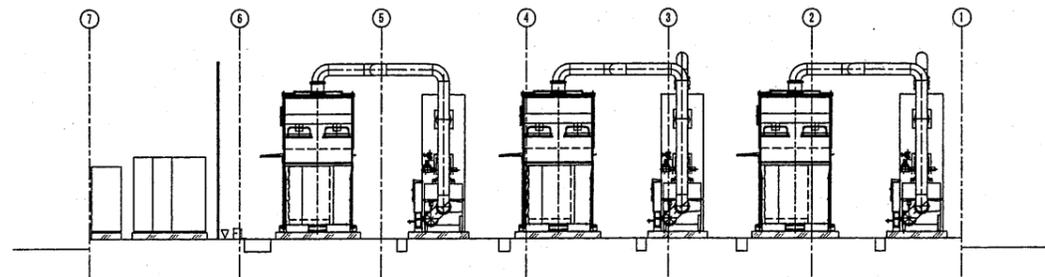


平面図

ばい塵計測口
100A

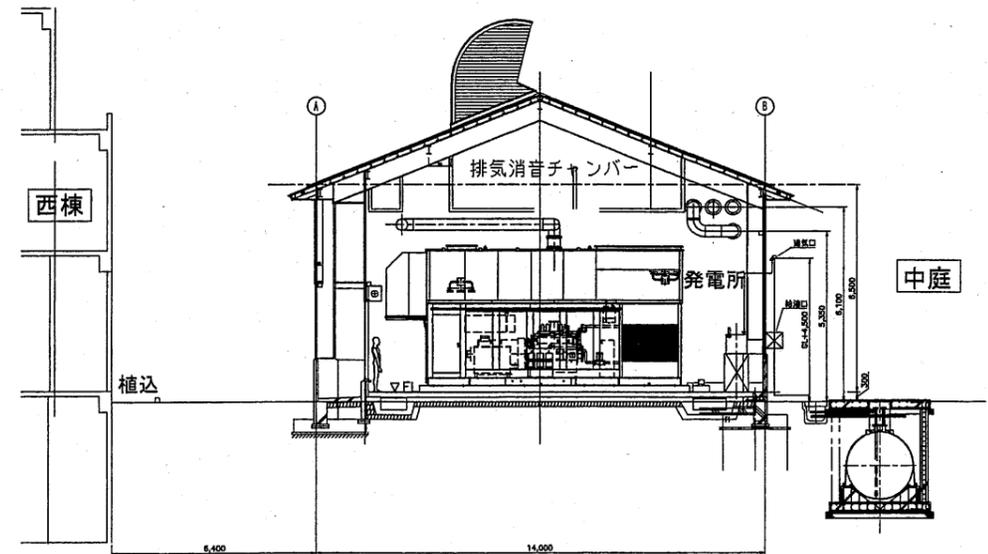


A-A断面図

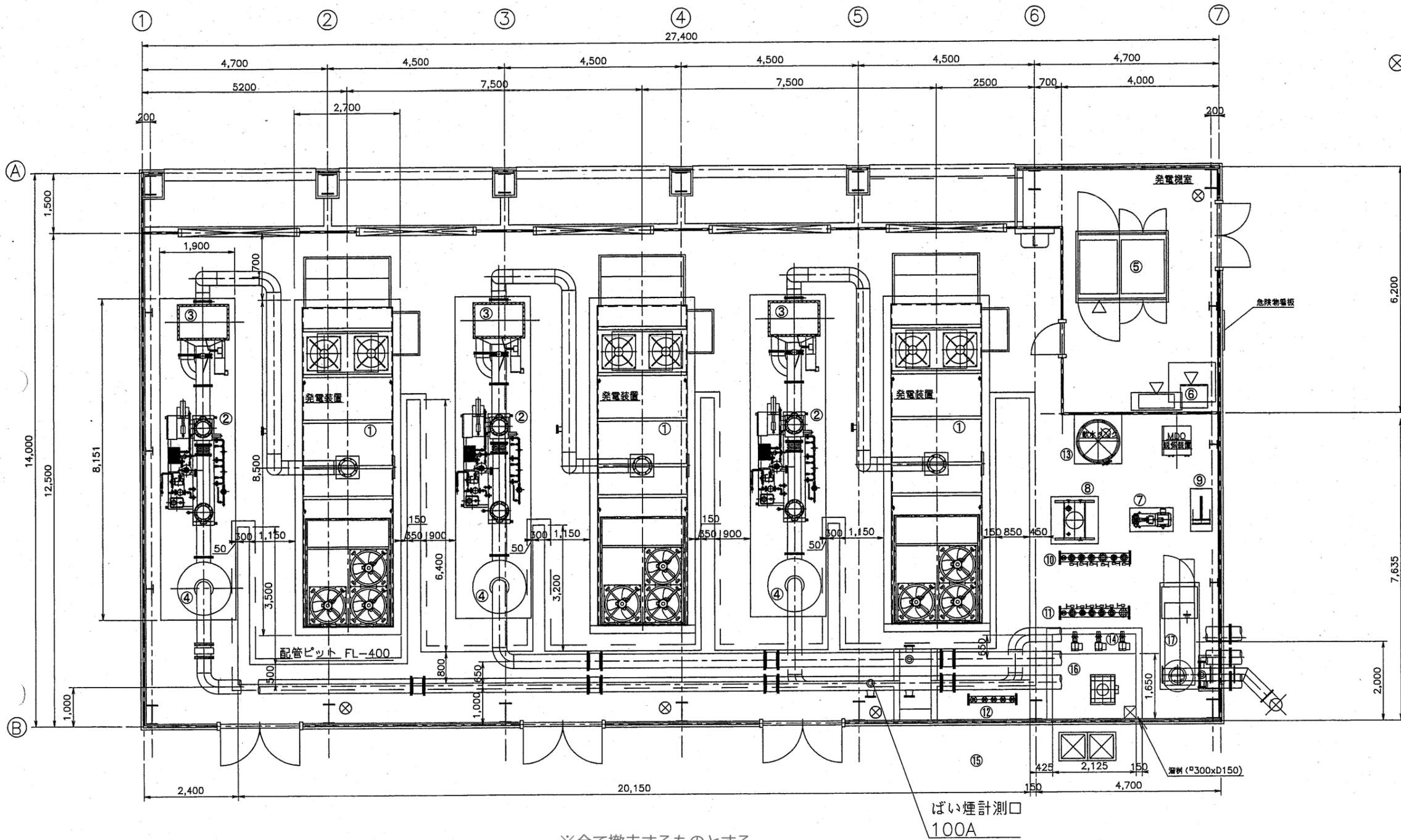


B-B断面図

※全て撤去するものとする



C-C断面図



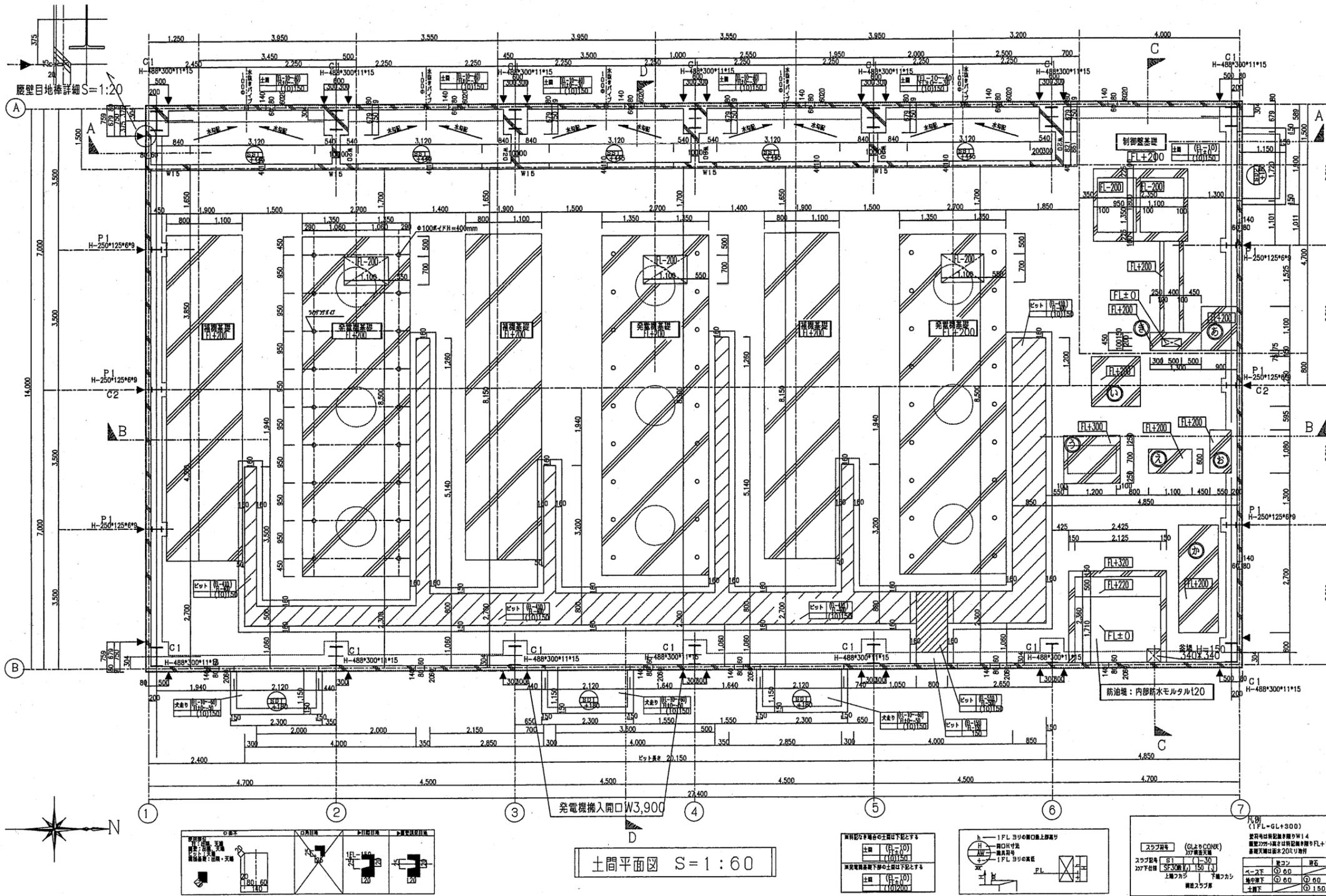
⊗ : 消火器

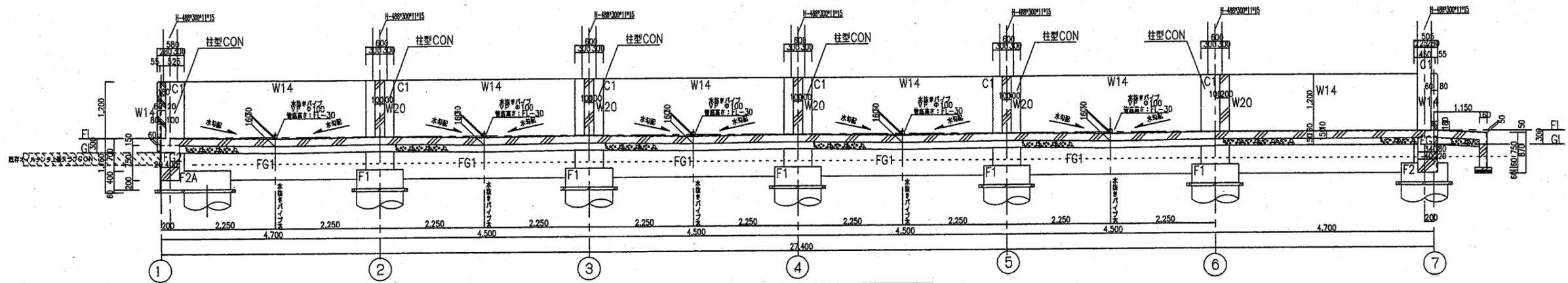
番号	機種名
①	発電機
②	排ガス蒸気ボイラー
③	DPF
④	排気消音器
⑤	共通制御・検機変圧器盤
⑥	直流電源盤
⑦	温水循環ポンプ (2次)
⑧	密閉式膨張タンク
⑨	融雪用熱交換器
⑩	温水 (往) ヘッダー
⑪	温水 (還) ヘッダー
⑫	蒸気ヘッダー
⑬	脱気装置、軟水タンク
⑭	燃料移送ポンプ
⑮	排水槽
⑯	燃料サービスタンク
⑰	温水ボイラー
⑱	ファーストファン・排気ポンプ制御

※全て撤去するものとする

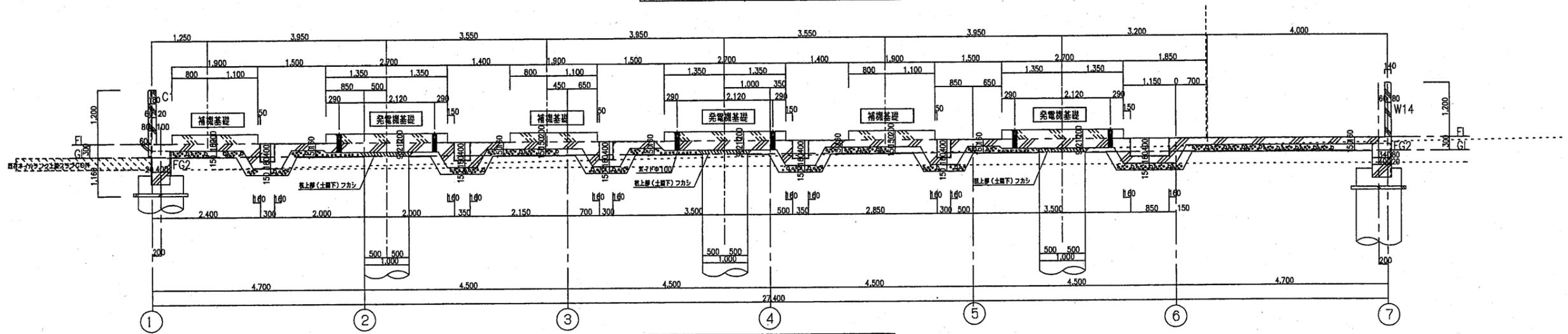
収納建屋平面図 S=1:100

サービスタンク防油堤
容量計算
 $2.130 \times 1.6760 \times 0.325 = 1.156$
 $1.156 \div 210 = 5.5$ 倍
 よって $5.5 > 1.1$



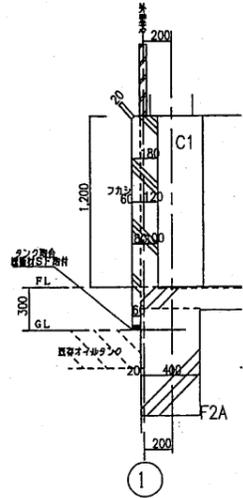


A~A断面図 S=1:60
(Aより1,500通り)



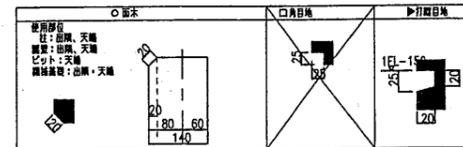
B~B断面図 S=1:60

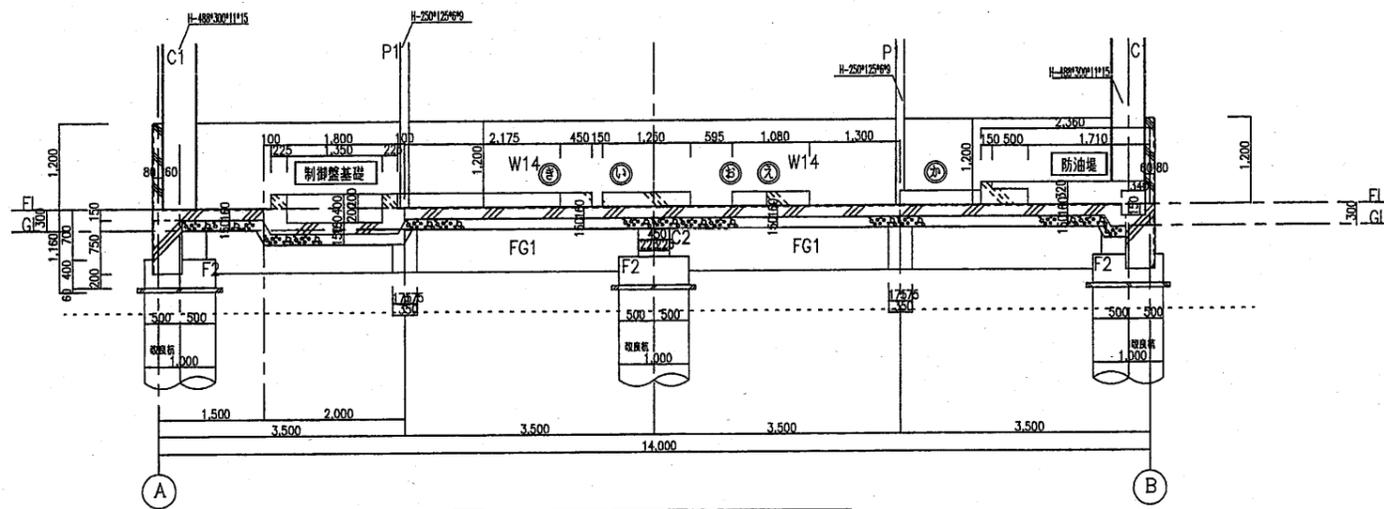
1通り腰壁断面図 S=1:30
このW14壁の構造体寸法は120とする



※基礎は全て撤去するものとする
 ※改良杭は残置するものとする
 ※残置杭の種類、杭径、位置及び頂部高さ等を記録する

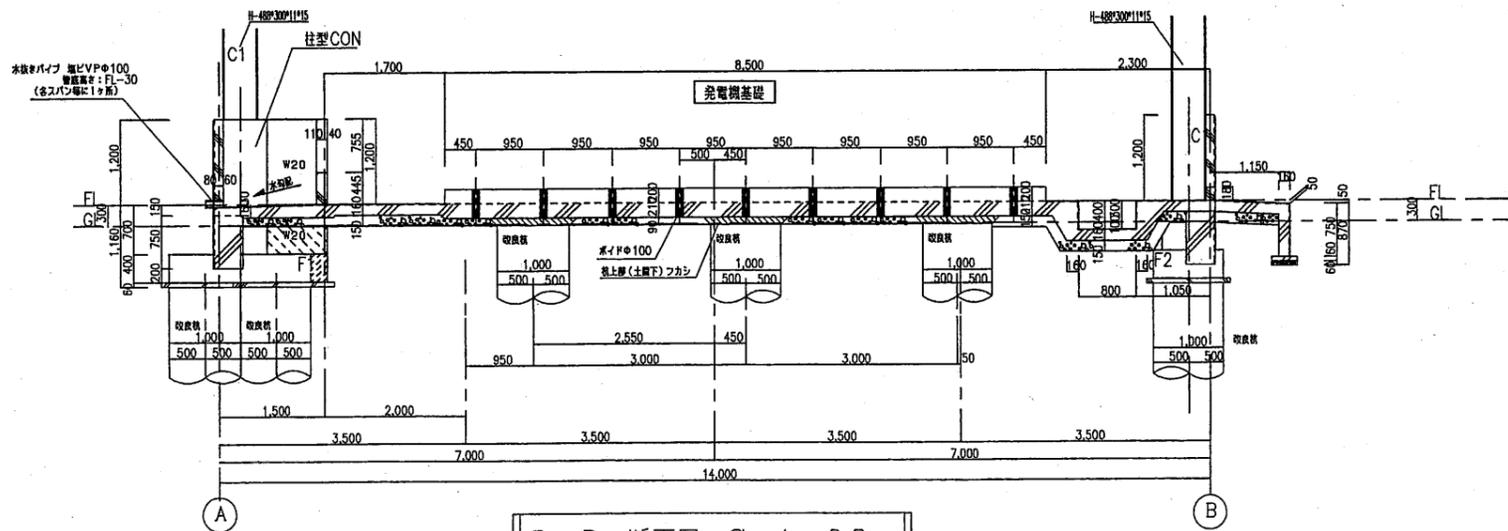
資料記載の土質は下図とする	土質 (H-10)	(10)150
※発電機基礎下の土質は下図とする	土質 (H-10)	(10)200





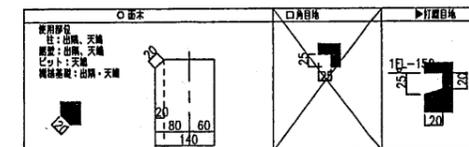
C~C 断面図 S=1:60

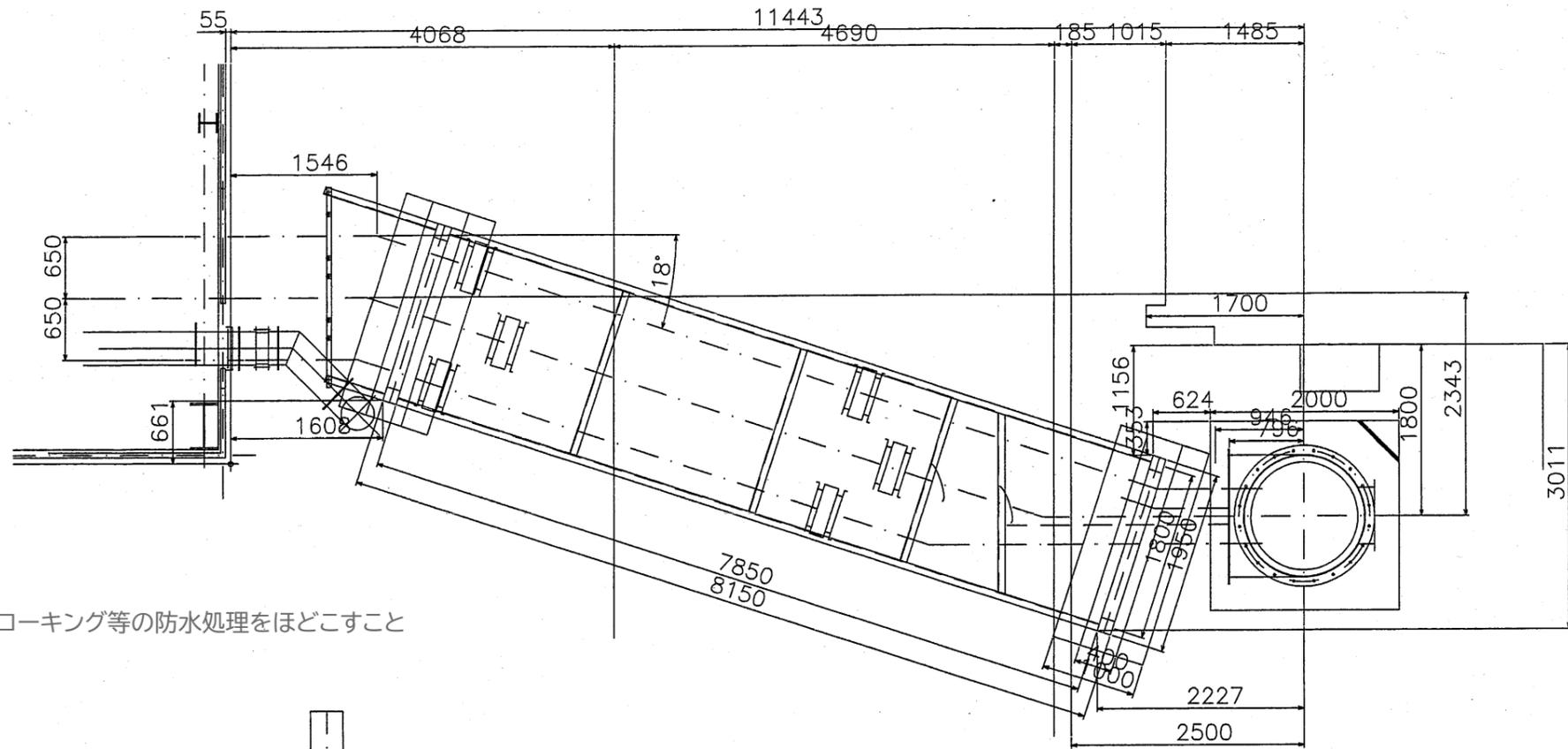
※基礎は全て撤去するものとする
 ※改良杭は残置するものとする
 ※残置杭の種類、杭径、位置及び頂部高さ等を記録する



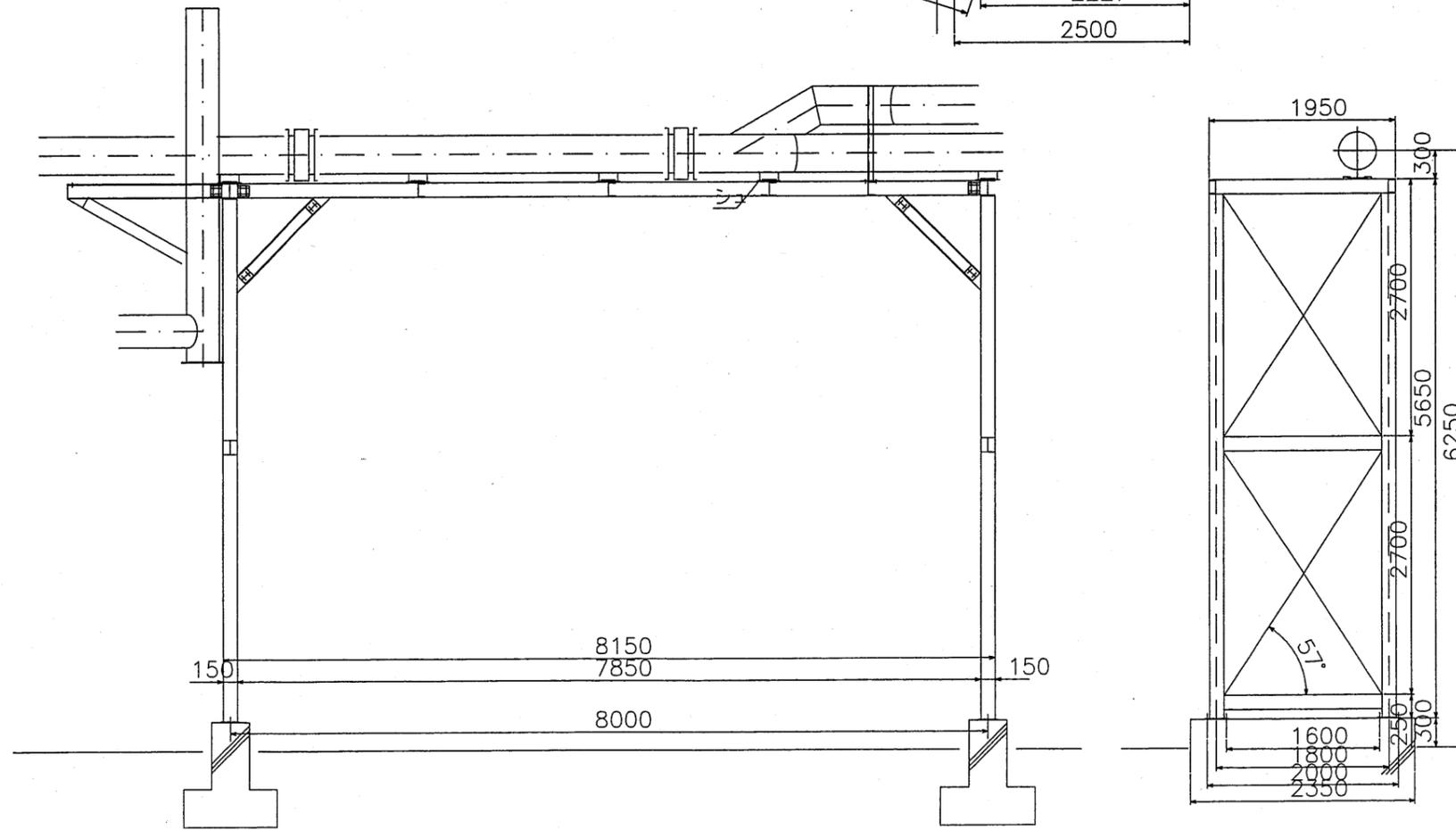
D~D 断面図 S=1:60

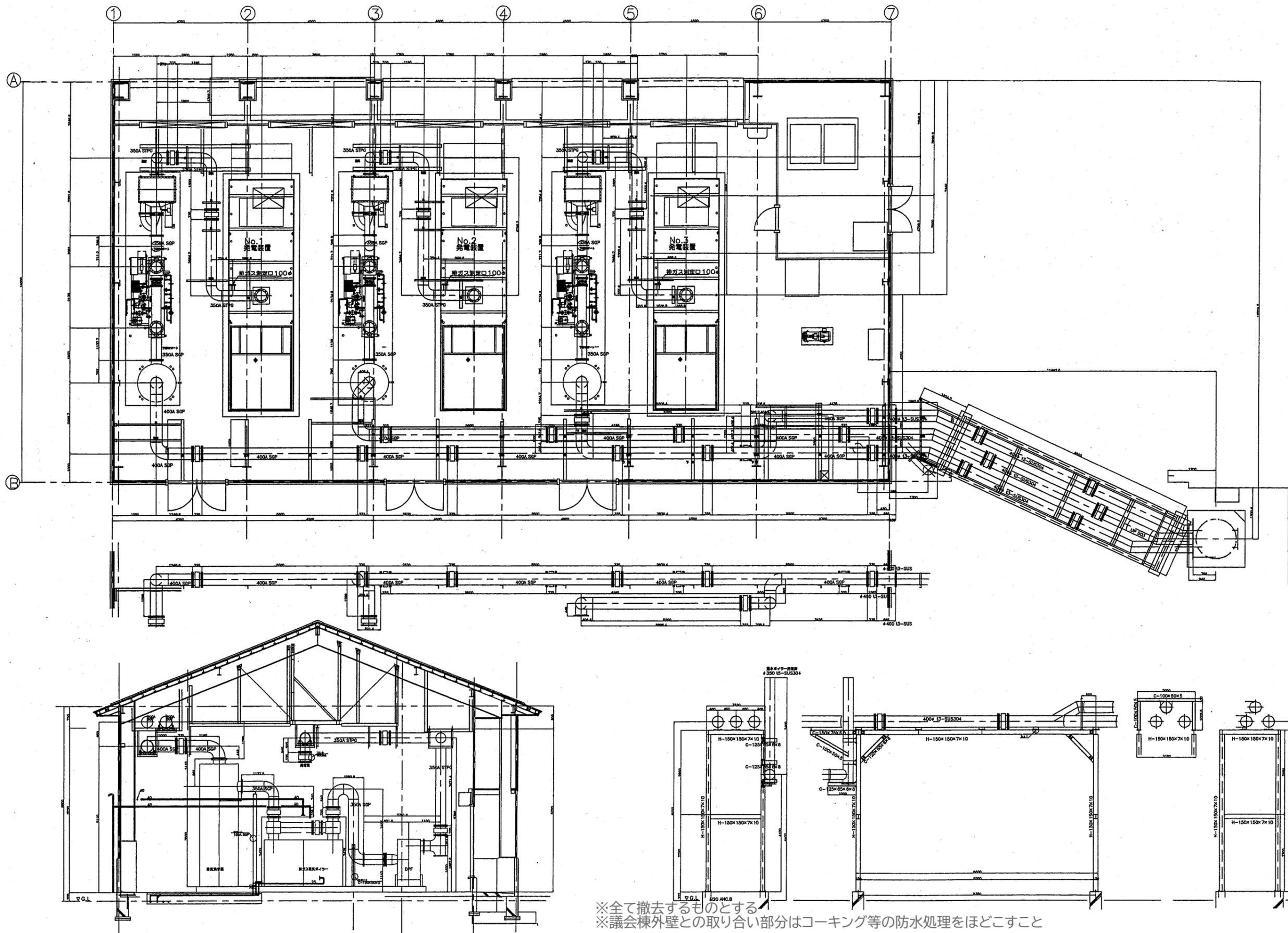
材料記号	土層	(台-10)
		(10)150
実高電線管下層の土層は下記とする	土層	(台-10)
		(10)200



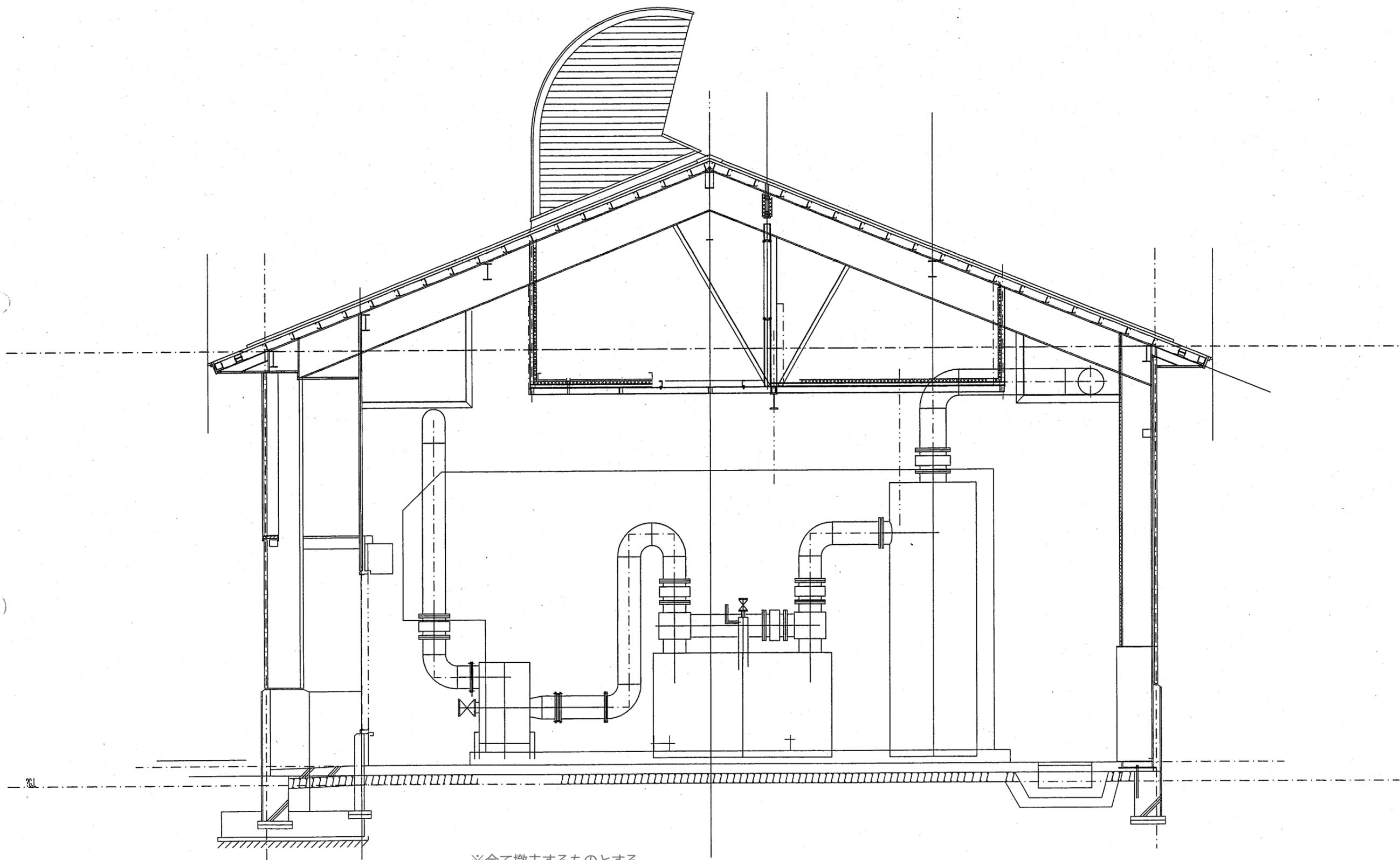


※全て撤去するものとする
 ※議会棟外壁との取り合い部分はコーキング等の防水処理をほどこすこと

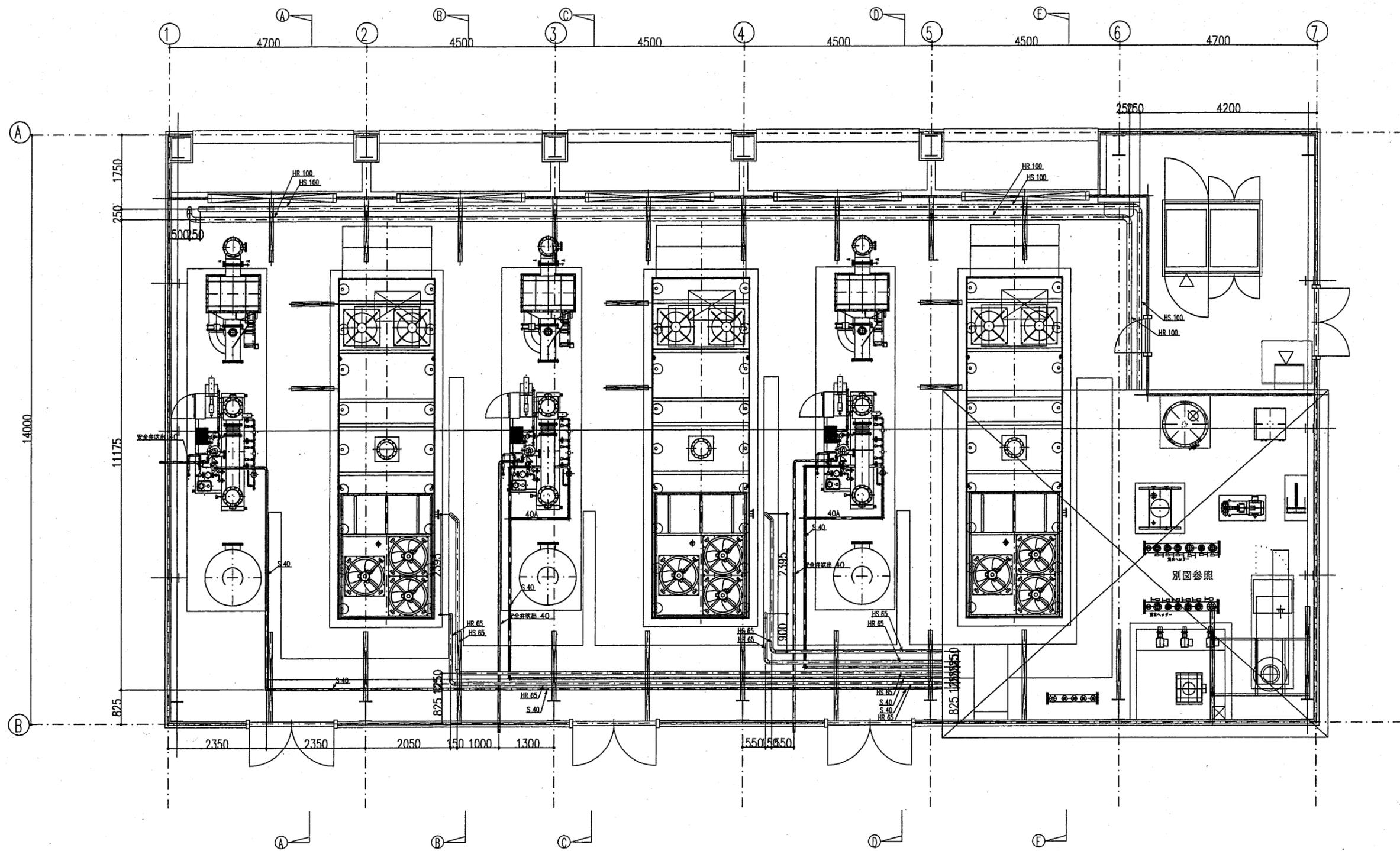




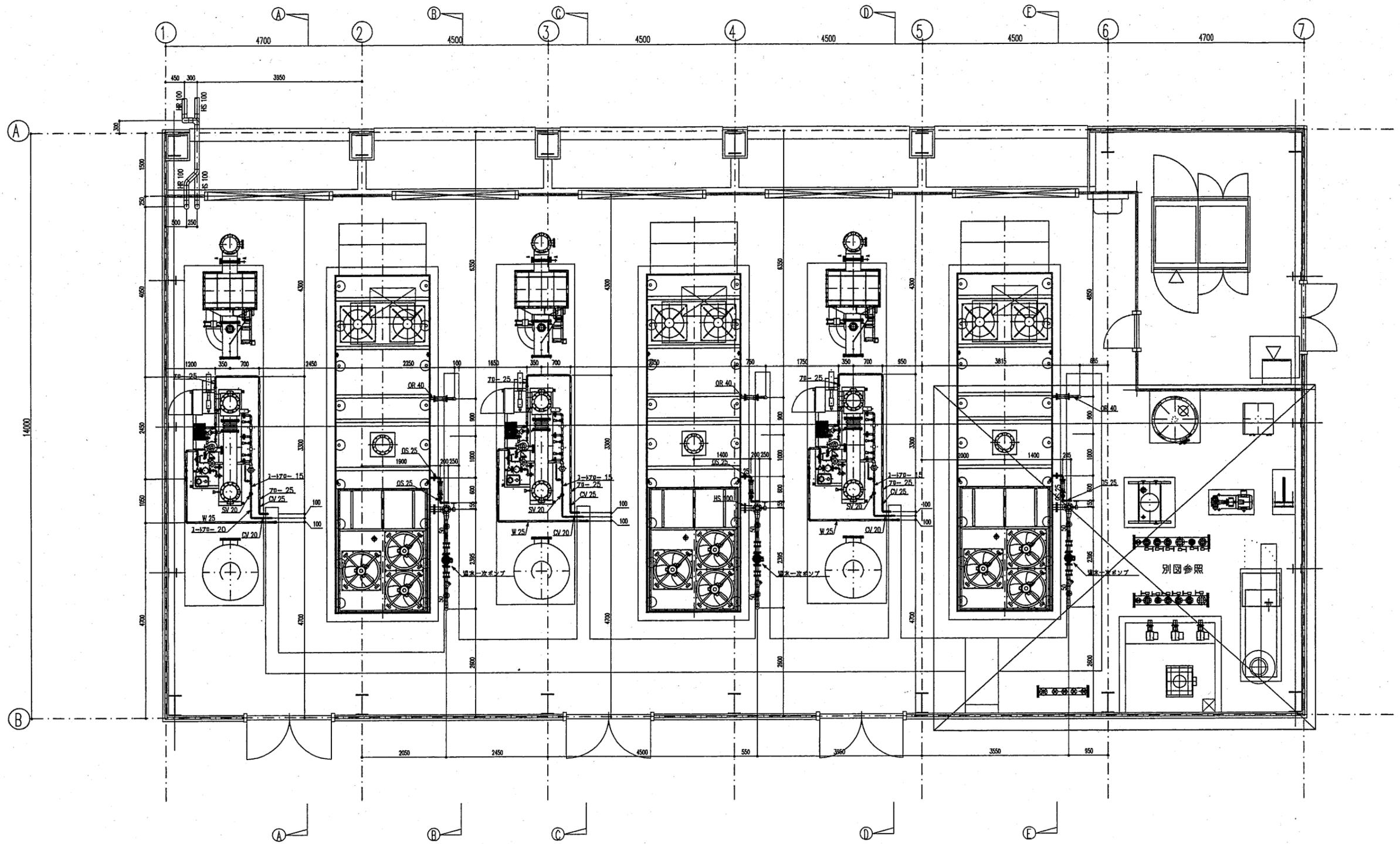
※全て撤去するものとする
 ※議会棟外壁との取り合い部分はコーキング等の防水処理をほどこすこと



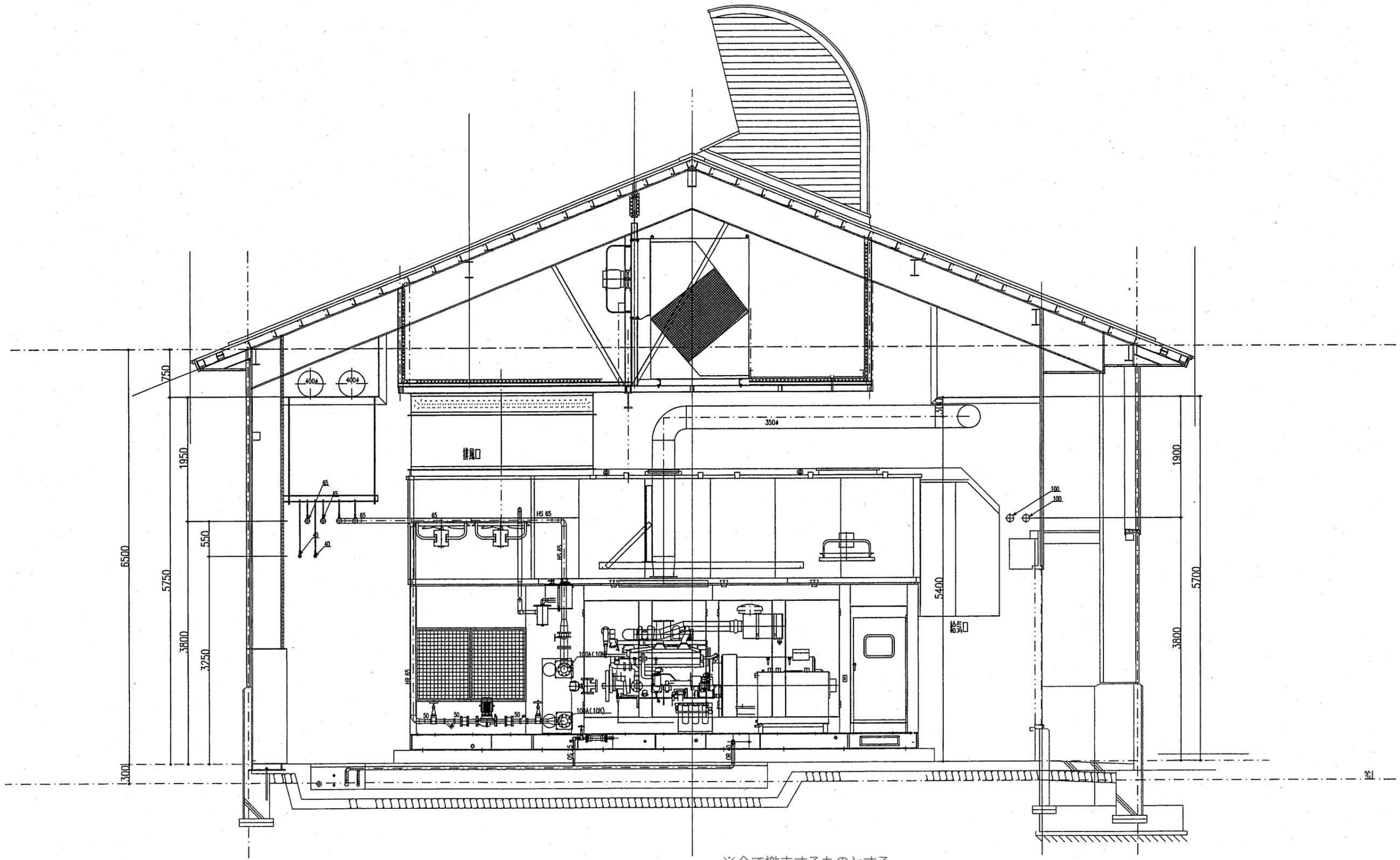
※全て撤去するものとする
 ※議会棟外壁との取り合い部分はコーキング等の防水処理をほどこすこと



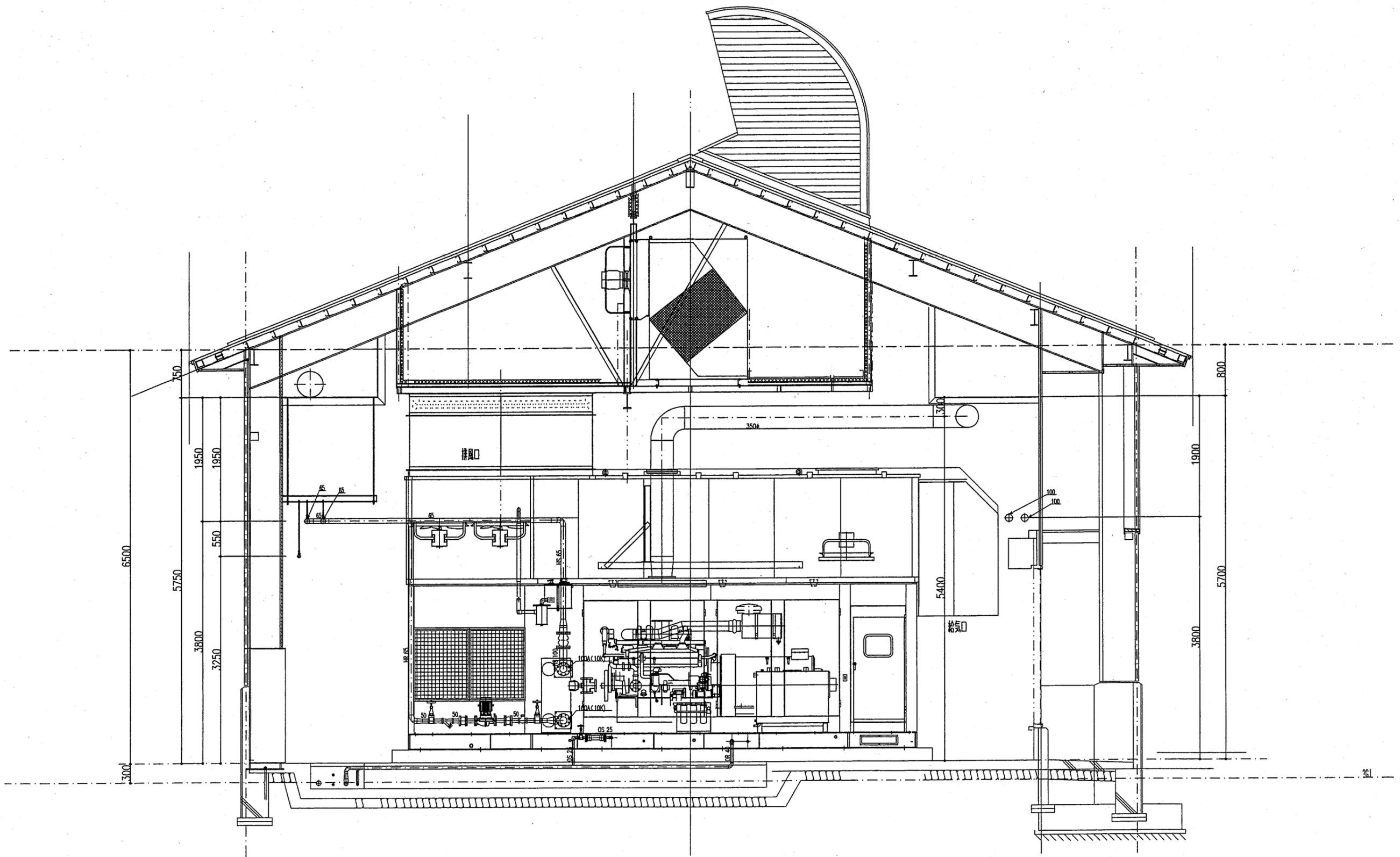
※全て撤去するものとする



※全て撤去するものとする

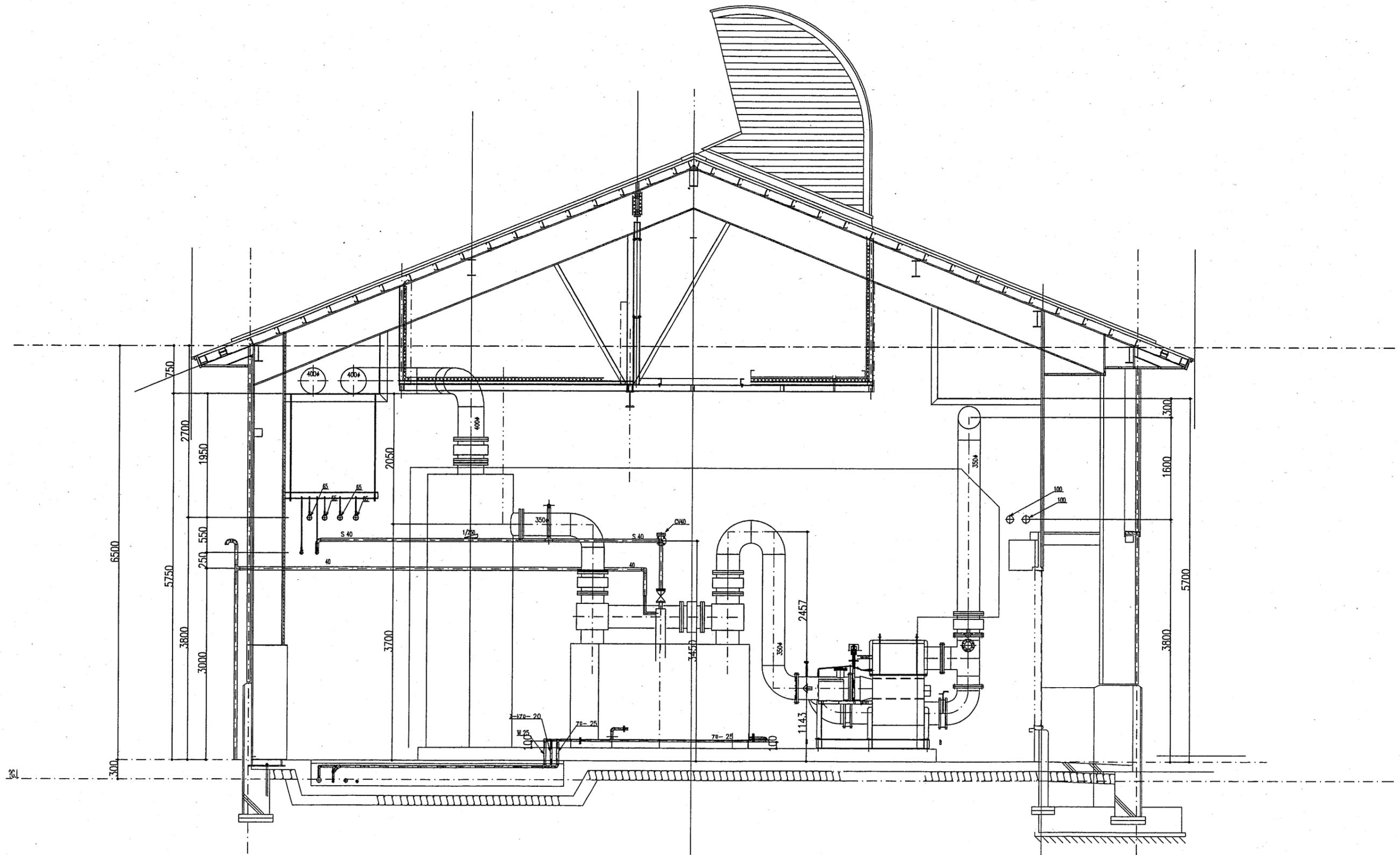


※全て撤去するものとする

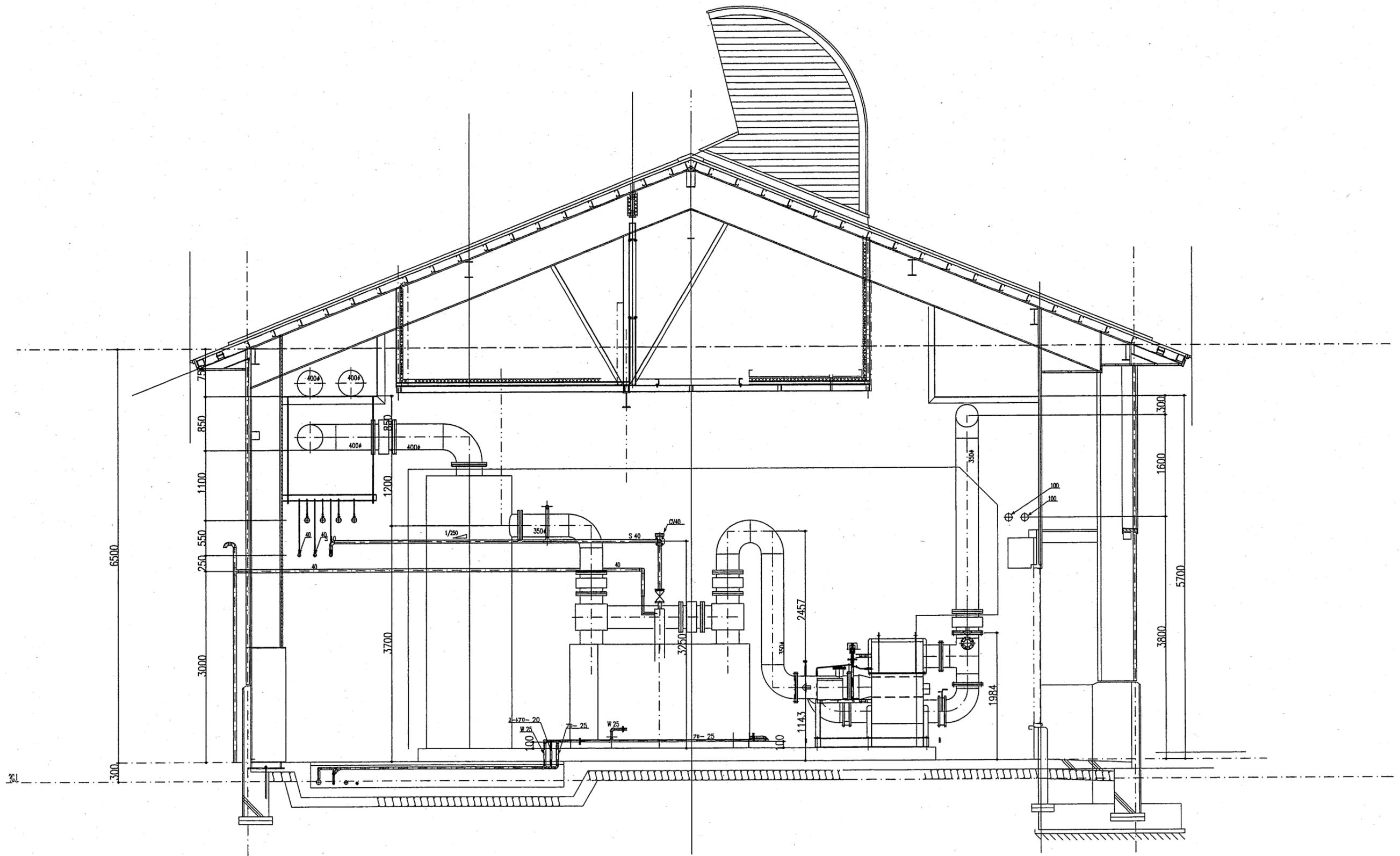


B断面図

※全て撤去するものとする

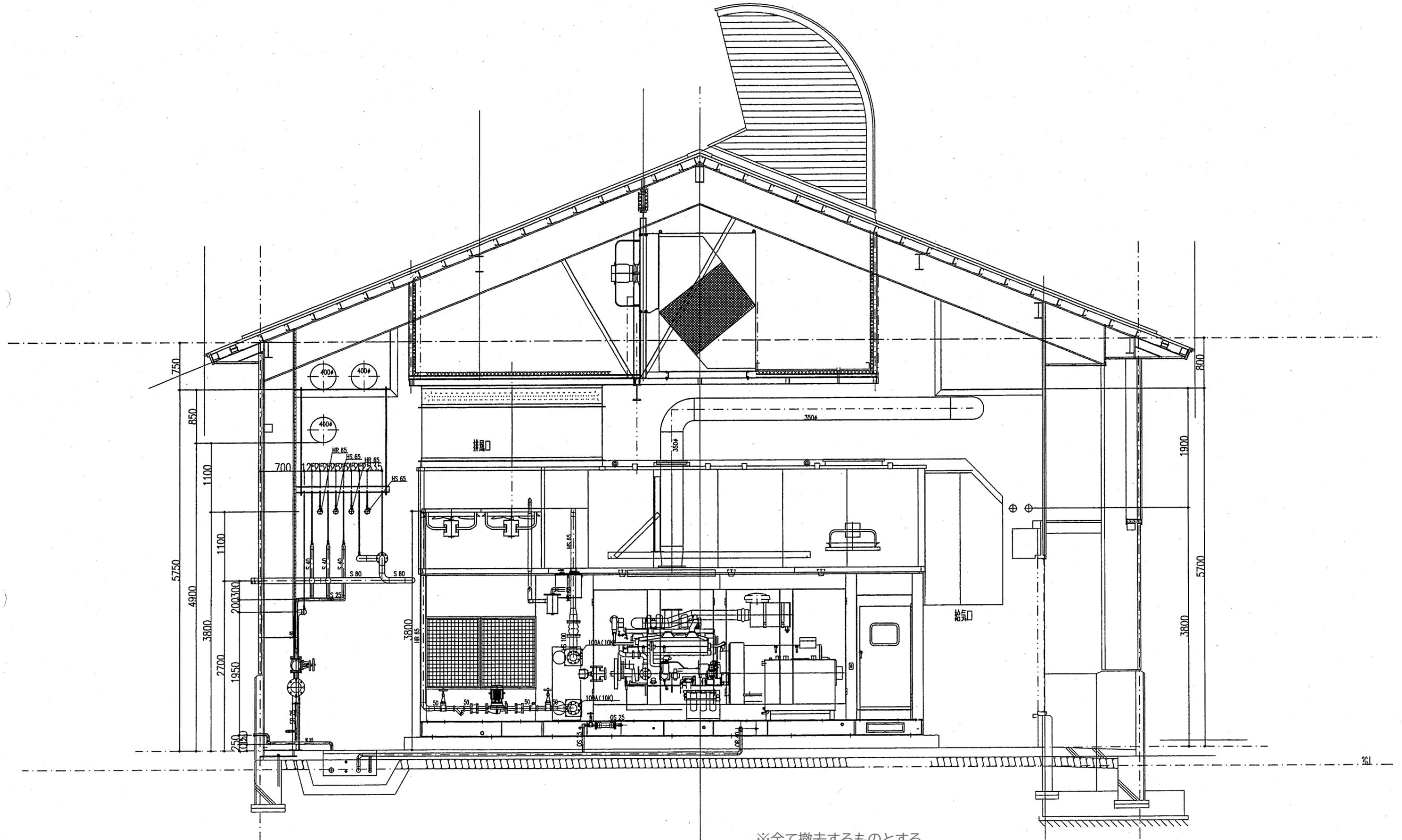


C断面図 ※全て撤去するものとする



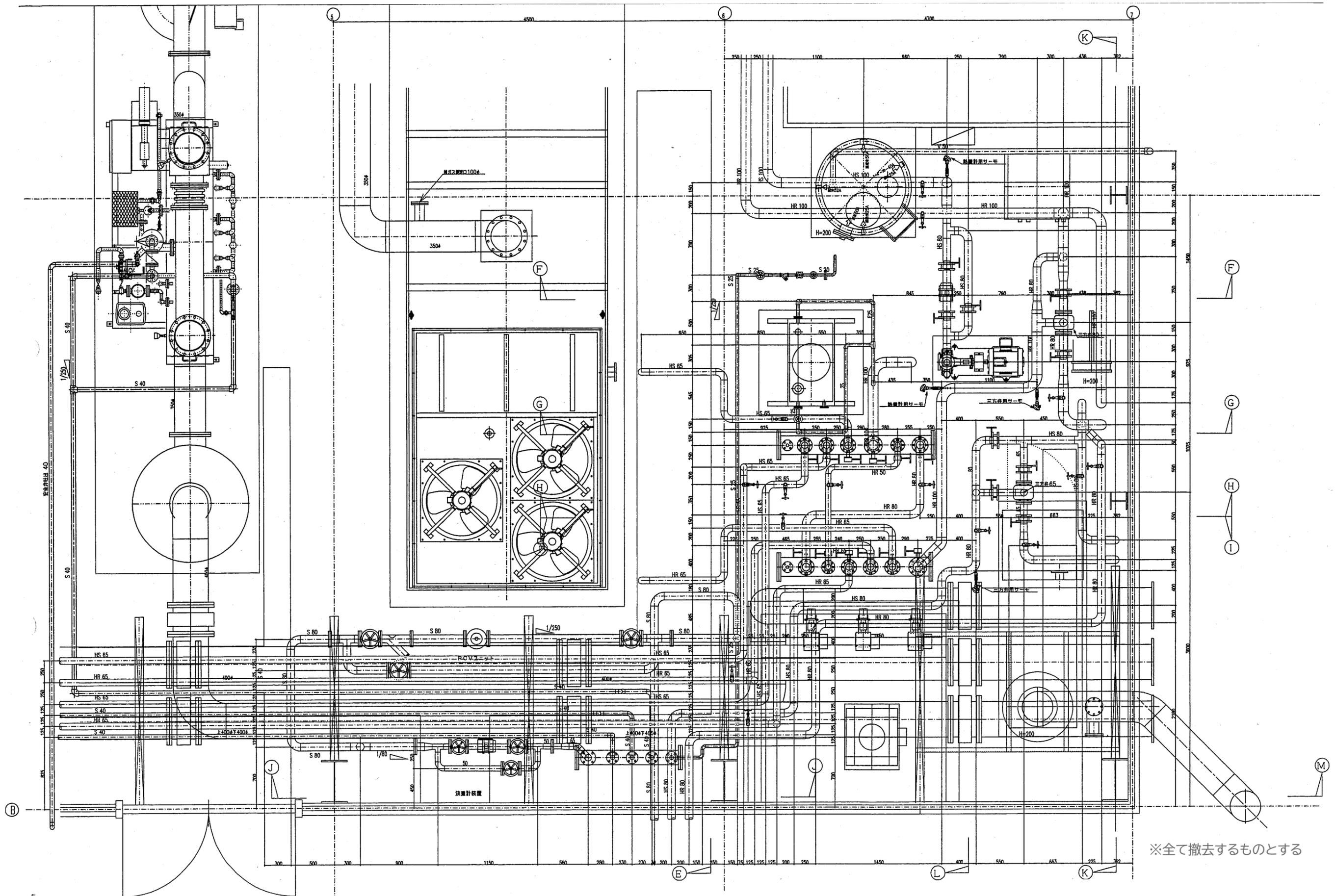
D断面図

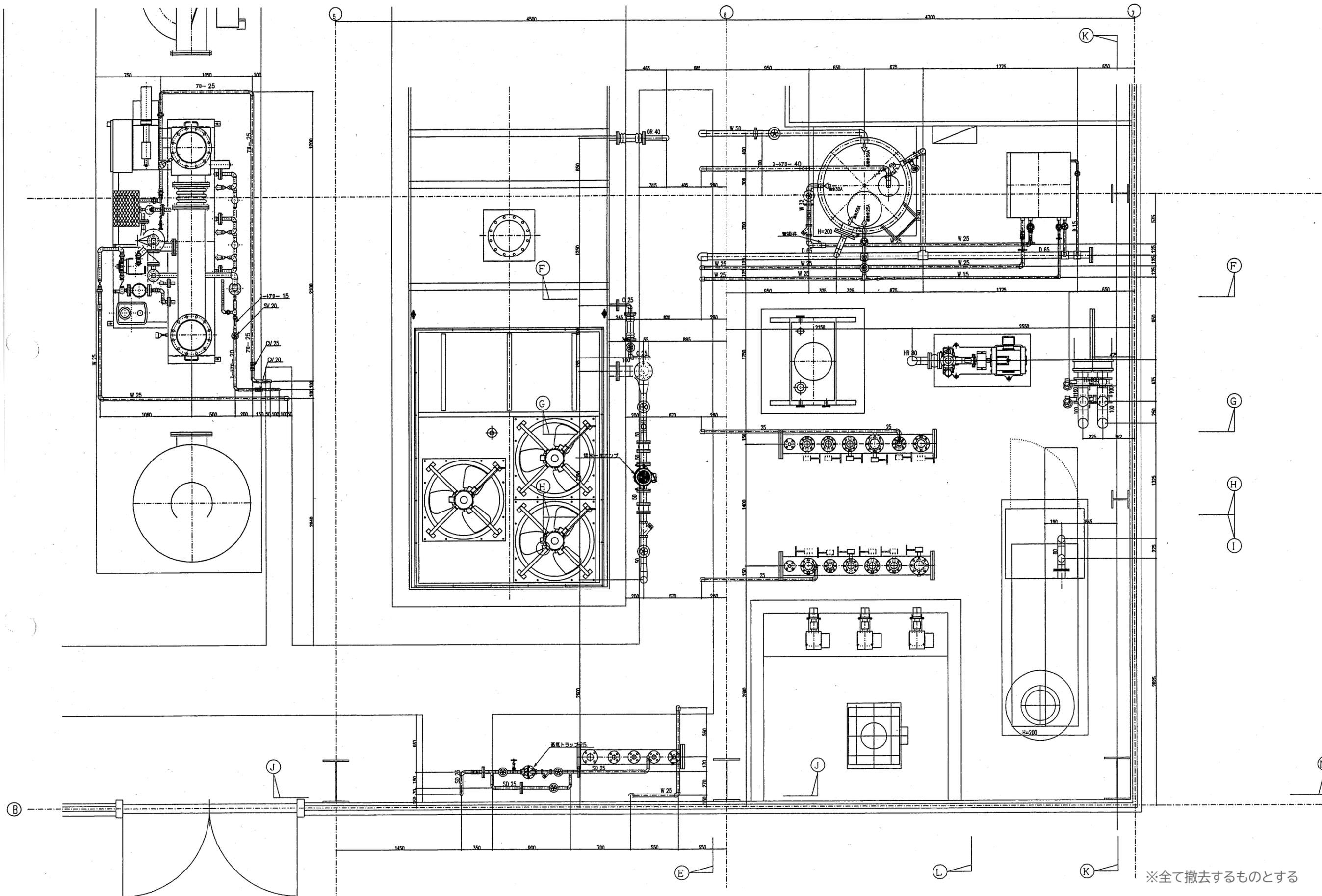
※全て撤去するものとする

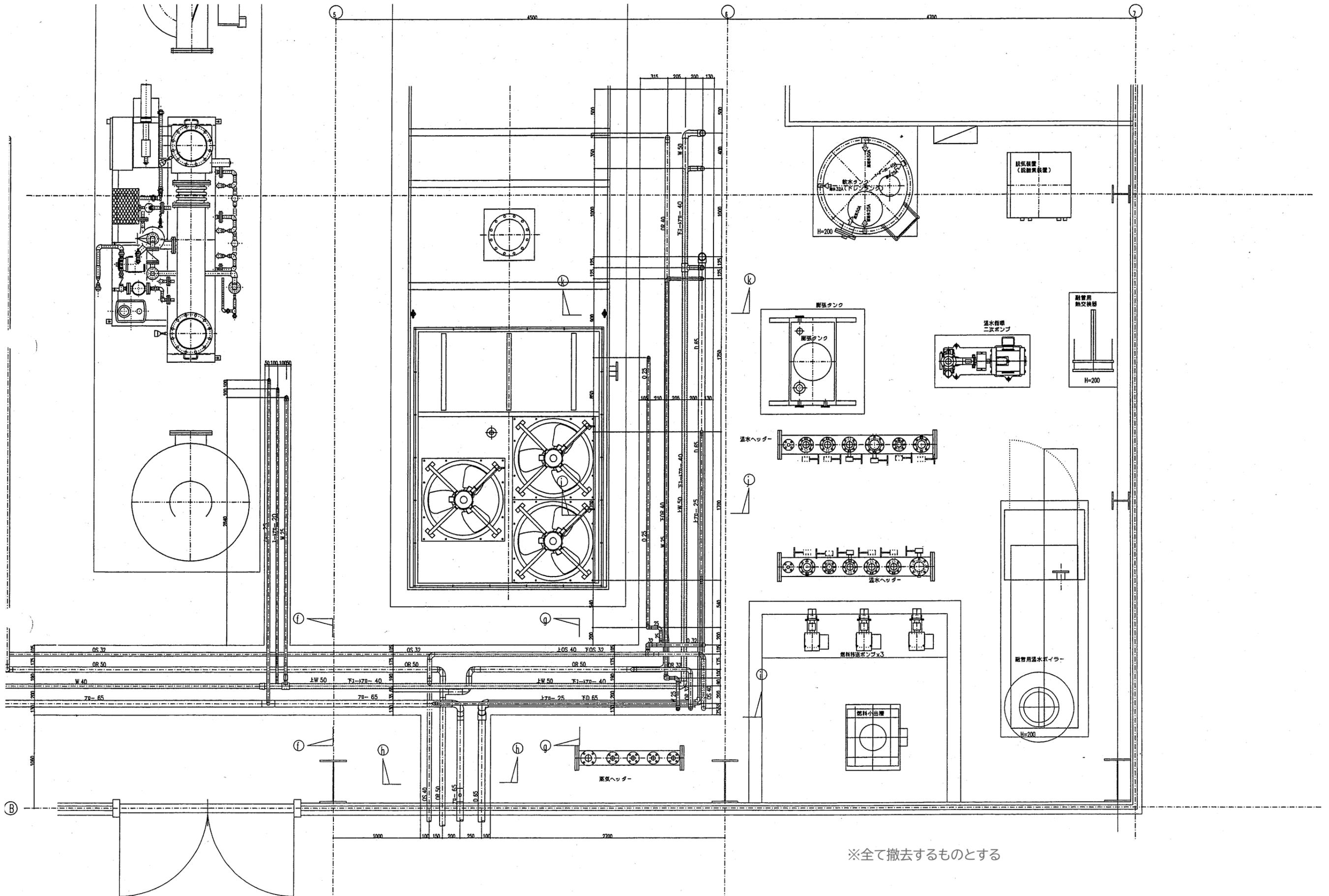


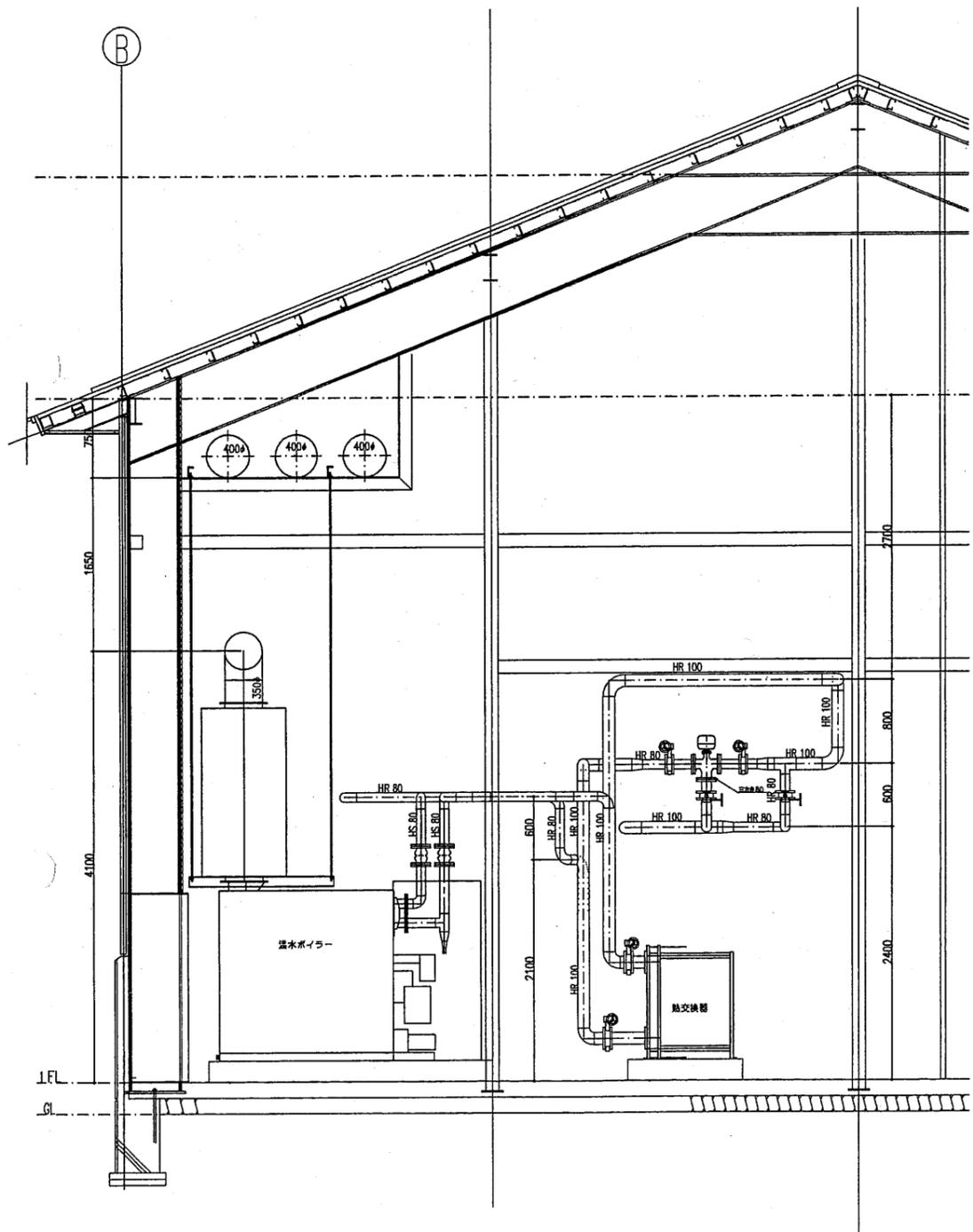
※全て撤去するものとする

E断面図

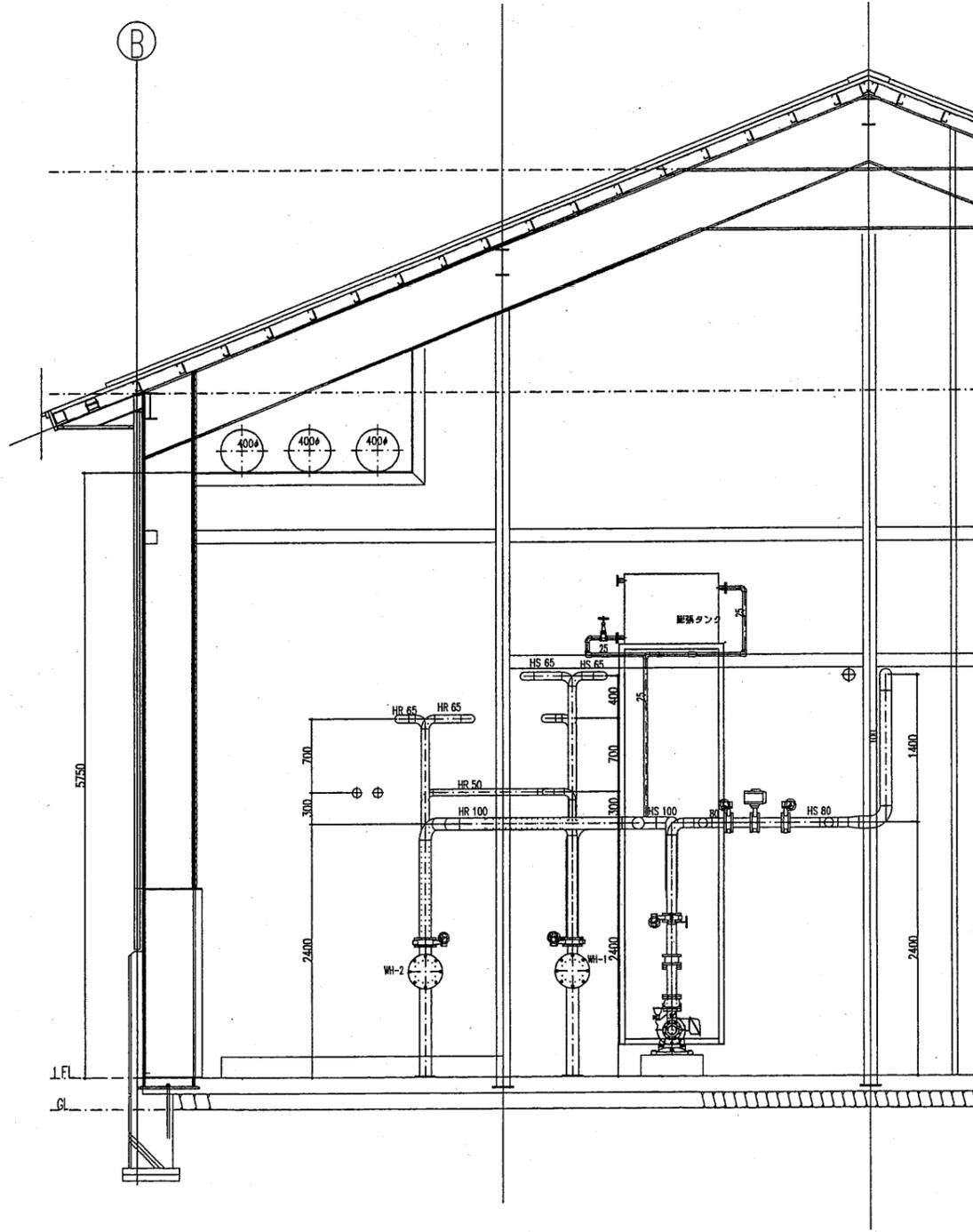




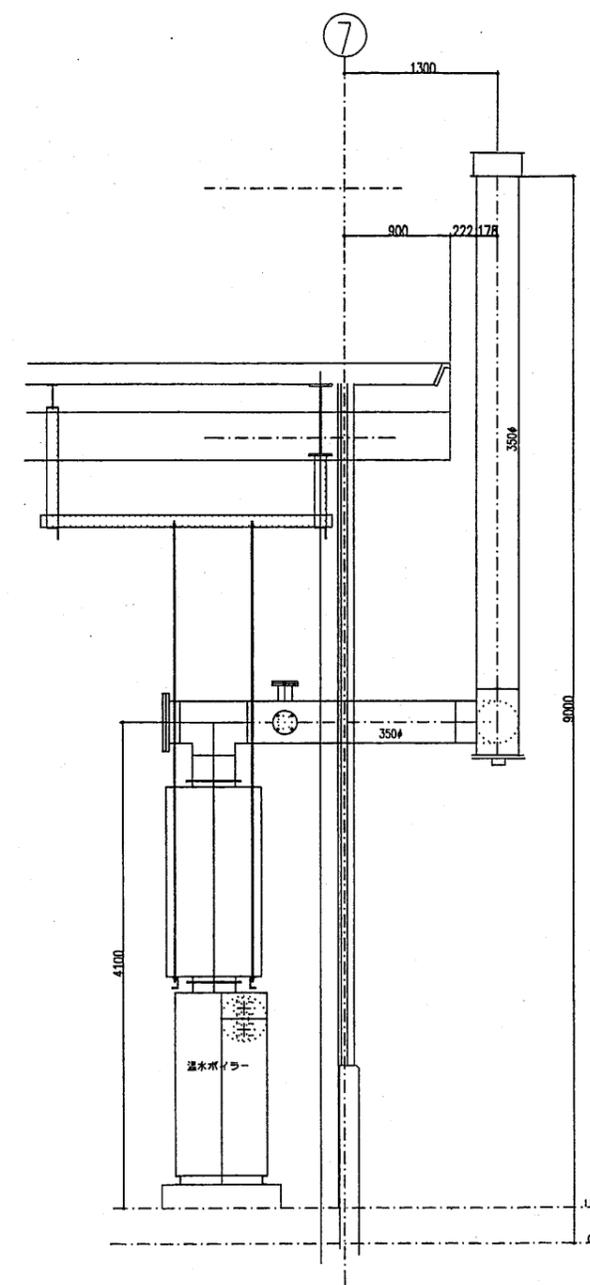




K断面図

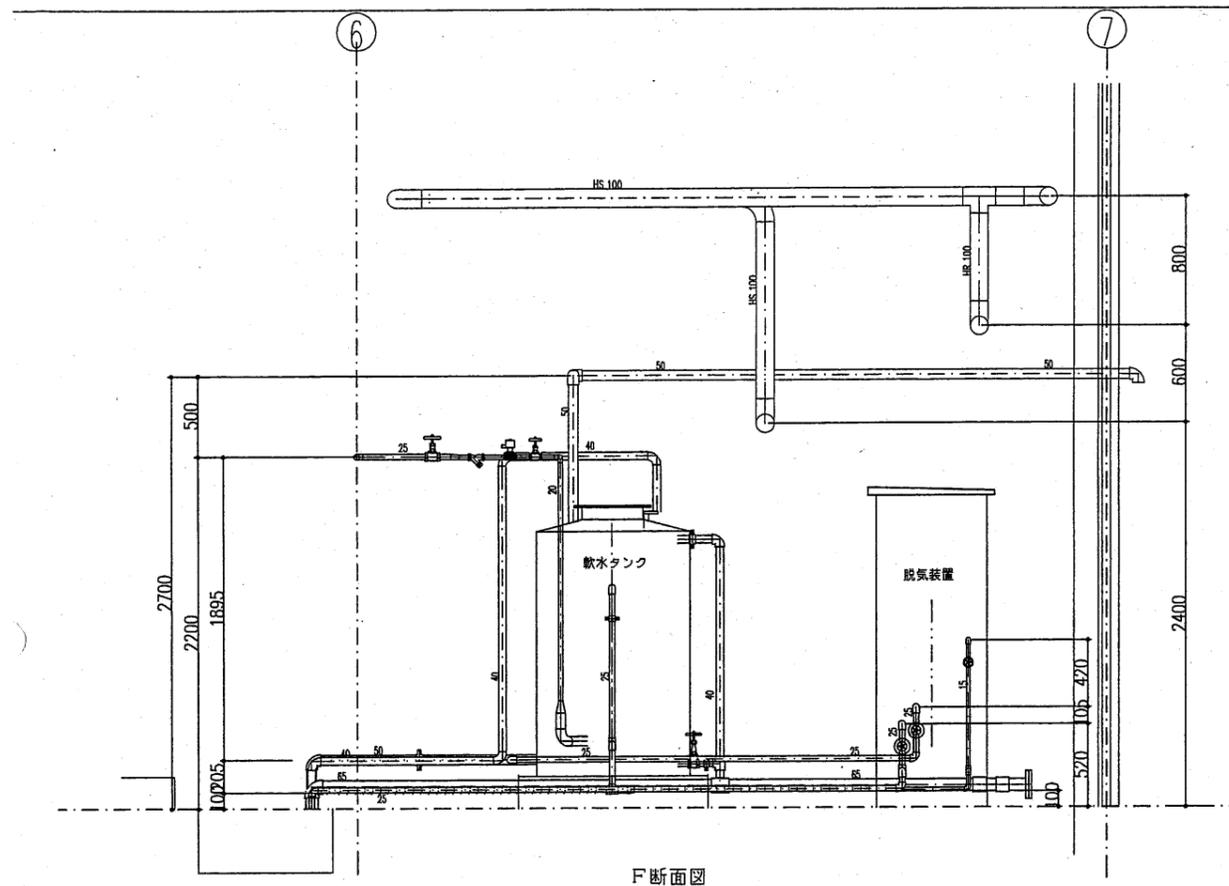


L断面図

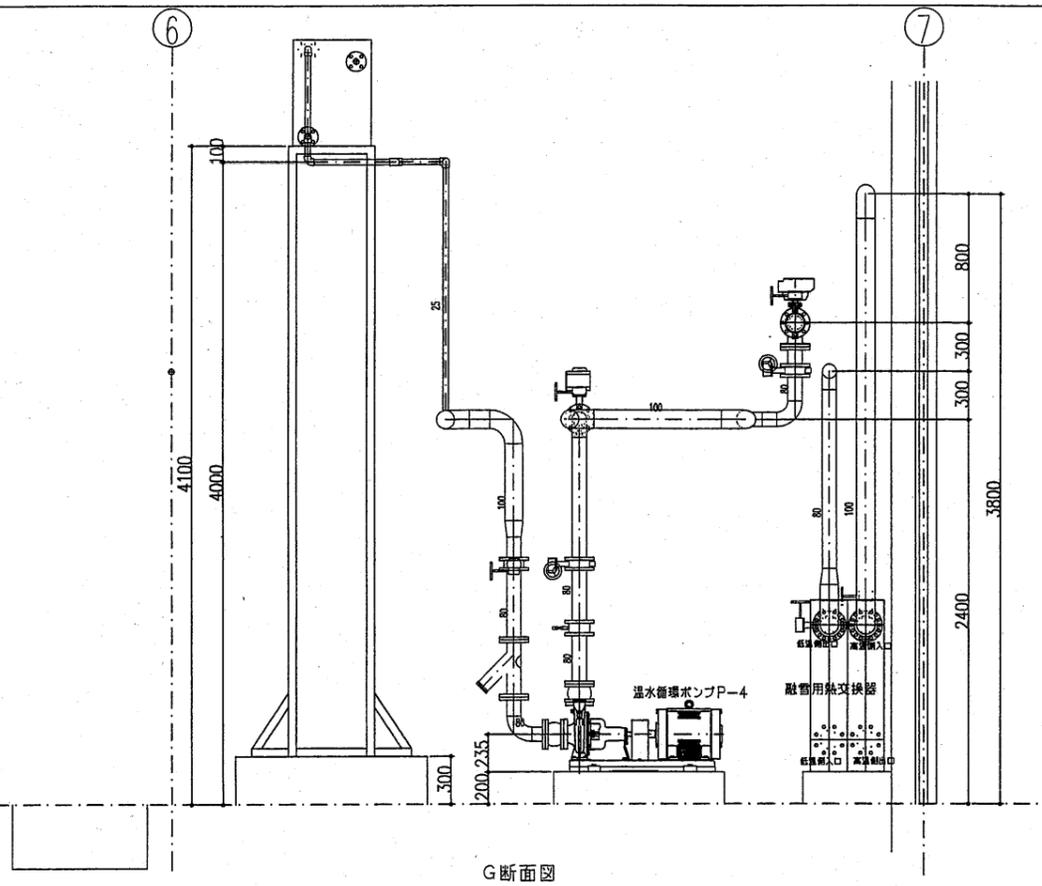


M断面図

※全て撤去するものとする

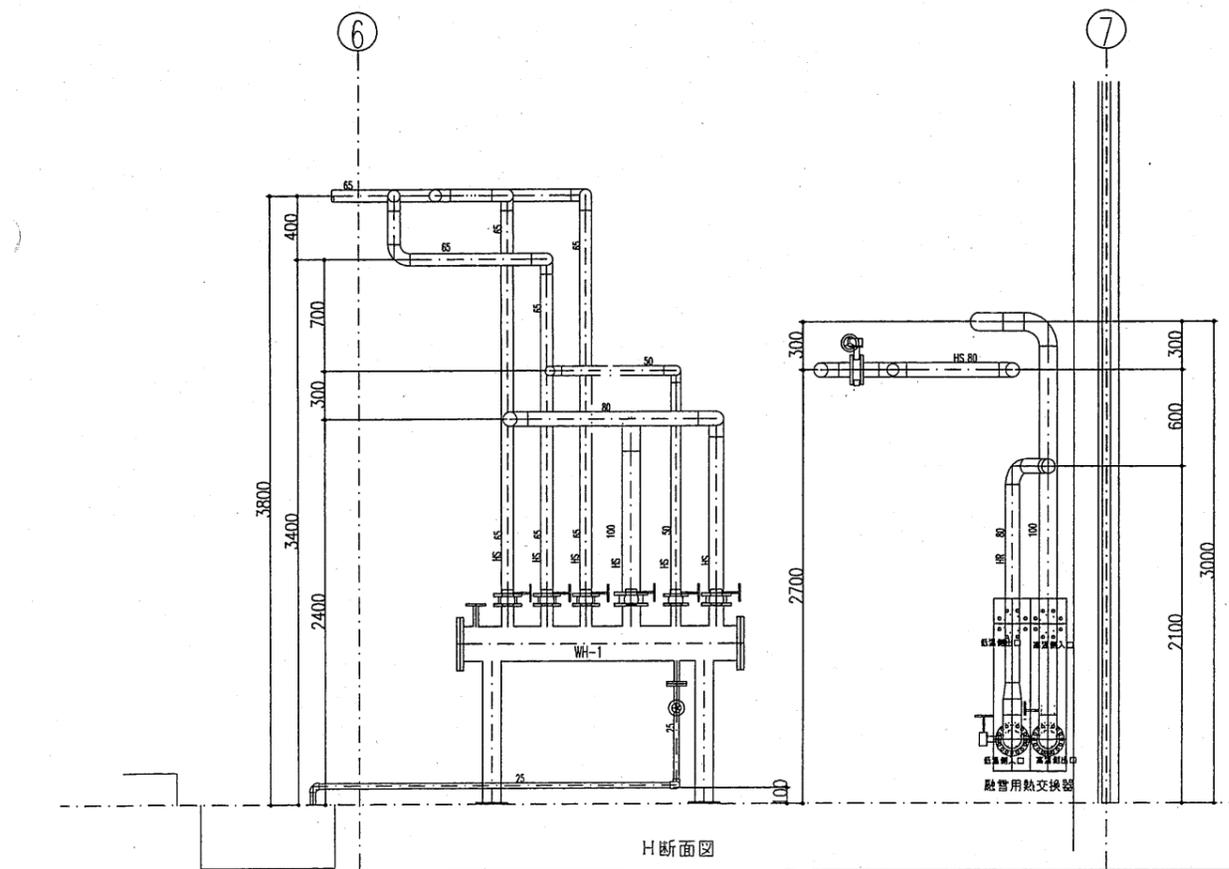


F断面図

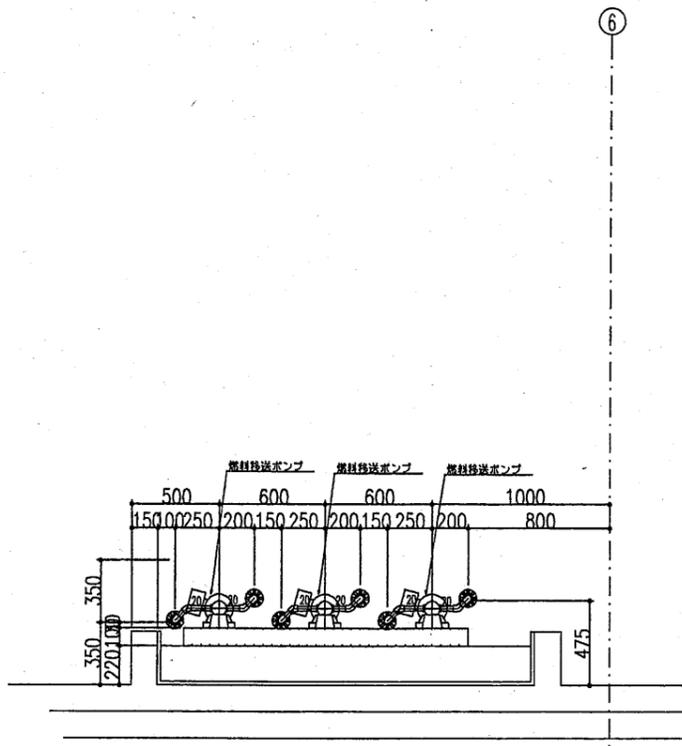
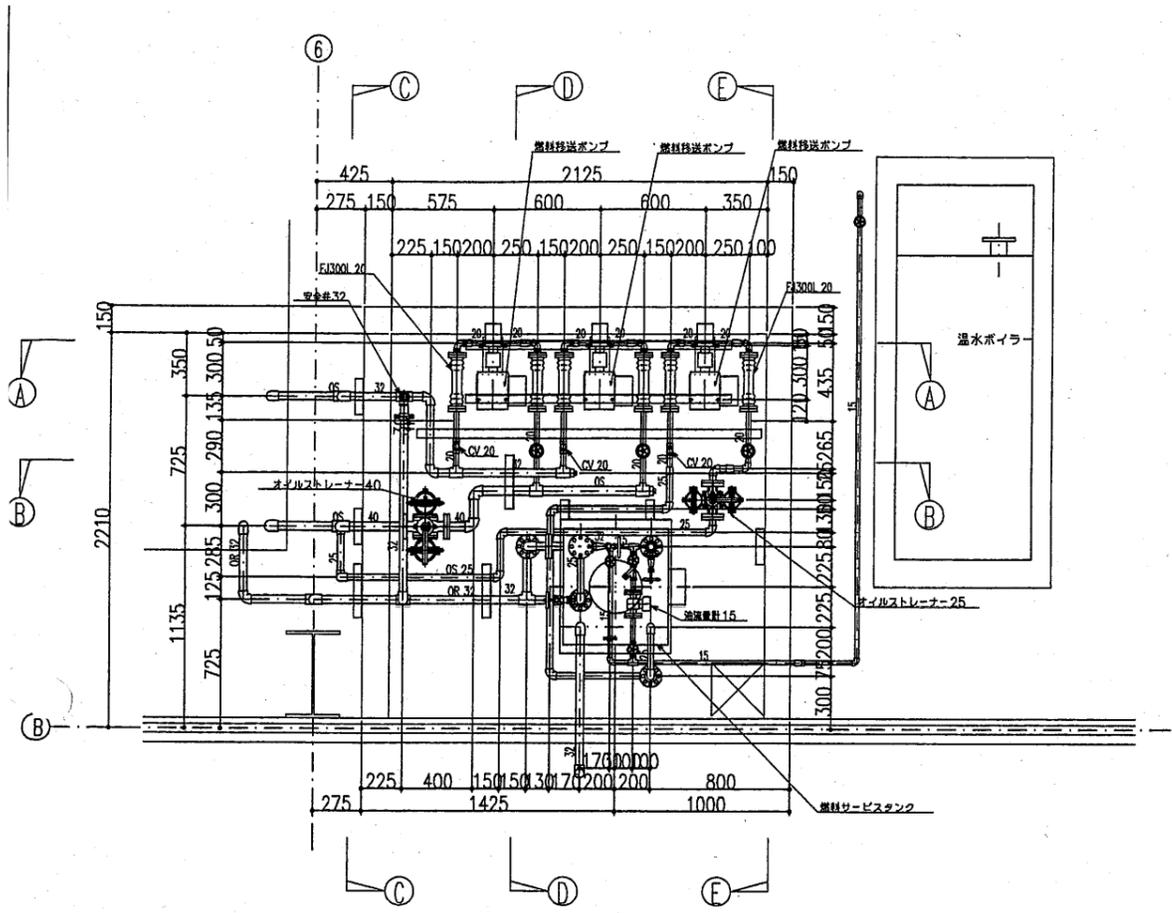


G断面図

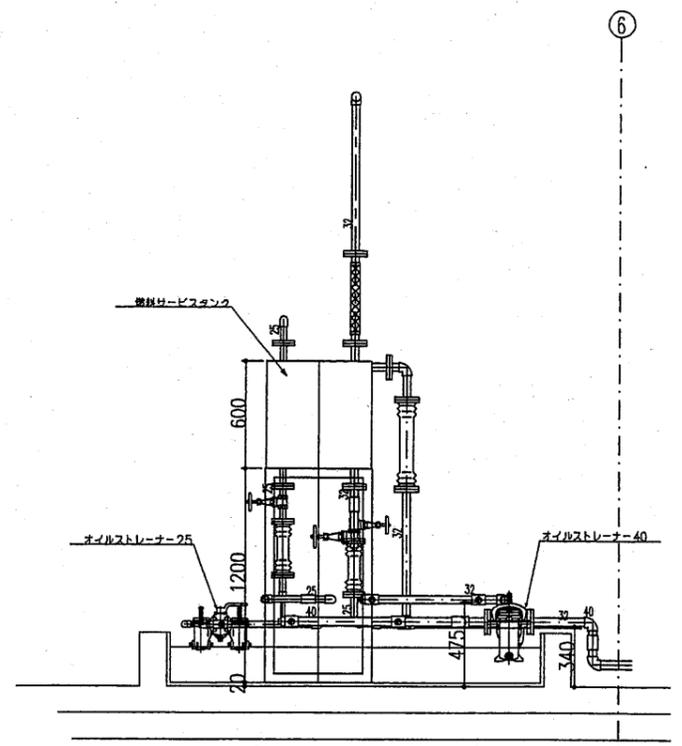
※全て撤去するものとする



H断面図

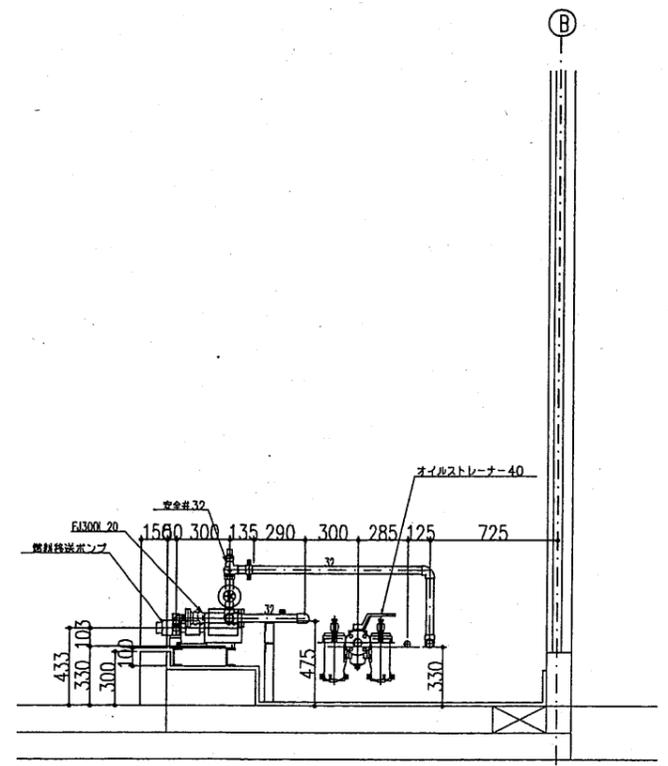


A断面図 S=1/20

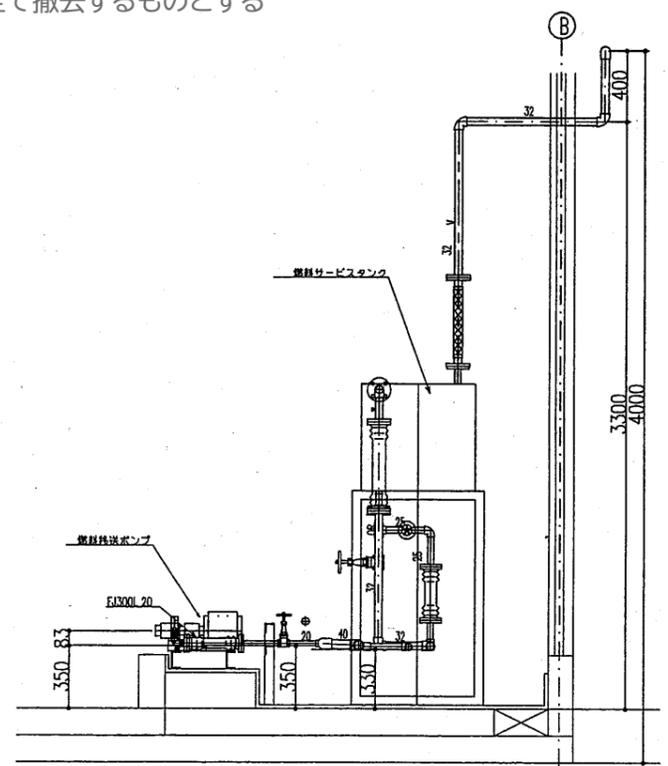


B断面図 S=1/20

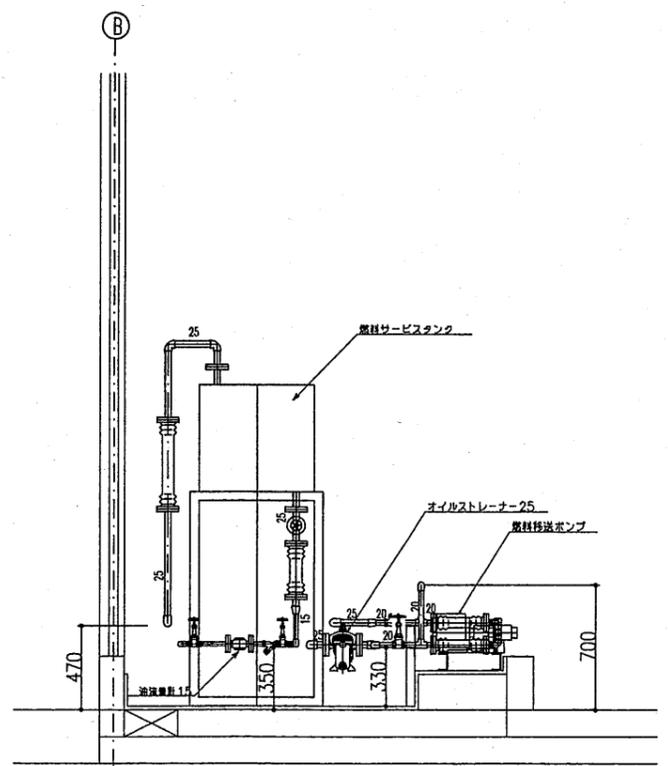
※全て撤去するものとする



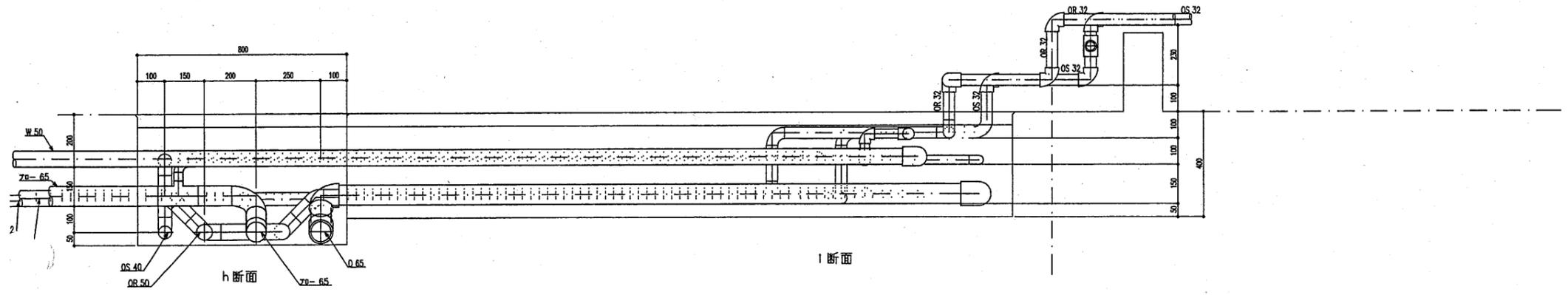
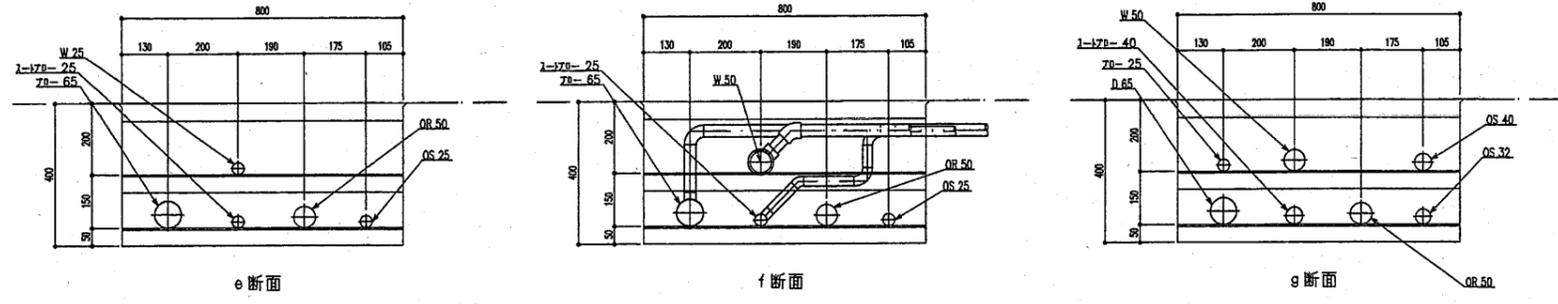
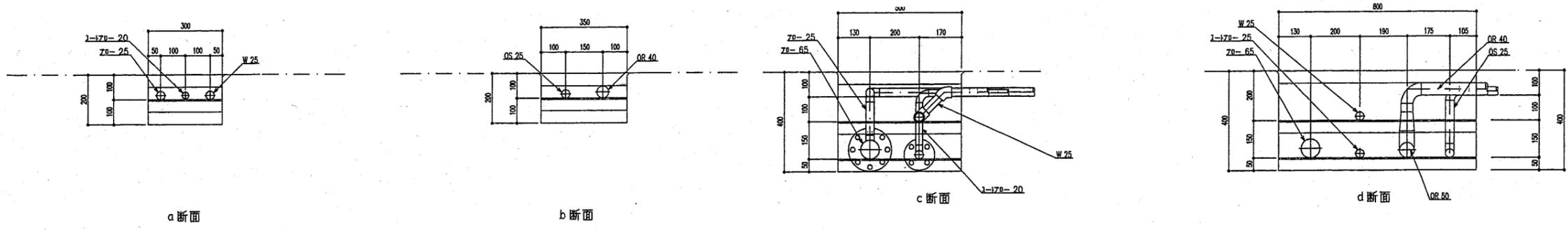
C断面図 S=1/20



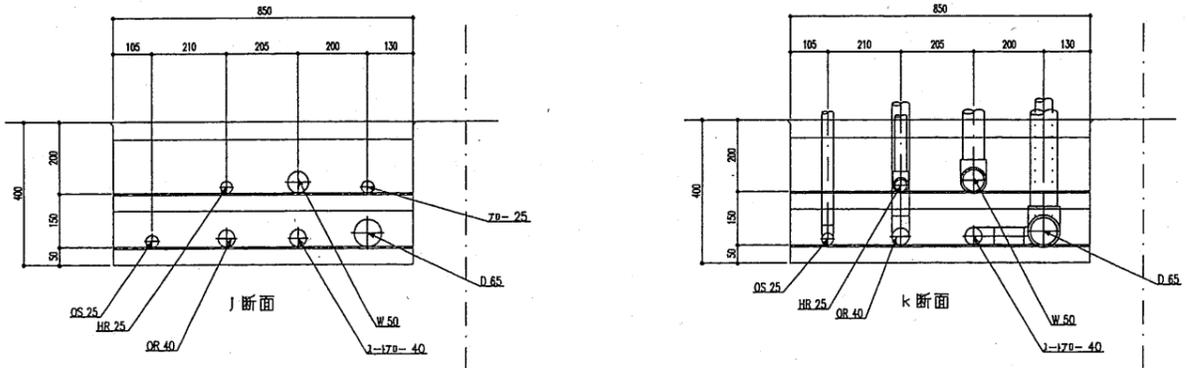
D断面図 S=1/20

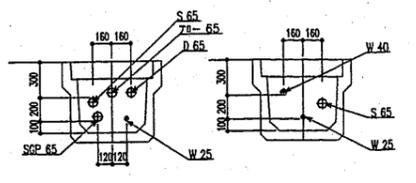
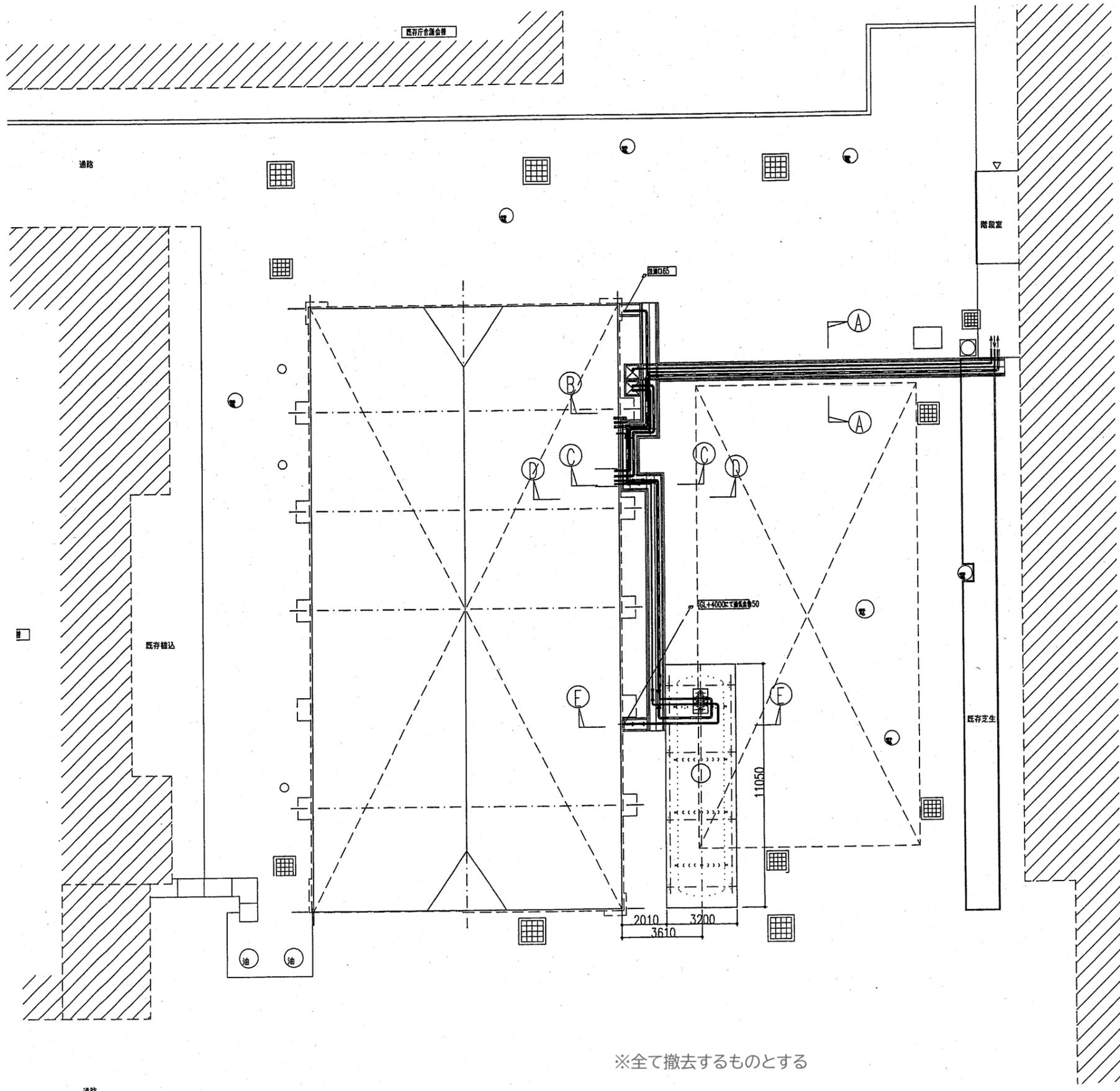


E断面図 S=1/20

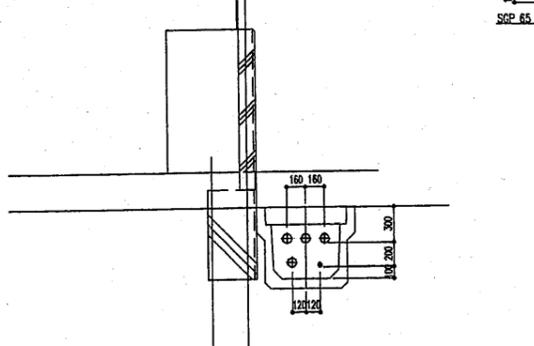


※全て撤去するものとする

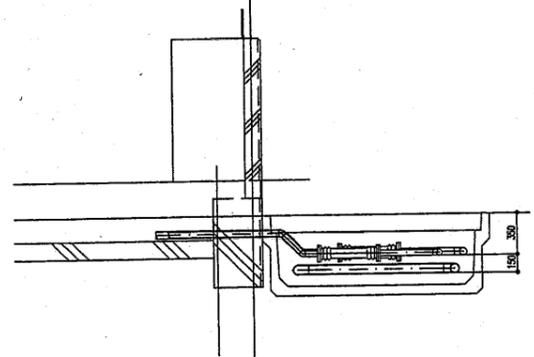




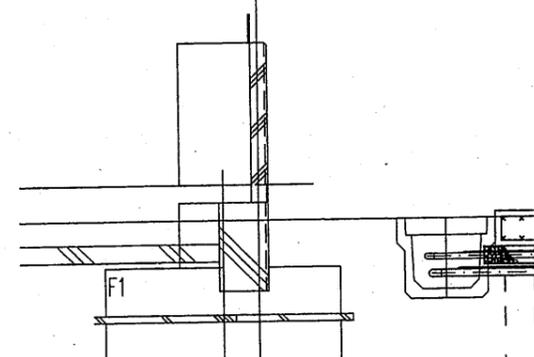
B 断面図 A 断面図



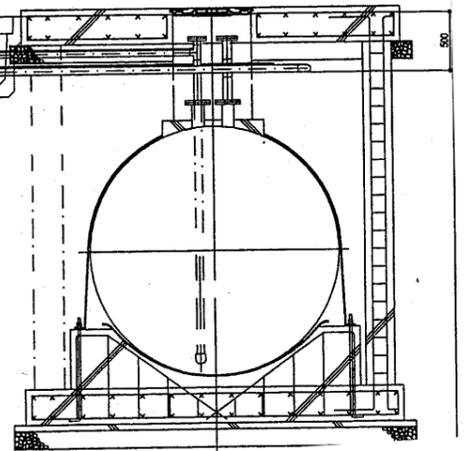
C 断面図



D 断面図

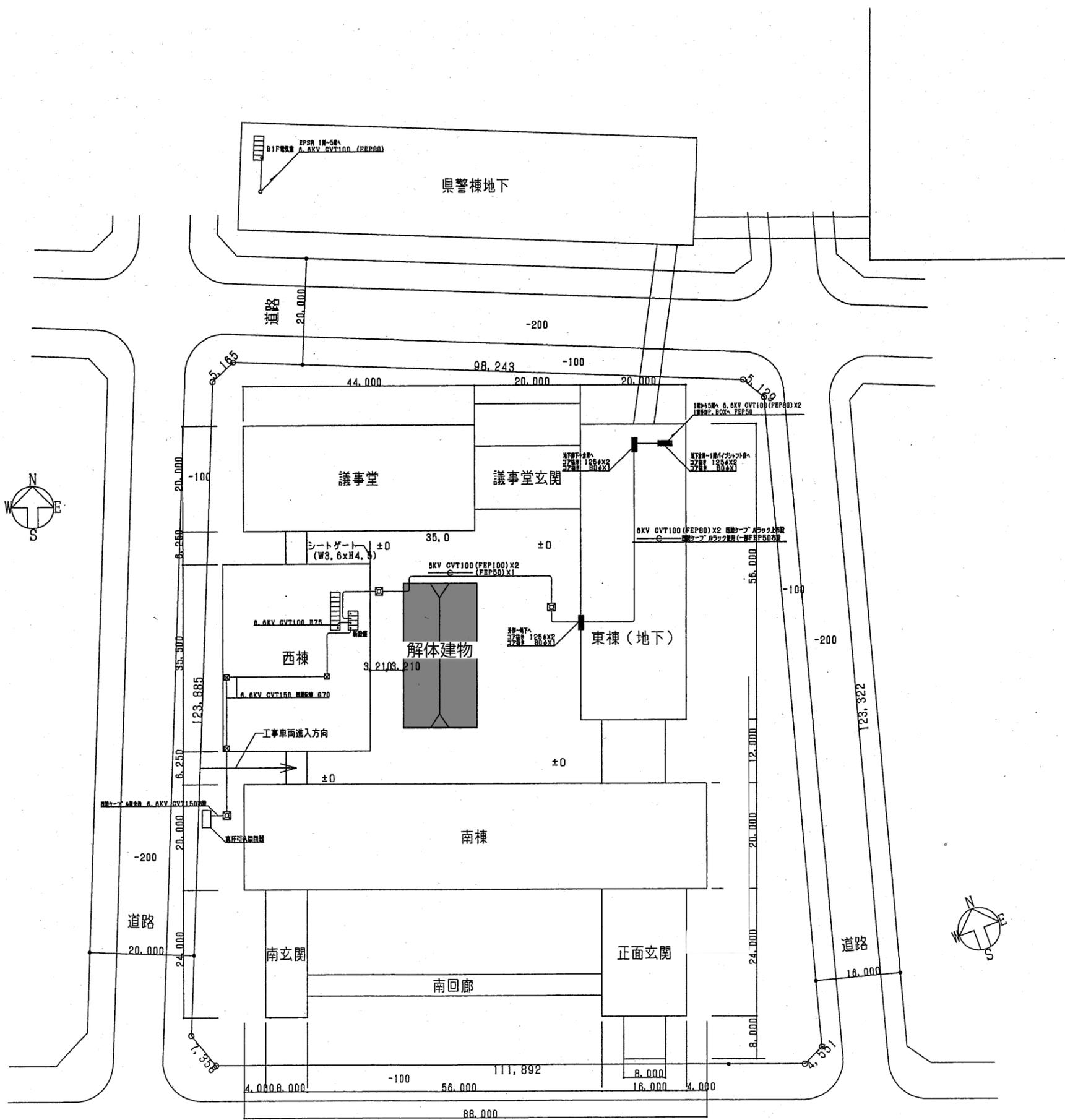


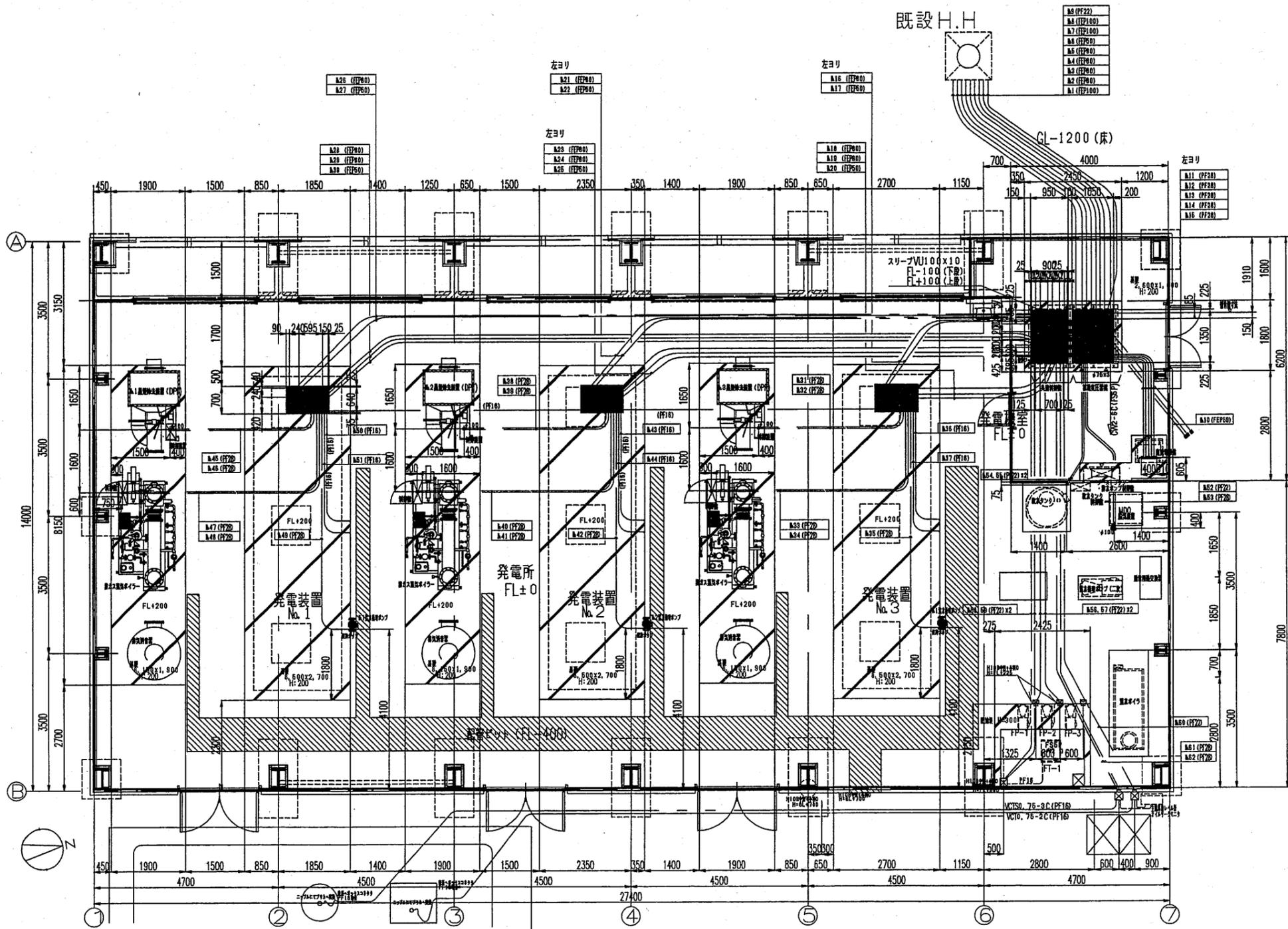
E 断面図



F 断面図

※全て撤去するものとする





※全て撤去するものとする

器具振りリスト

No.	器具名	仕様	数量	備考
1	FF100	5.6KV CV1100	1	
2	FF20	CV5-2C	1	
3	FF20	CV5-2C	1	
4	FF20	CV5-2C	1	
5	FF20	CV5-2C	1	
6	FF20	CV5-2C	1	
7	FF100	5.6KV CV1100	1	
8	FF100	5.6KV CV1100	1	
9	FF22	CV5-2C	1	
10	FF20	CV5-2C	1	
11	FF20	CV5-2C	1	
12	FF20	CV5-2C	1	
13	FF20	CV5-2C	1	
14	FF20	CV5-2C	1	
15	FF20	CV5-2C	1	
16	FF20	CV5-2C	1	
17	FF20	CV5-2C	1	
18	FF20	CV5-2C	1	
19	FF20	CV5-2C	1	
20	FF20	CV5-2C	1	
21	FF20	CV5-2C	1	
22	FF20	CV5-2C	1	
23	FF20	CV5-2C	1	
24	FF20	CV5-2C	1	
25	FF20	CV5-2C	1	
26	FF20	CV5-2C	1	
27	FF20	CV5-2C	1	
28	FF20	CV5-2C	1	
29	FF20	CV5-2C	1	
30	FF20	CV5-2C	1	
31	FF20	CV5-2C	1	
32	FF20	CV5-2C	1	
33	FF20	CV5-2C	1	
34	FF20	CV5-2C	1	
35	FF20	CV5-2C	1	
36	FF20	CV5-2C	1	
37	FF20	CV5-2C	1	
38	FF20	CV5-2C	1	
39	FF20	CV5-2C	1	
40	FF20	CV5-2C	1	
41	FF20	CV5-2C	1	
42	FF20	CV5-2C	1	
43	FF20	CV5-2C	1	
44	FF20	CV5-2C	1	
45	FF20	CV5-2C	1	
46	FF20	CV5-2C	1	
47	FF20	CV5-2C	1	
48	FF20	CV5-2C	1	
49	FF20	CV5-2C	1	
50	FF20	CV5-2C	1	
51	FF20	CV5-2C	1	
52	FF22	CV5-2C	1	
53	FF20	CV5-2C	1	
54	FF22	CV5-2C	1	
55	FF22	CV5-2C	1	
56	FF22	CV5-2C	1	
57	FF22	CV5-2C	1	
58	FF22	CV5-2C	1	
59	FF22	CV5-2C	1	
60	FF20	CV5-2C	1	
61	FF20	CV5-2C	1	
62	FF20	CV5-2C	1	

●は撤去工事を含む。(17)は工事

※全て撤去するものとする

既設 H.H

